女性法曹輩出に係る取組について
論点（案）

＜総論＞

○　女性法曹志望者の増加に向け、各法科大学院、各法曹コースにおいて、どのような工夫が講じられているか。また、今後、どのような取組・工夫をしていくことが考えられるか。

＜各論＞

○　過去から現在にかけて、女性の入学志願者や入学者（在籍者）の属性、キャリアプラン等に、何等か変化は見られるか。また、特に、法曹コースに在籍する女性割合が法学部よりも高い傾向にあることを踏まえ、女性の入学志望者や入学者（在籍者）の属性、キャリアプラン等に、何等か影響を与えている（与えそう）か。

○　上記の変化も踏まえた上で、女性法曹輩出に向け、キャリア支援、学修環境整備等の面において、女性特有の事情としてどのような課題があり、その課題に対応するため、どのような取組・工夫が今後必要と考えられるか。

○　女性法曹輩出に向けた裾野を拡大するため、法曹志望者の主たる入口である法学部をはじめ、他学部、高校生、社会人等が法曹を志し、法科大学院に進学するインセンティブを高めるためには、広報や情報発信をはじめ、どのような取組・工夫が考えられるか。また、各段階において、女性法曹のロールモデルを提示していくために、法曹界（裁判所、検察庁、弁護士会）等とどのような組織的連携が可能か。

○　社会人女性が法曹を志すため、法科大学院に通うにあたり、女性特有の事情としてどのような課題があり、その課題に対応するため、どのような共通理解や支援が必要と考えられるか。

○　上記の取組・工夫を、全ての法科大学院へ展開していくためには、どのような方策が考えられるか（ex,複数の法科大学院がその一つを基幹校とした連携等）

文部科学省

女性法曹輩出拡大に係る関連データ

中央教育審議会大学分科会法科大学院等特別委員会（第116回）資料
文部科学省高等教育局専門教育課

第２部　政策編

Ⅰ　あらゆる分野における女性の参画拡大

第１分野　政策・方針決定過程への女性の参画拡大

○（略）2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%程度となるよう目指して取組を進める。このため、令和7(2025)年度末までに成果目標を着実に達成するとともに、指導的地位に占める女性の割合についてモニタリングを充実させ、これに基づき必要な対応を加速させるなど、取組を強化する。さらに、その水準を通過点として、男女が社会の対等な構成員として政策・方針決定過程に共同して参画する機会が確保され、女性の参画拡大が継続的に進展するよう取組を進め、指導的地位に占める女性の割合が30%を超えて更に上昇し、2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す。

＜施策の基本的方向と具体的な取組＞

２　司法分野

（１）施策の基本的方向

○ 司法分野においては、法曹三者の女性の割合は上昇している。
○ さらに法曹養成課程において女性法曹の養成に向けた取組を進め、法曹の指導的地位を含め、女性の登用・活躍を加速する。
○ 検察官については、継続就業に配慮する取組を進めるとともに、女性検察官の計画的育成やキャリア形成支援に努めるなどし、女性検察官の登用拡大に向けた取組を加速する。
○ 裁判官については、就業継続への配慮、女性裁判官の成長やキャリア形成の支援等に関する自主的取組などの女性裁判官の一層の活躍に向けた取組を行うことを適切に要請する。
○ 弁護士については、関係機関との連携を強化するとともに、各種必要な情報を提供するなど、各団体における取組を促進することにより、女性弁護士の確保に向けた取組を行うことを適切に要請する。

（２）具体的な取組

ア　検察官

①女性検察官の積極的な登用を進めるとともに、出産・育児休業を経て子育てをしながら勤務する女性検察官や、法務省・他省庁に出向して活躍する女性検察官などのロールモデルとなる女性法曹による教育等を通じ、法曹養成課程における女性法曹輩出のための取組（活躍事例の提供、メンター制度の充実等）を進める。【法務省】

②継続就業のため、転勤の際に両立環境の整備に配慮するなど、ワーク・ライフ・バランスの実現等に向けた具体的施策を着実に推進する。【法務省】

イ　裁判官

①最高裁判事も含む裁判官全体に占める女性の割合を高めるよう裁判所等の関係方面に要請する。【内閣府、法務省】

②多様なキャリアプランがあることを前提に、出産・育児休業を経て子育てをしながら勤務する女性裁判官や、様々な役割を担って各裁判所で活躍する女性裁判官などのロールモデルとなる女性法曹による教育等を通じ、法曹養成課程における女性法曹輩出のための取組（活躍事例の提供、メンター制度の導入等）を要請する。【内閣府、法務省】

③継続就業のため、転勤の際に両立環境の整備に配慮するなど、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を着実に進めるよう要請する。【内閣府、法務省】

ウ　弁護士

①出産・育児休業を経て子育てをしながら執務する女性弁護士や、企業、中央省庁及び地方公共団体等の組織で勤務する女性弁護士など、多様な働き方を実現している女性法曹がロールモデルとなって行う教育等を通じ、法曹養成課程における女性法曹輩出のための取組（活躍事例の提供、メンター制度等の充実等）を要請する。【内閣府、法務省】

②継続就業のための環境整備に配慮する取組を進め、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を着実に進めるよう要請する。【内閣府、法務省】

③弁護士会内部でのクオータ制を含めた積極的改善措置（ポジティブ・アクション）の取組が更に広がるよう検討を要請する。【内閣府、法務省】

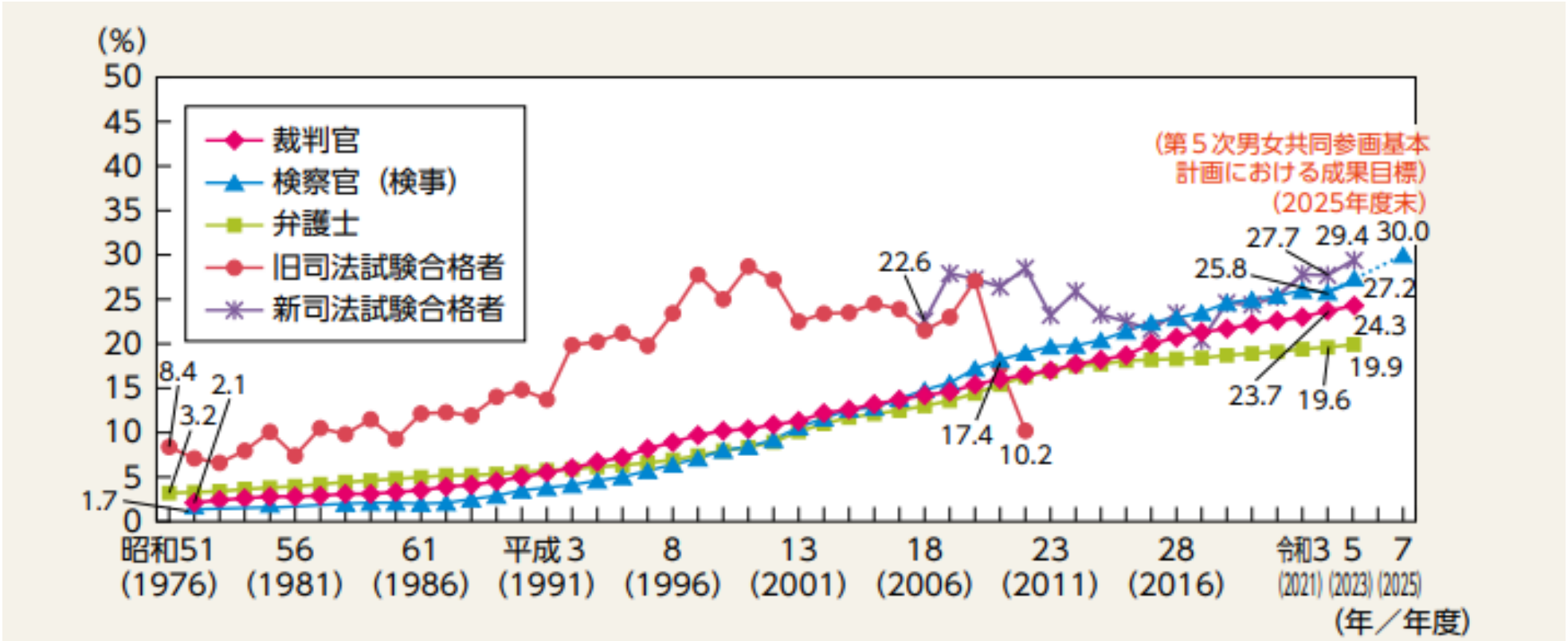
エ　法曹養成課程

①法科大学院の公的支援の枠組や、法曹養成課程における女性法曹輩出のための取組例を各法科大学院に共有することなどを通じて各法科大学院における女性法曹輩出のための取組を促す。【文部科学省】

司法分野における女性の割合

○ 裁判官、検察官（検事）及び弁護士に占める女性の割合は、裁判官が24.3%（令和4（2022）年12月現在）、検察官（検事）が27.2%（令和5（2023）年3月31日現在）、弁護士が19.9%（令和5（2023）年9月30日現在）。

○ 司法試験合格者に占める女性の割合は、平成4（1992）年以降はおおむね2～3割で推移しており、令和5（2023）年は29.4%。



（備考）１．裁判官については最高裁判所資料より作成。
２．検察官（検事）、司法試験合格者については法務省資料より作成。
３．弁護士については日本弁護士連合会事務局資料より作成。
４．裁判官は平成26（2014）年までは各年４月現在、平成27（2015）年以降は前年12月現在、検察官（検事）は各年３月31日現在。弁護士は年により異なるが、令和５（2023）年は９月30日現在。司法試験合格者は各年の値。

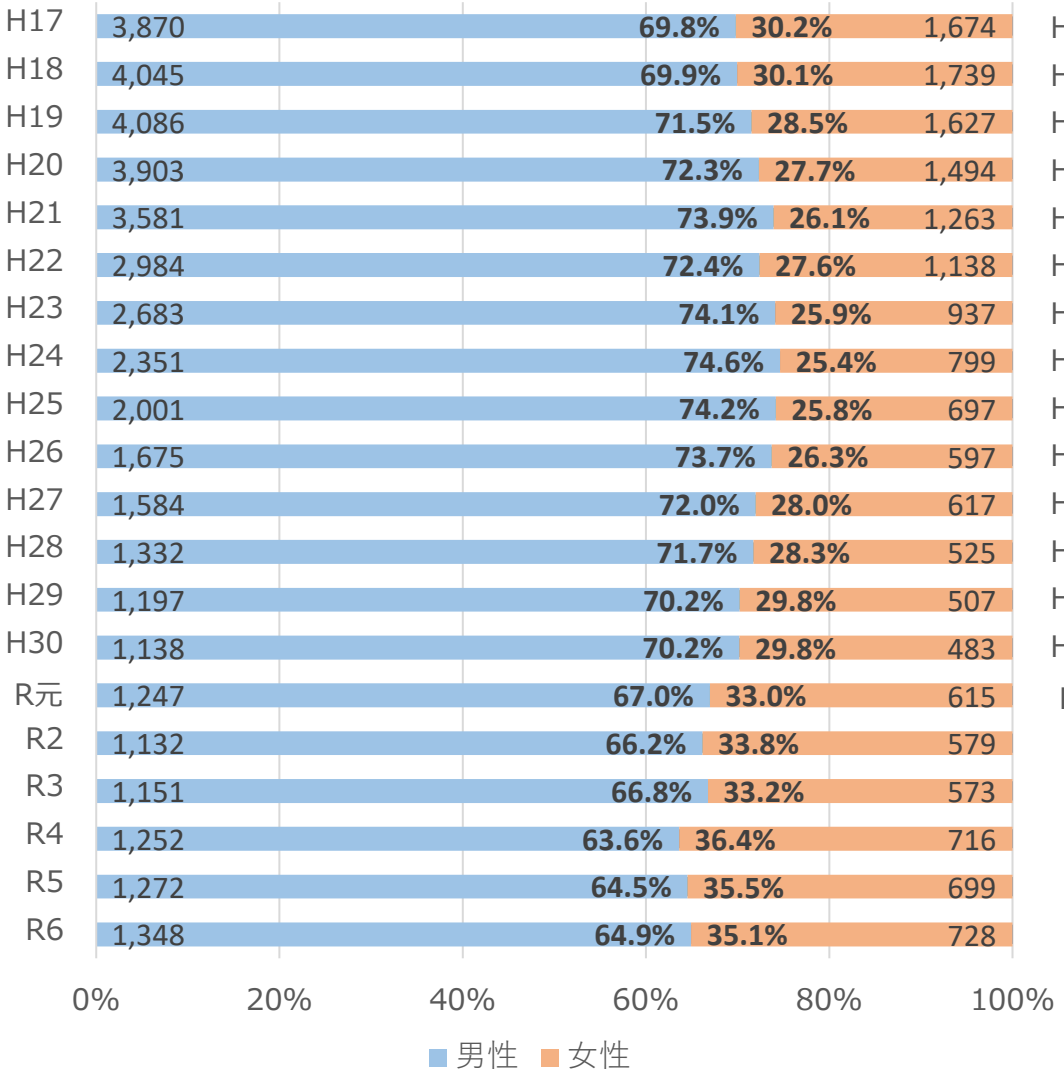
出典：男女共同参画白書令和6年版

法科大学院における入学者・修了者の男女比（全体）

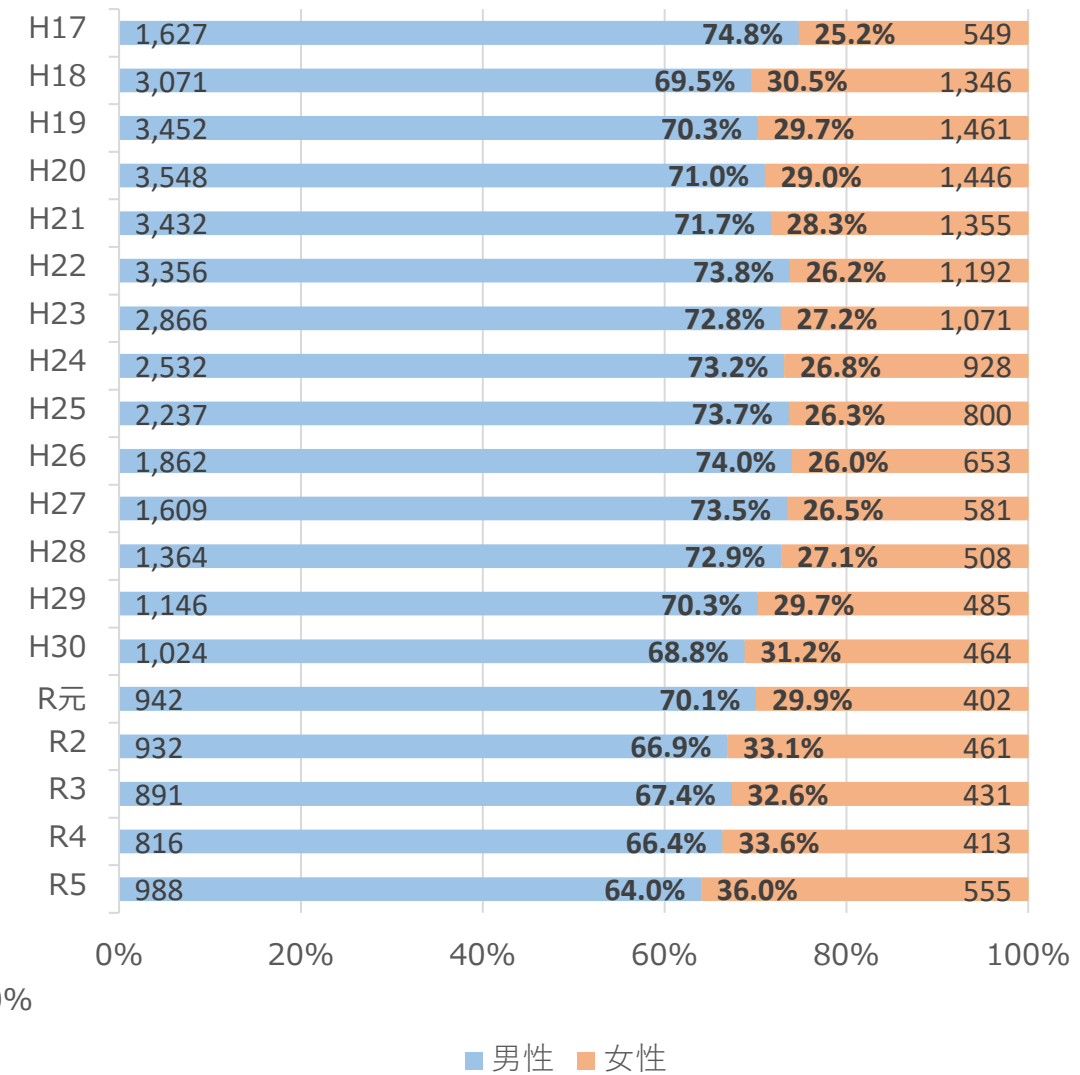
○ 女性法曹拡大には、法科大学院への入学者に占める女性の数・割合を一定数確保していくことが必要である。

○ 入学者及び修了者に占める女性の数・割合は増加傾向にある。（ただし、入学者数＝修了者数ではないことに留意が必要。）

法科大学院入学者の男女比



法科大学院修了者の男女比



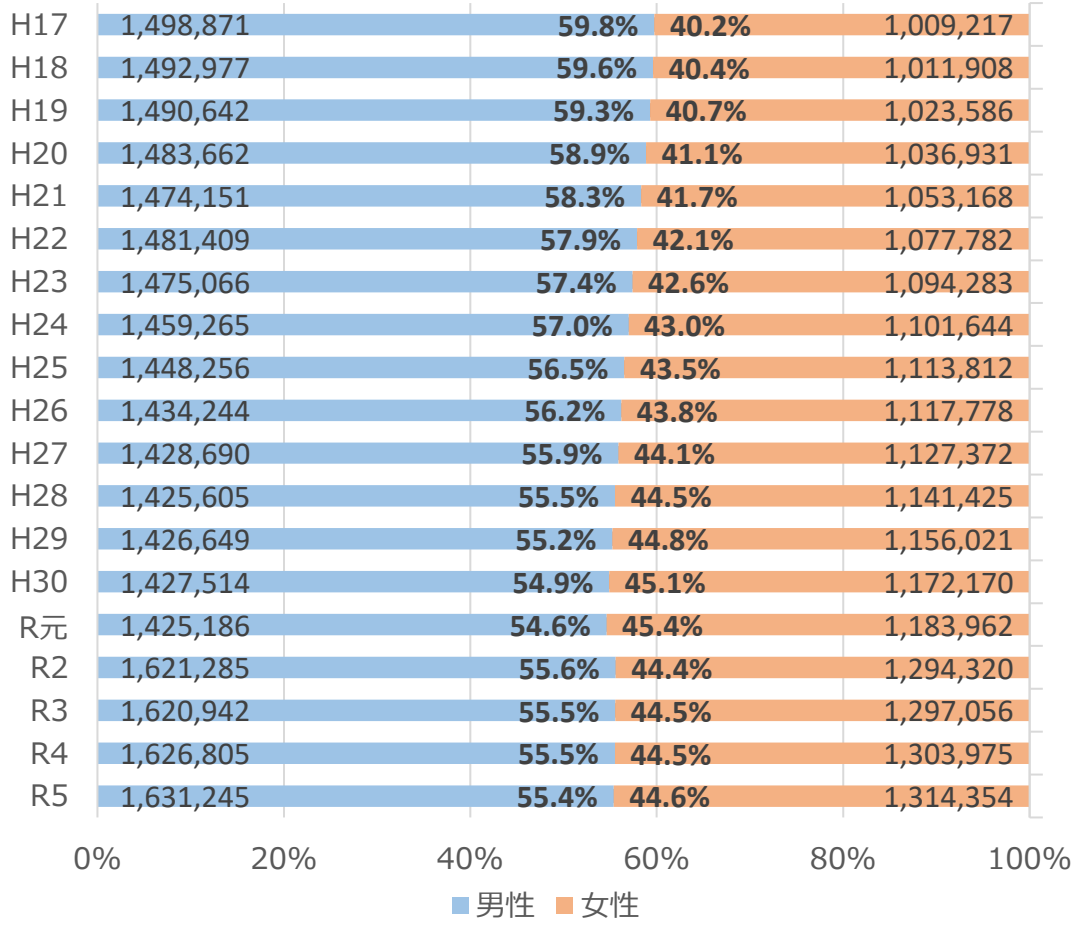
※法科大学院入学者は法科大学院等関係状況調査、法科大学院修了者は学校基本調査に基づき作成。

大学（学部）における男女比

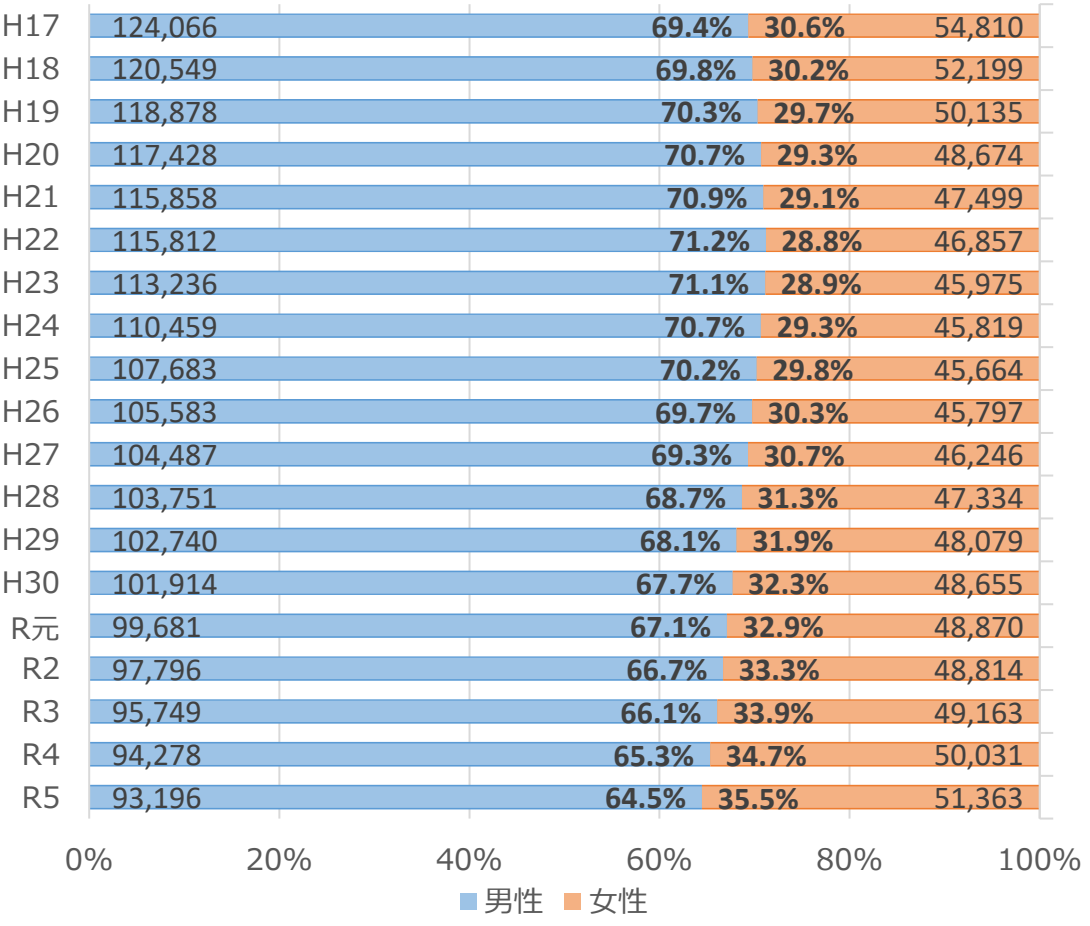
○ 大学の全学部の在籍者に占める女性割合よりも、法学部の在籍者に占める女性割合は10ポイント程度低い。

○ 一方、法曹コースの在籍者に占める女性の割合は、法学部より高く、年々、数・割合ともに増加傾向にある。

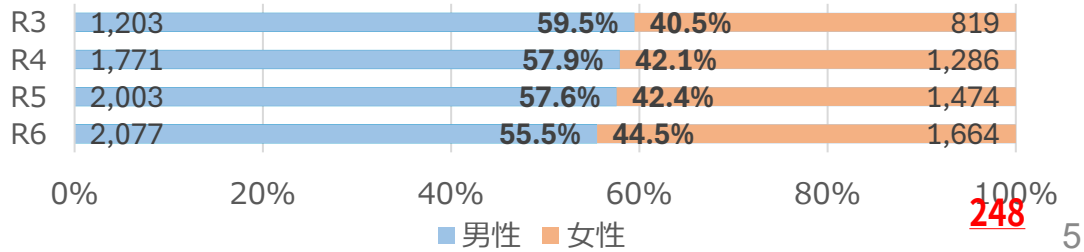
大学における全学部在籍者の男女比



大学における法学部在籍者の男女比



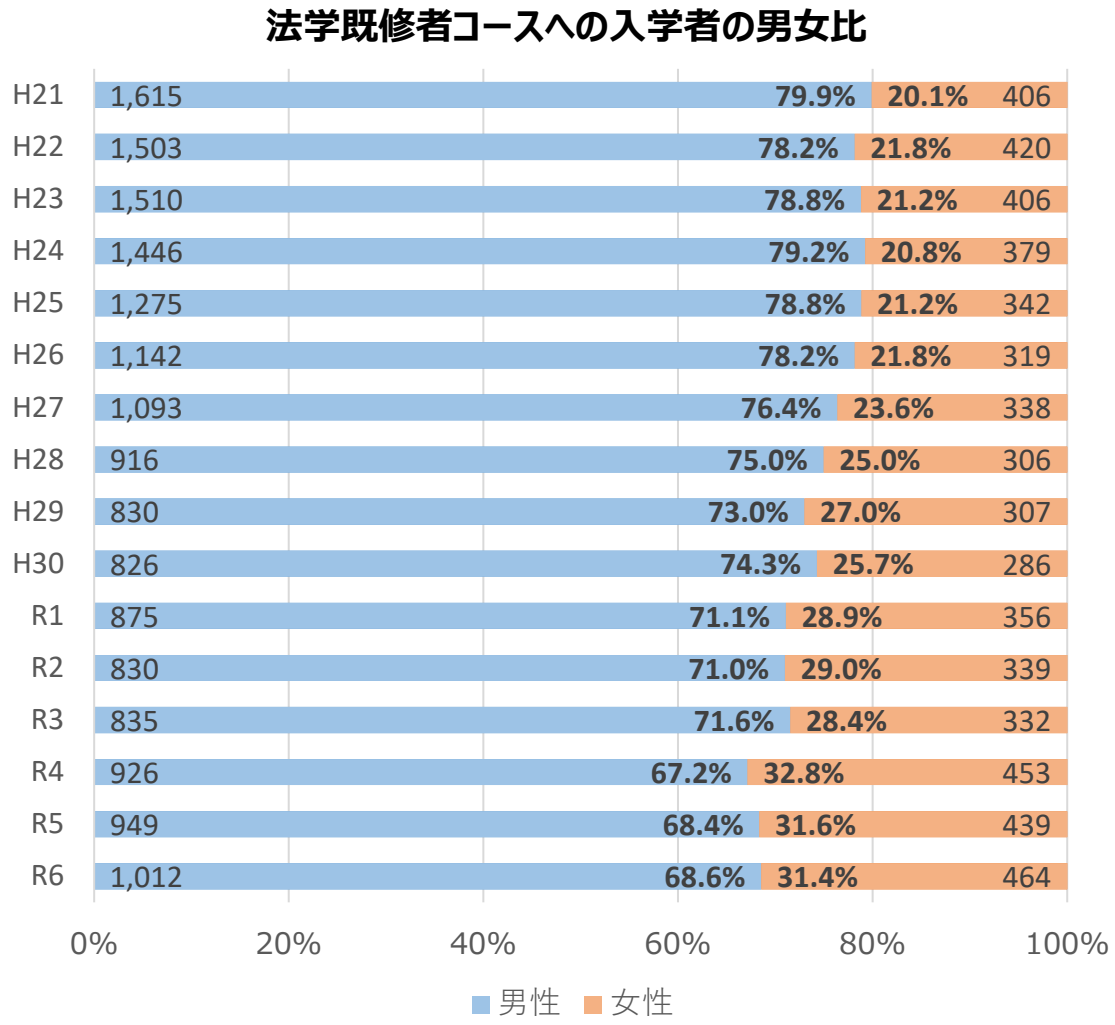
法曹コース在籍者の男女比

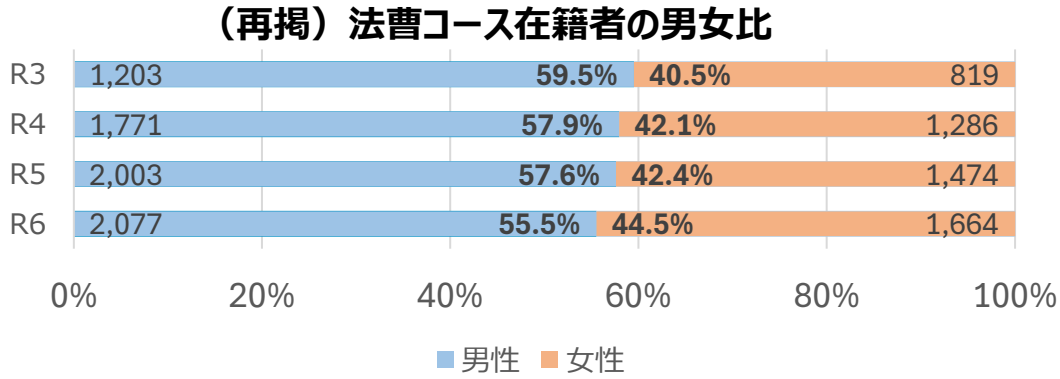


※全学部及び法学部在籍者の男女比は学校基本調査に基づき作成。
なお、法学部に「法政学部」等は含まない。
※法曹コース在籍者の男女比は法曹コースの実態調査に基づき作成。

法学既修者コースにおける入学者と法曹コース在籍者の男女比

○ 法学既修者コースへの入学者に占める女性の数・割合は、法曹コースからの入学者を受け入れた令和4年度以降、顕著に増加している。



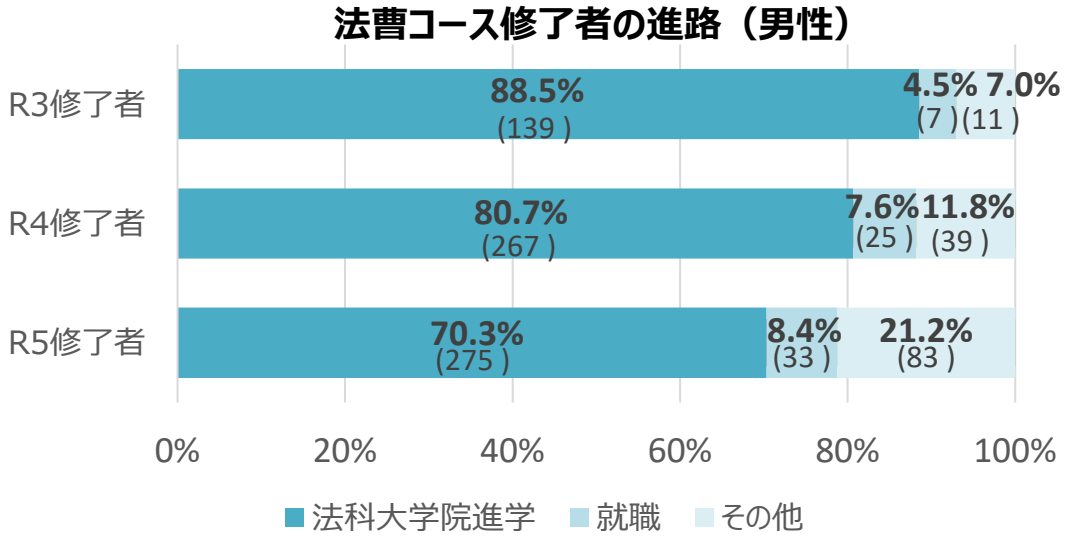


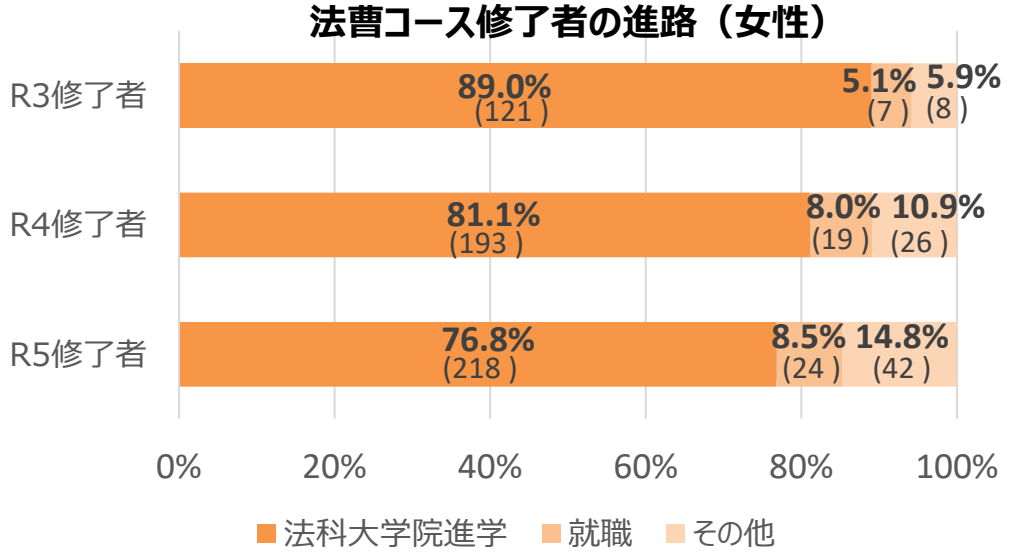
※法科大学院等関係状況調査に基づき作成。

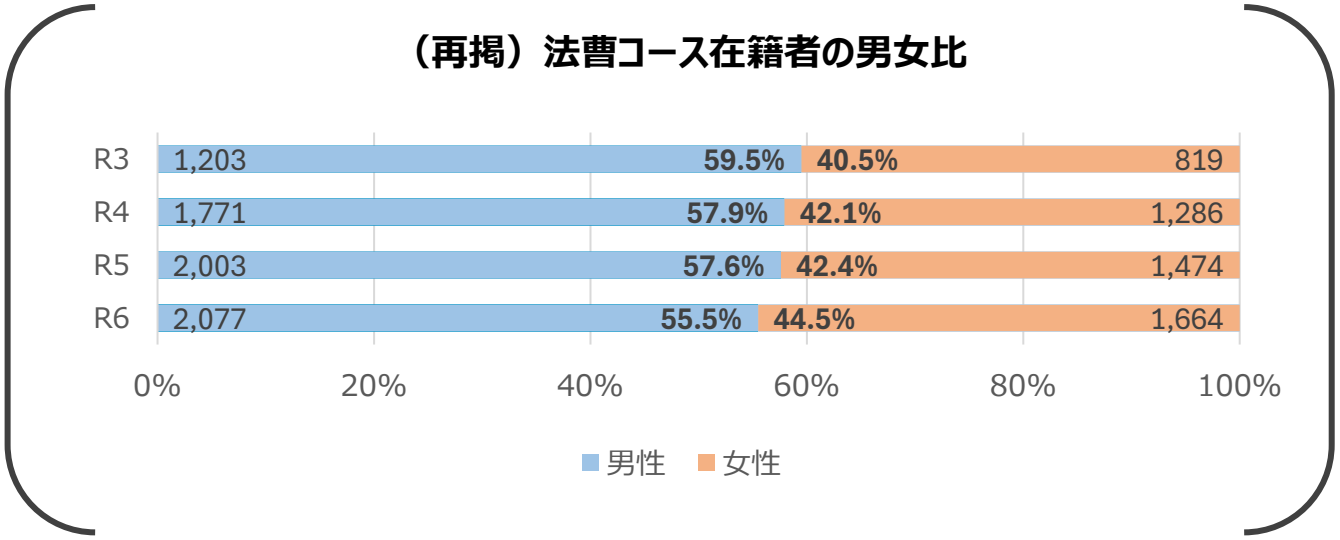
法曹コースにおける修了後の進路の男女比

○ 法曹コース修了者の進路における男女の差は、あまり見られない。

○ 法科大学院への進学者数は男女ともに増加傾向にある。







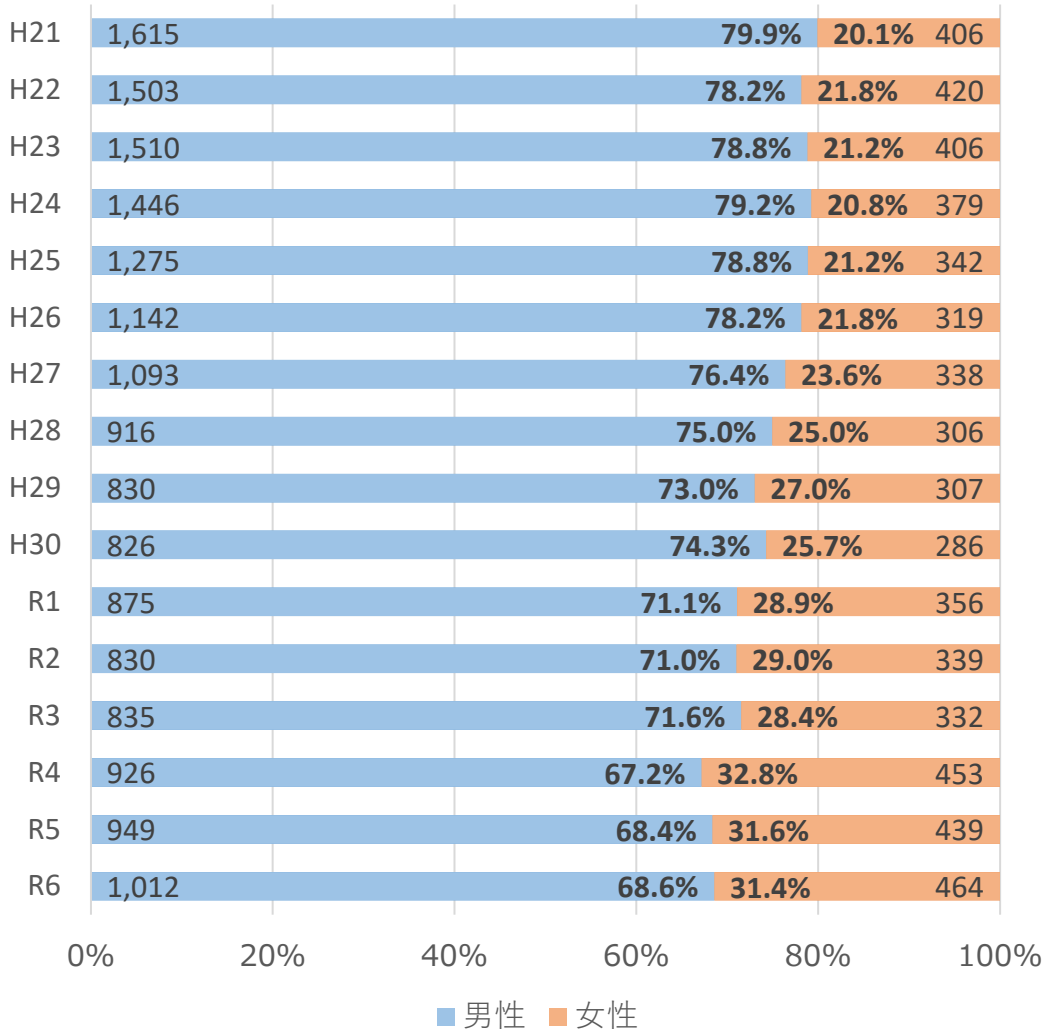
※法曹コースに関する実態調査に基づき作成。

法学既修者コースと法学未修者コースにおける入学者の男女比

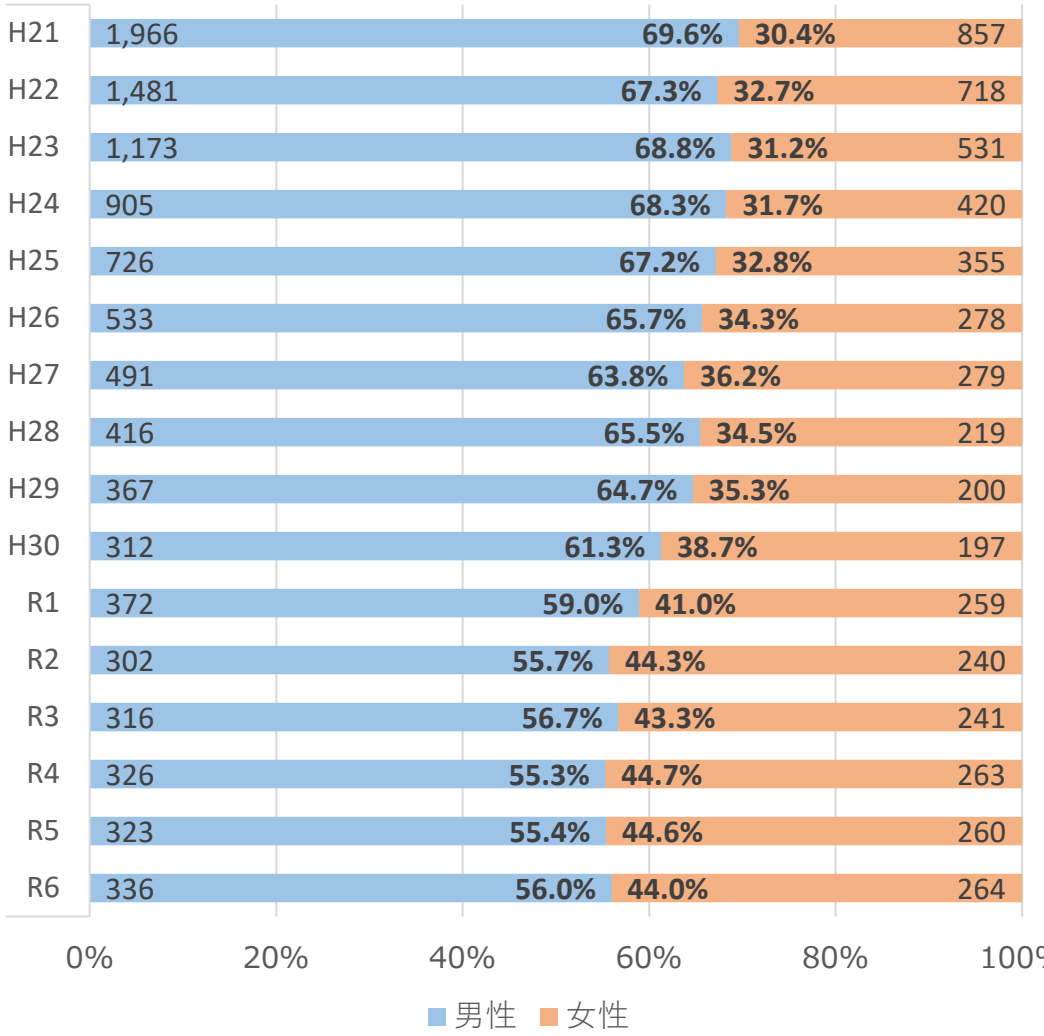
○ 法学既修者コース、法学未修者コースともに、入学者に占める女性の数・割合は近年は増加傾向にある。

○ 法学既修者コースと法学未修者コースに占める女性の割合は、法学未修者コースの方が高い。

（再掲）法学既修者コースへの入学者の男女比



法学未修者コースへの入学者の男女比

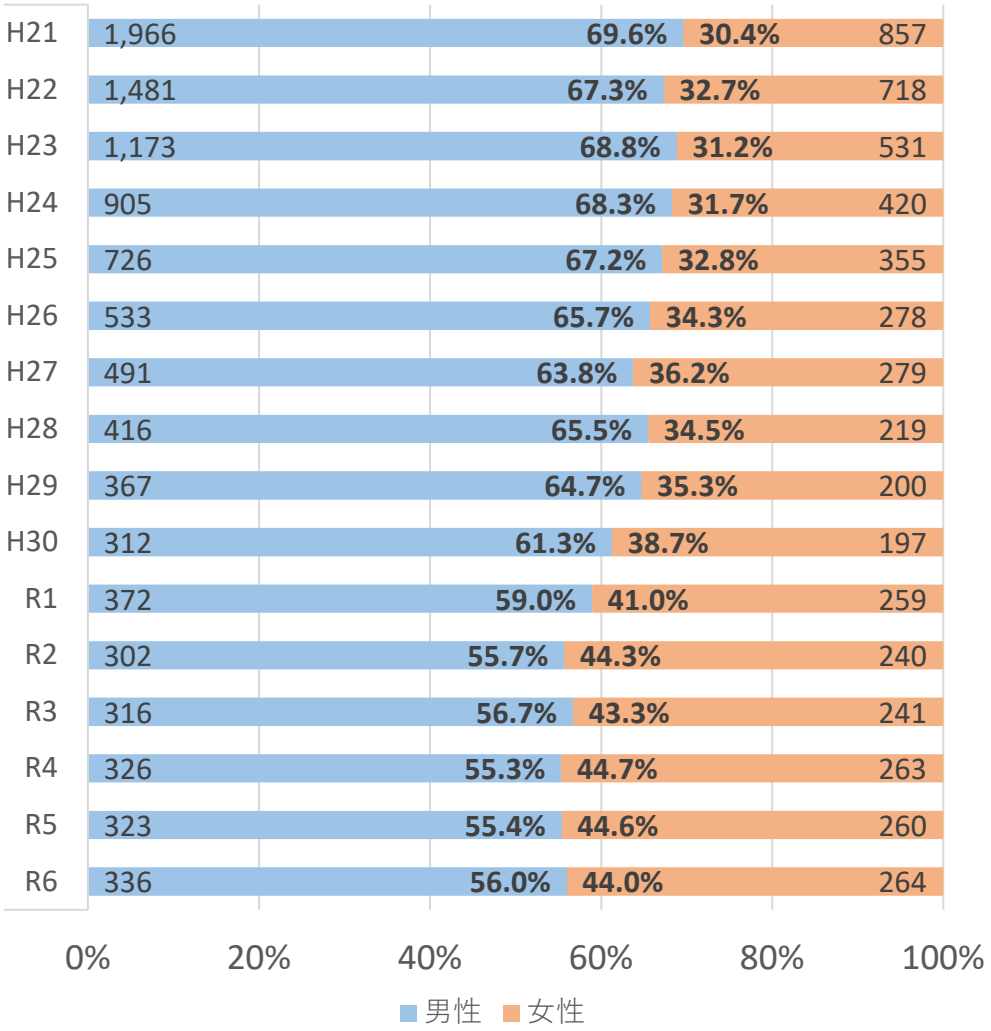


※法科大学院等関係状況調査に基づき作成。

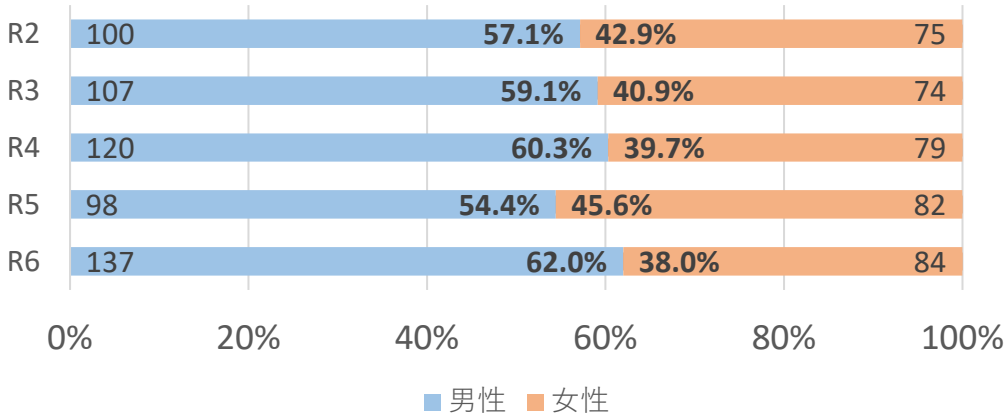
法学未修者コースに占める、いわゆる「純粋未修者」の男女比

○ 法学未修者コースに占める、法学を履修する課程以外の課程以外の出身者（いわゆる「純粋未修者」）の女性割合は年によってばらつきがあるが、一定数を占めている。

（再掲）未修者コースへの入学者の男女比



未修者コース入学者のうち、純粋未修者の男女比

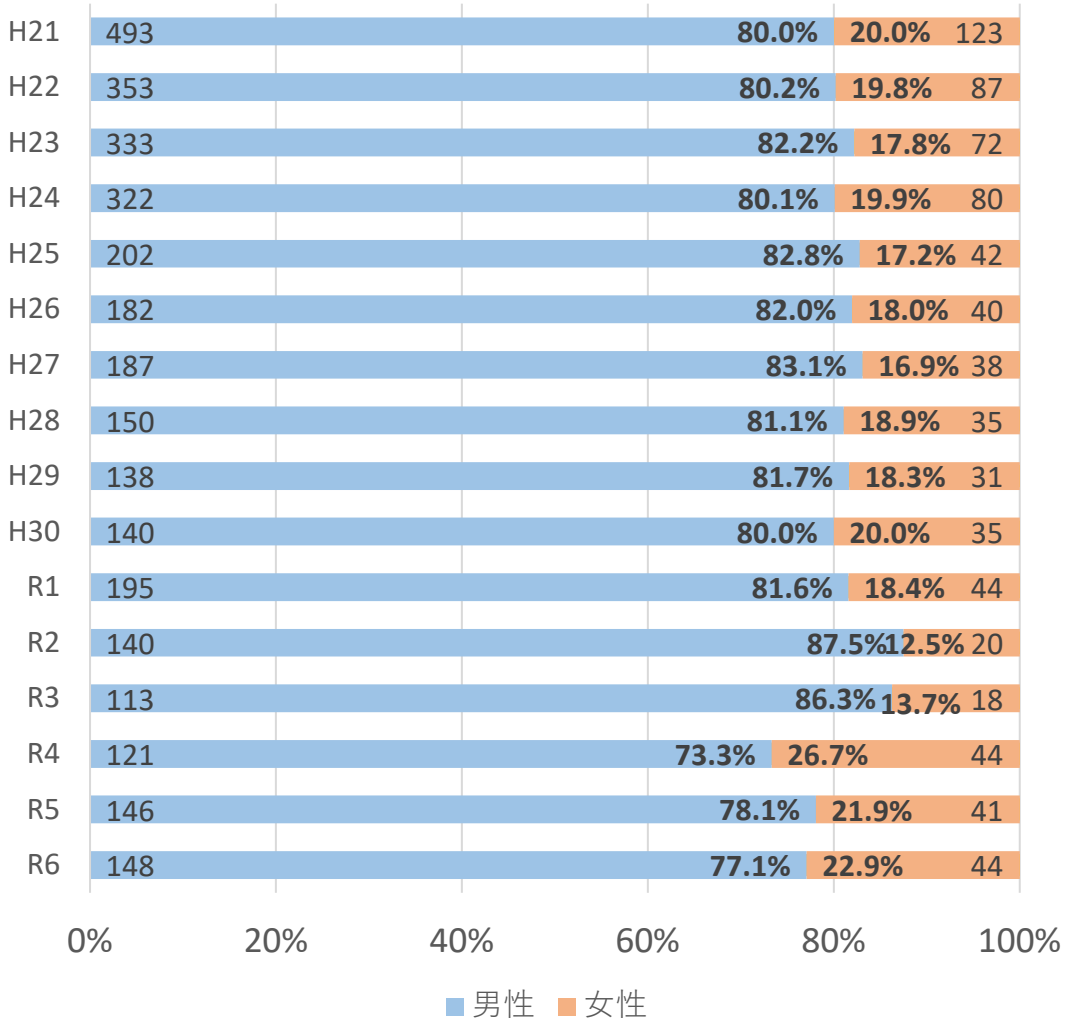


※法科大学院等関係状況調査に基づき作成。

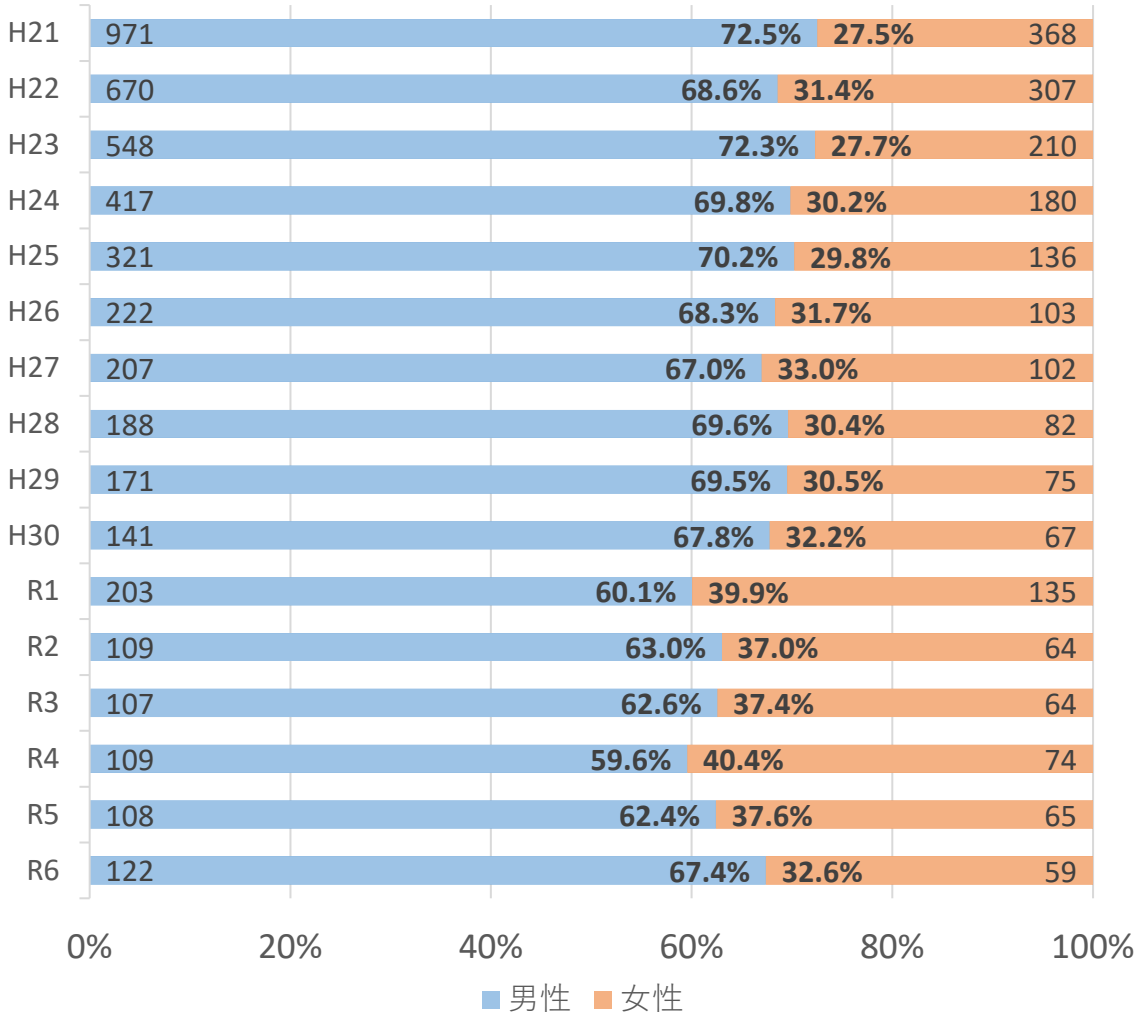
法学既修者／法学未修者コースにおける入学者に占める社会人経験者の男女比

○ 入学者のうち、社会人経験を有する者の女性の数・割合については、法学未修者コースの方が高い。

法学既修者コースへの入学者のうち社会人経験を有する者の男女比



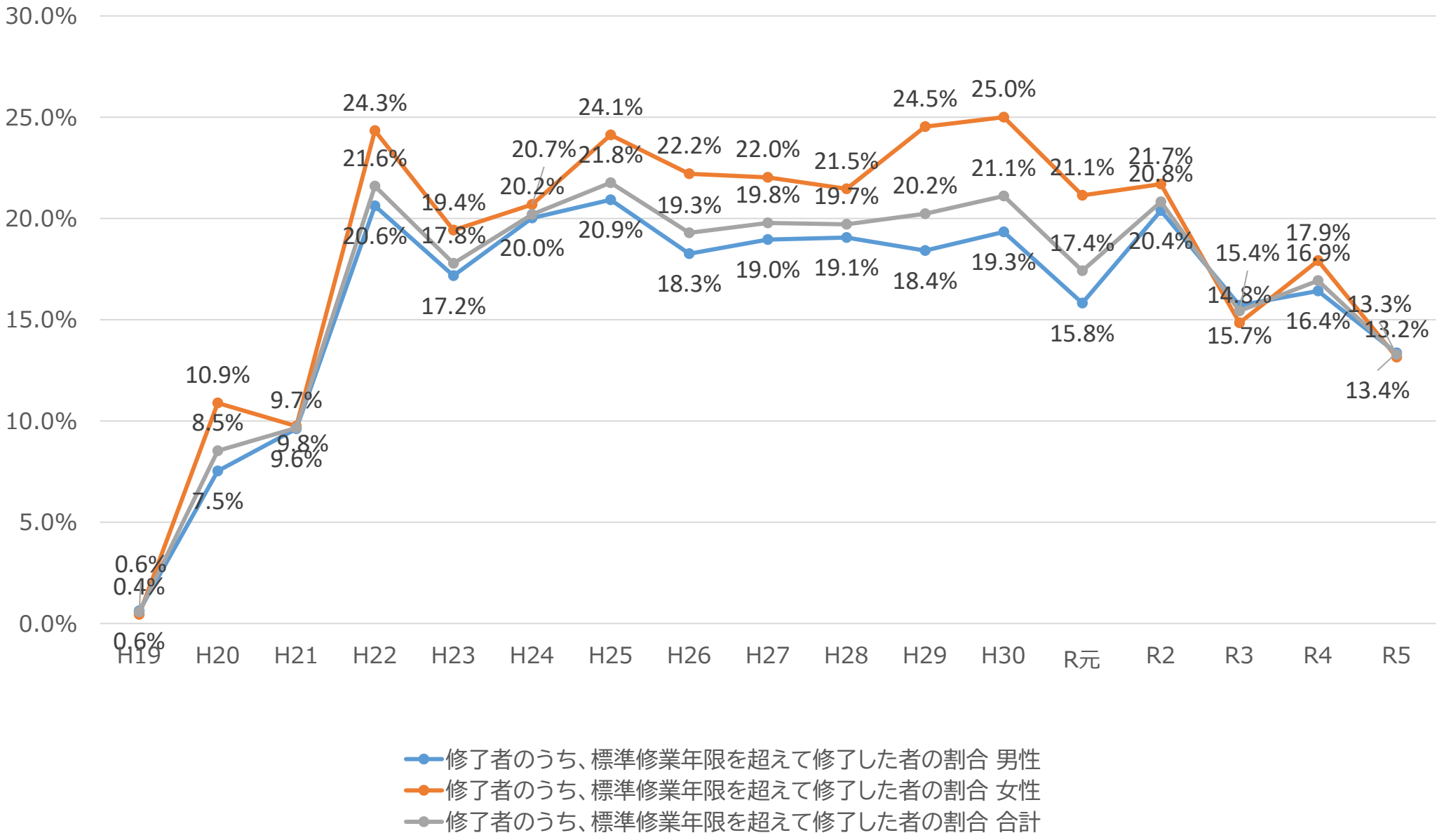
法学未修者コースへの入学者のうち社会人経験を有する者の男女比



※法科大学院等関係状況調査に基づき作成。

修了者に占める、標準修業年限を超えて修了した者の割合の推移（男女別）

○ 年度によってばらつきがあるが、割合のみでみると、女性の方が標準修業年限を超えて修了する傾向にあるが、近年その差は縮小している。

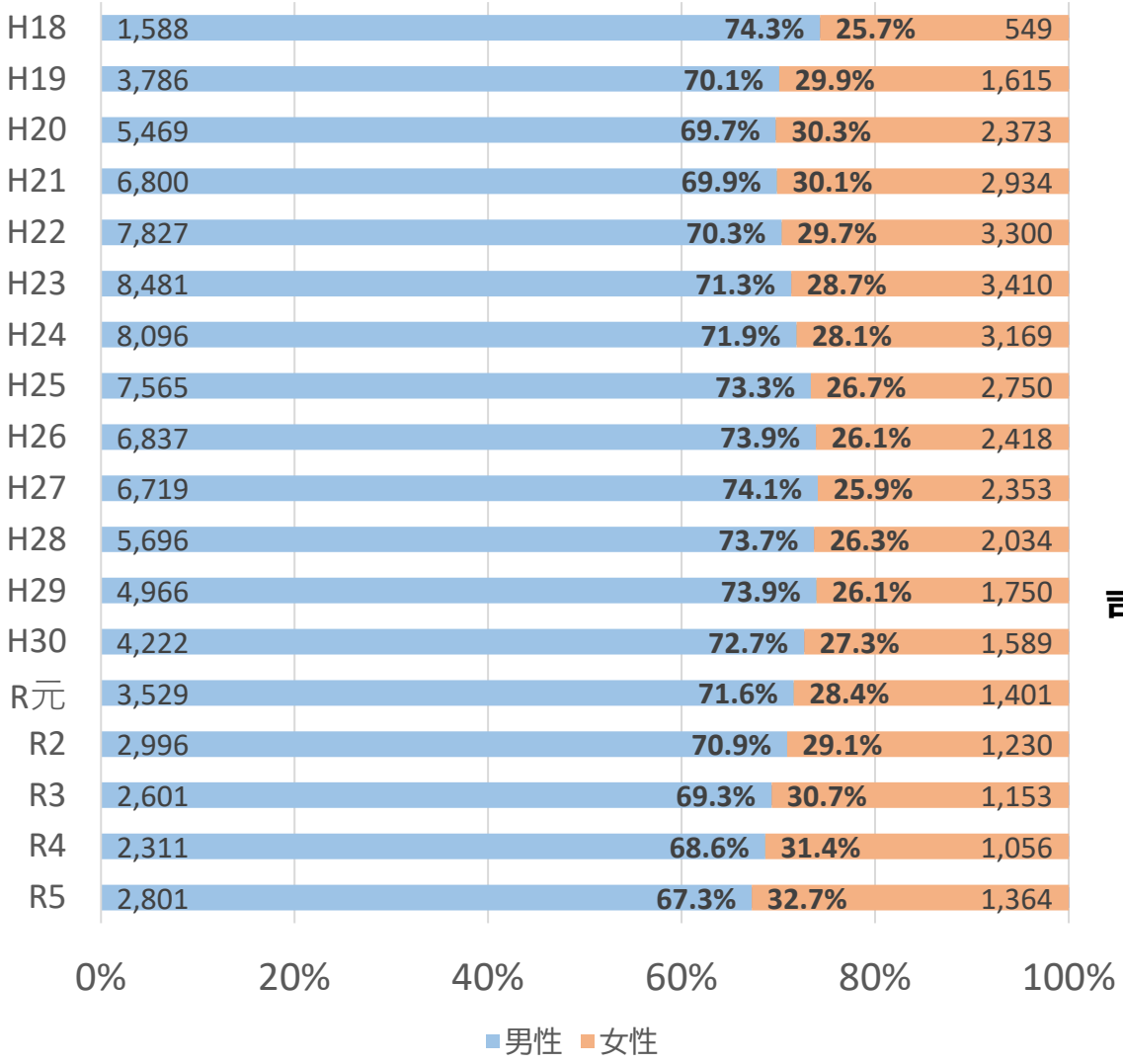


※「学校基本調査」に基づき作成。

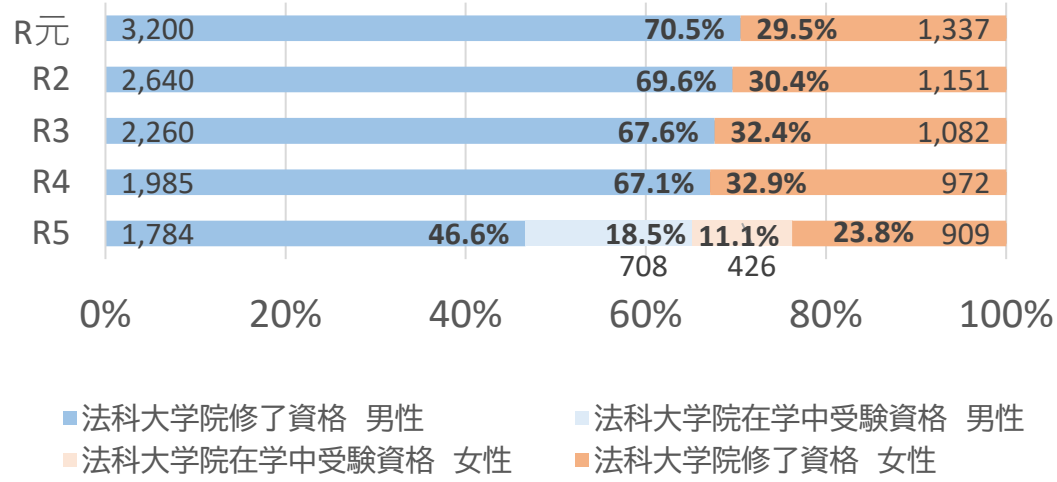
司法試験出願者の男女比

○ 司法試験出願者（全体）に占める女性の割合は、H29年以降、増加傾向にある。
○ 司法試験出願者（法科大学院修了者・在学中受験資格）に占める女性の割合は、全体の出願者より高い傾向にある。

司法試験出願者（全体）の男女比



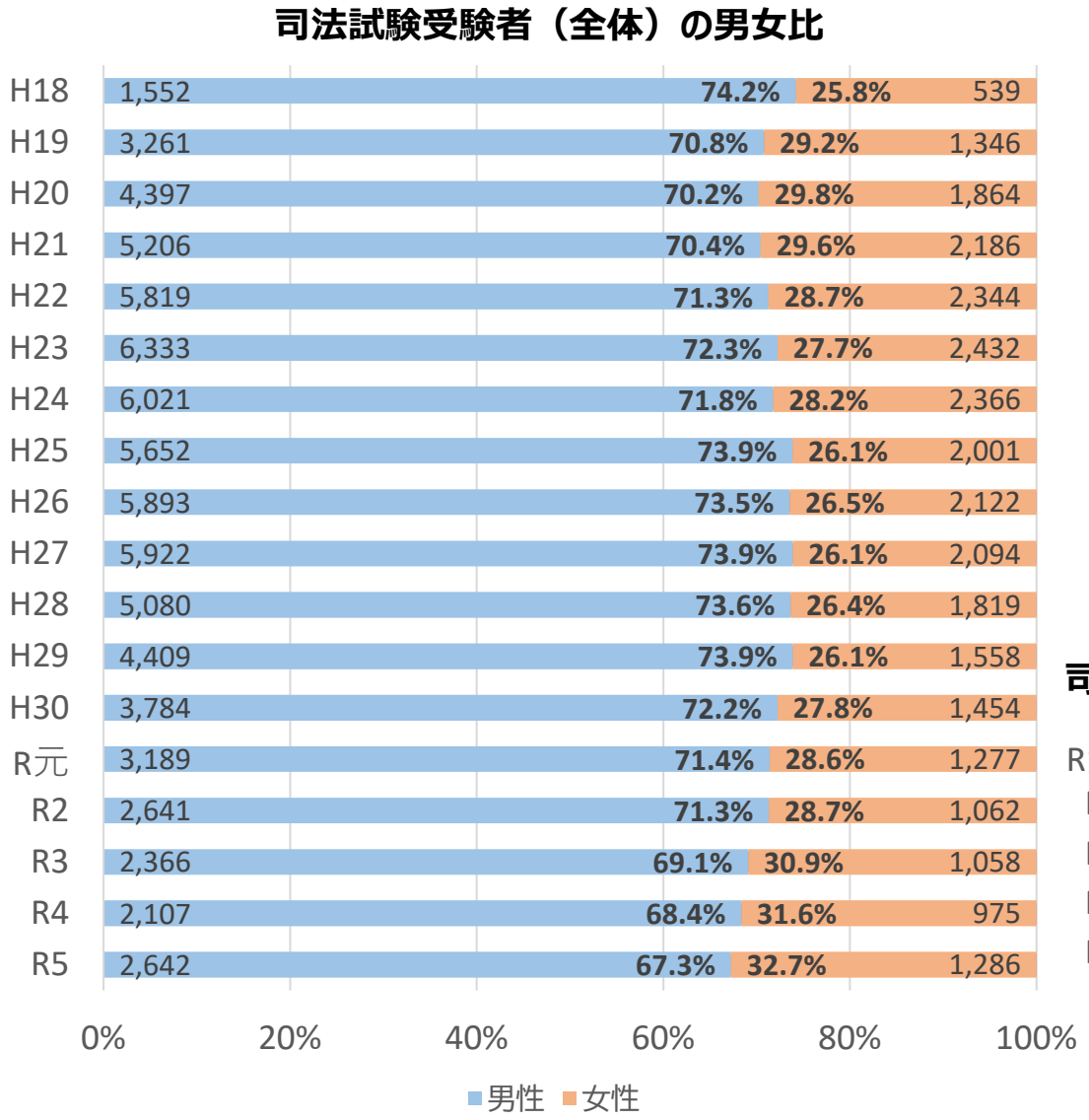
司法試験出願者（法科大学院修了者・在学中受験資格）の男女比

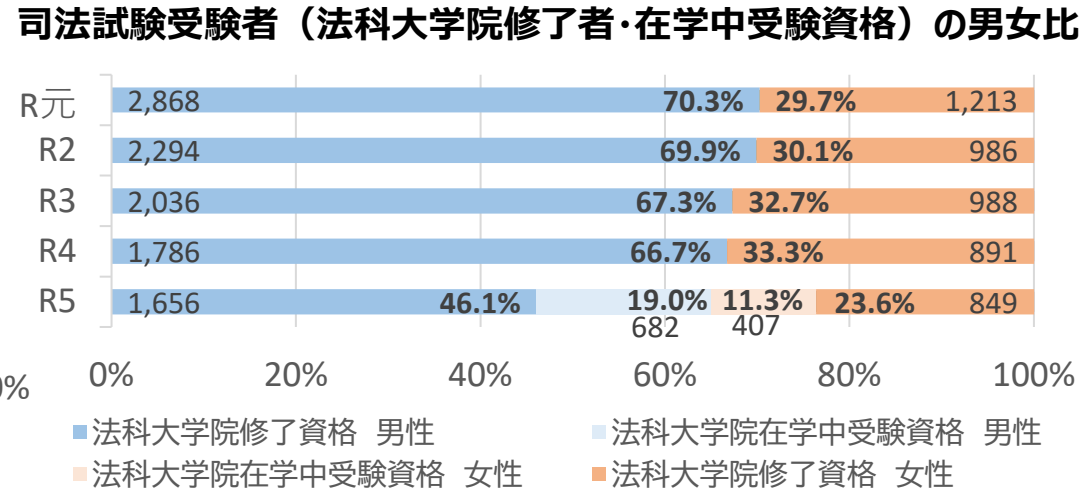


※法務省公表資料に基づき文部科学省にて作成。

司法試験受験者の男女比

○ 司法試験受験者（全体）に占める女性の割合はH29年以降、増加傾向にある。
○ 司法試験受験者（法科大学院修了者・在学中受験資格）に占める女性の割合は、全体の受験者より高い傾向にある。



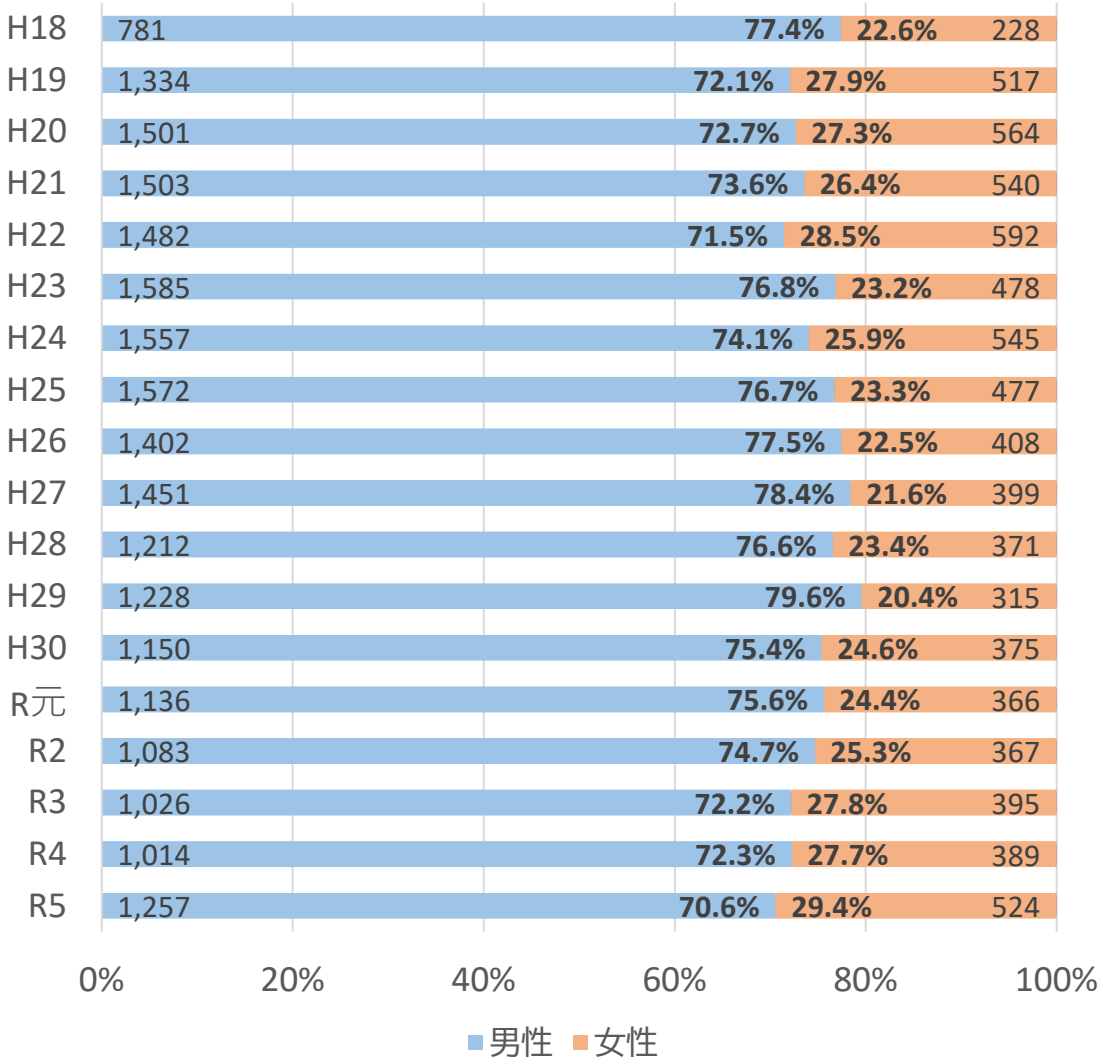


※法務省公表資料に基づき文部科学省にて作成。

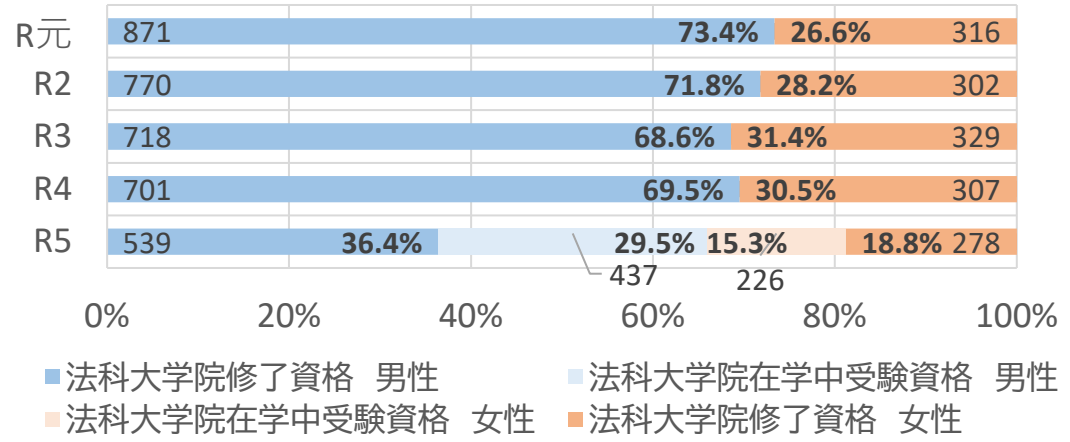
司法試験合格者の男女比

○ 司法試験合格者（全体）に占める女性の数・割合はH30年以降増加傾向にある。
○ 司法試験合格者（法科大学院修了者・在学中受験資格）に占める女性の割合は、全体の合格者より高い傾向にある。

司法試験合格者（全体）の男女比



司法試験合格者（法科大学院修了者・在学中受験資格）の男女比



※法務省公表資料に基づき文部科学省にて作成

女性法曹の輩出に関する取組（一例）

大学	取組の概要
北海道大学	○ 法学部の入学者数に占める女性の割合を高めるため、中・長期的な活動として、道内の各地域弁護士会、裁判所、検察庁と連携し、主に女性の中学生・高校生にリーチアウトした説明会を、札幌、旭川、釧路、函館で開催する。 ○ 法学部法曹養成プログラムの所属学生数に占める女性の割合を高めるため、女性の教職員等が女性学生の相談や学習指導を行う機会の提供、女性法曹として活躍しているロールモデルを示すための説明会やイベントの開催、女性学生のニーズを汲んだ施設の更なる充実（多目的トイレ・休憩室等）を図る等の取組を実施する。 ○ 法科大学院入試における成績優秀な女性学生に対する財政的支援制度を新たに設ける。
千葉大学	○ 女性学生の学習支援体制の整備・充実のため、以下の取組を実施している。 • 早朝・深夜の研究科へのアクセスが安全かつ容易になり、集中した学修ができる環境を享受できるようにするため、女性学生が大学近辺に積極的に居住できるよう、住居費の一部（2万円）を支援。 • 研究科に在学する子育て中の女性学生のうち希望者については、併設されている「やよい保育園」への入園を支援。 • 女性学生については女性のチューターを配置することで、学修支援のみならず法科大学院における学生生活全般の相談体制を構築。 • 本学修了の女性弁護士を集めて在学生との交流の機会を設け、学修、生活等に関する女性学生の不安解消等を支援。
東京大学	○ 大学入学前の高校生、法学部進学前の教養学部1、2年生、法科大学院進学前の法学部3、4年生の各段階において、女性のロールモデルを示し、法学部及び法科大学院への進学を促進するため、女性を登壇者とする講演会等の充実を図る。

女性法曹の輩出に関する取組（一例）

大学	取組の概要
広島大学	○ 女性法曹のキャリアイメージ形成やロールモデルを提示すべく、地域の弁護士(会)等と協力し、以下の取組を実施する。 ・中高生や法学部生等に向けた女性法曹の魅力や実現可能性を伝えるイベント(相談会・講演会)。 ・在学生や修了者等の協力による女子学生の進路選択に向けた助言のための会合。 ・女性法曹によるシンポジウム。 ・女性の在学生・修了者、合格者OGなどへのキャリア支援対策などに関するアンケート等。
創価大学	○ 多方面で活躍する女性法曹を招き、女性法曹キャリア懇談会を設け、女性法曹のキャリア教育の充実を図る。 ○ 勉強面のみならず生活面でも、いつでも相談し、きめ細かなフォローができるよう、女性教職員および女性チューターによる相談体制を構築する。 ○ 女性教員の採用に積極的に取り組む。
明治大学	○ 関連団体との連携による女性法曹のPRや、女性修了生(2004年の開校以降506名)や女性合格者(同197名)の一活躍を積極的な情報発信を行う。
早稲田大学	○ 2015年以降、女性法曹輩出促進プロジェクト(FLP)として、以下の取組を実施している。 • 学生に長期的な法曹としてのビジョンを持たせることを目的とした、社会で活躍する女性法曹を招いた講演会等の実施。 • 学生が身近なロールモデルやメンターを得ることを目的とした、身近な女性法曹との交流会の実施。 • 女性の学生に対する具体的な学修支援等の実施。
立命館大学	○ 女性法曹が法務研究科に在籍する女性学生に対して学修や進路決定をサポートする機会の提供、ロールモデルを得る機会の提供、出産や育児と並行した学修環境を維持できるようサポートする。

法科大学院等特別委員会
令和6年8月28日（水）
資料３

早稲田大学大学院法務研究科
女性法曹輩出促進の取り組み

2024年8月28日
於：中央教育審議会法科大学院等特別委員会

1. FLPの経緯
2. 背景にある問題意識
3. 加算プログラムでの目標値と現在の状況
4.これからの課題

FLP(女性法曹輩出促進プロジェクト)の経緯

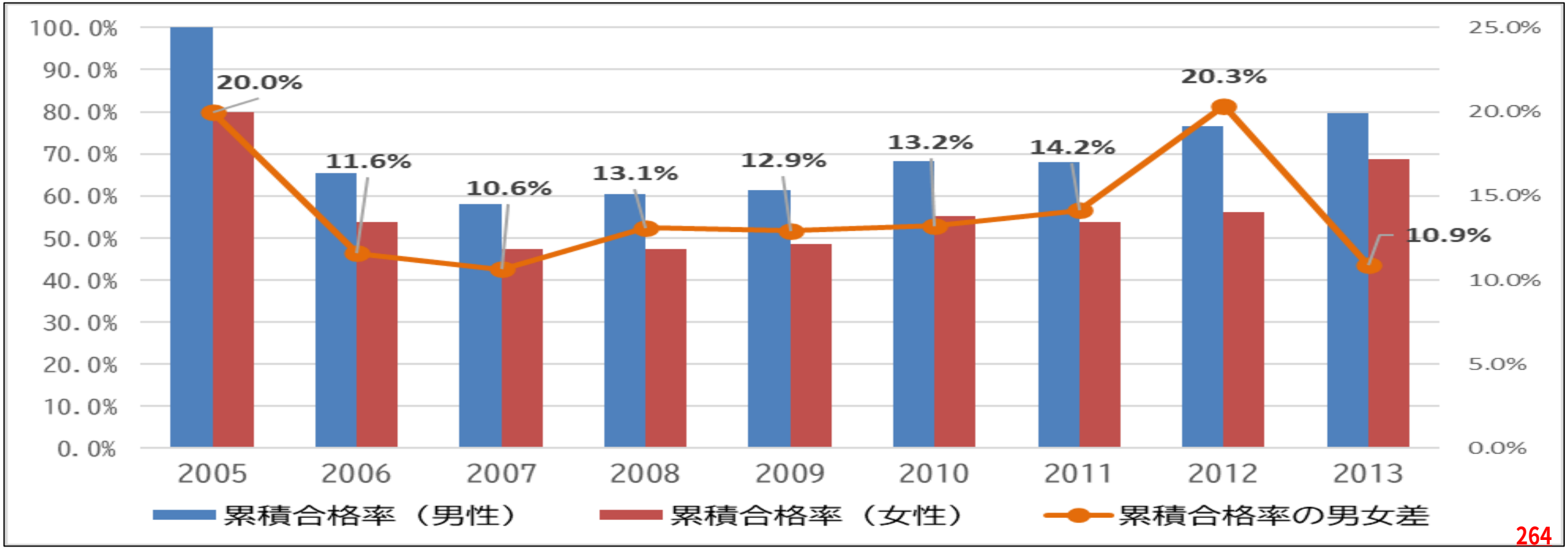
- 2014年、AAと当時の教務主任のディスカッションからスタート。
- 2015年以降、文部科学省法科大学院公的支援見直し加算プログラム(いわゆる「加算プログラム」)として始動。「女性法曹輩出促進プロジェクト(Female Lawyers Project, FLP)」と命名。

(2015年の文科省への提出文書より)

本研究科は、より複雑で多様化した現代社会のニーズに即応して、新たな時代を切り拓いて正義と公平を体現する法の担い手として社会に貢献する「挑戦する法曹」の育成を目的として、多彩なバックグランドを持ち個性あふれる人材を多数受け入れてきた。女性法曹輩出促進プログラムもまた、付加価値を有する多様な人材を法曹として輩出するという本研究科の理念を実現するための取り組みである。

背景にある問題意識

- 女性の司法試験結果が男性と比較して振るわない（当時）
- 女性学生には、男性学生とは異なる学修上の困難があるのではないだろうか。



女性の司法試験結果が振るわない原因（当時FLP内で議論したこと）

- 女性特有の健康上の問題（出産育児含む）
- 家事の負担が重いという家庭内の性役割による問題
- 女性が大学院に行くことや、司法試験に挑戦することに対する、保護者や家族の否定的イメージ
- 女性法曹のキャリア・モデル不足（男性学生と同じ程度に、身近なロールモデルを持って法曹を志すことが難しい）

原因はひとつではない。様々な要因が複合的に関係していると思われる。したがって、女性法曹の輩出を促進するためには、学生生活上の直接的な支援から、女性が一般に置かれている社会的な状況を考慮した対応まで、幅広い活動が必要。

FLP活動の３つの柱

(1)　法曹を志す女性の層を広げる
　中高生、学部生、社会人を対象に、法曹になるビジョンを持たせることを目的とした、社会で活躍する女性法曹を招いた講演会・シンポジウム等の実施（FLPシンポジウム等）
(2)　学生に身近なロールモデルやメンターを提供する
　女性の先輩法曹との交流会の実施（女性法曹カフェ、おしゃべりカフェ）
(3)　女性の学生に対する具体的な学修支援等を実施する
　AAとの連携、産休育休中のリモート支援

女性の学生に対する具体的な学修支援
主要な取り組み

- （男女問わず）未就学児のいる学生に対し、必修科目の時間割が保育園のお迎え時間に間に合うように配慮する。
- （男女問わず）子どもの予防接種のための欠席等については、不利益に扱わない。
- 出産・育児によって休学する学生に対しても、AAによるサポートを継続する。休学中は原則としてAAサポートの対象外であるが、モチベーション維持のためには継続的な支援が必要であるというFLP会議での提案から導入。

学内体制

- 3名の教員（教務主任2名、教務副主任1名）に加え、法務教育研究センター助手、修了生でAA（アカデミックアドバイザー）を務めるメンバーが参画。
- 2か月に1回程度の会議を持ち、企画を進めていく。

レギュラー企画

- FLPシンポジウム（6月頃）：全国に向けたオンライン発信。中高生への広報強化。他の法科大学院とも連携。（千葉大LS・琉球大LSとの共催、中央大LSの協力。複数のLS修了生の登壇。）
- 女性法曹カフェ（12月頃）：学内向け。法科大学院生・学部法曹コース在籍者への意識付け。原則対面で行う。
- おしゃべりカフェ（不定期）：「会いに行けるロールモデル」の提供。
- 司法試験合格者アンケート（1月頃）：学生のニーズの把握。
- AAとの意見交換会：アンケート結果を受けた課題の共有。

加算プログラムでの目標値と現在の状況(1)

2018年度加算プログラムでの目標値(2018～2023まで)

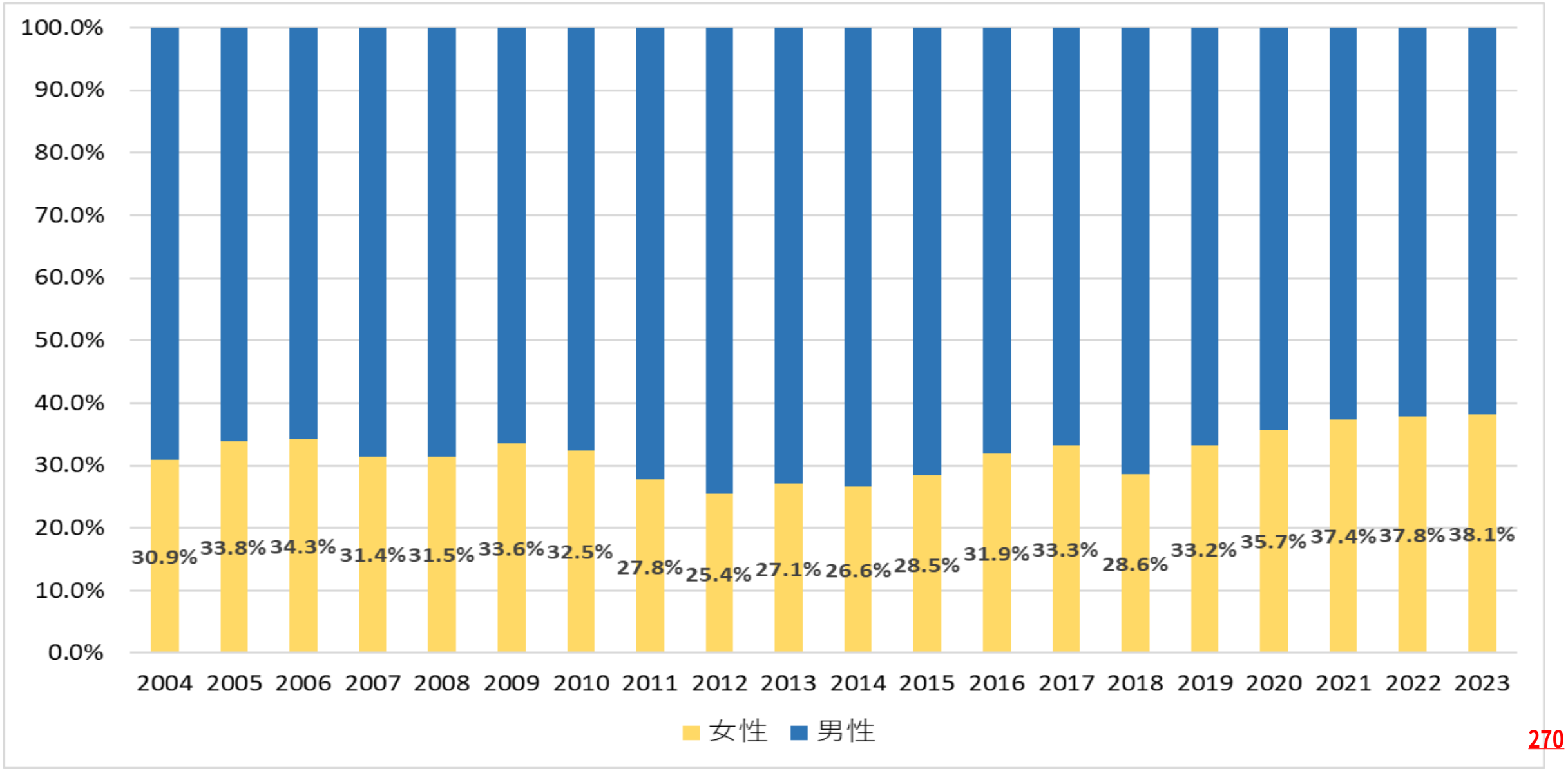
①本研究科への志願者における女性の割合　40%
　2018年時点で32.3%

2023年度38.1%(入学者45.8%)

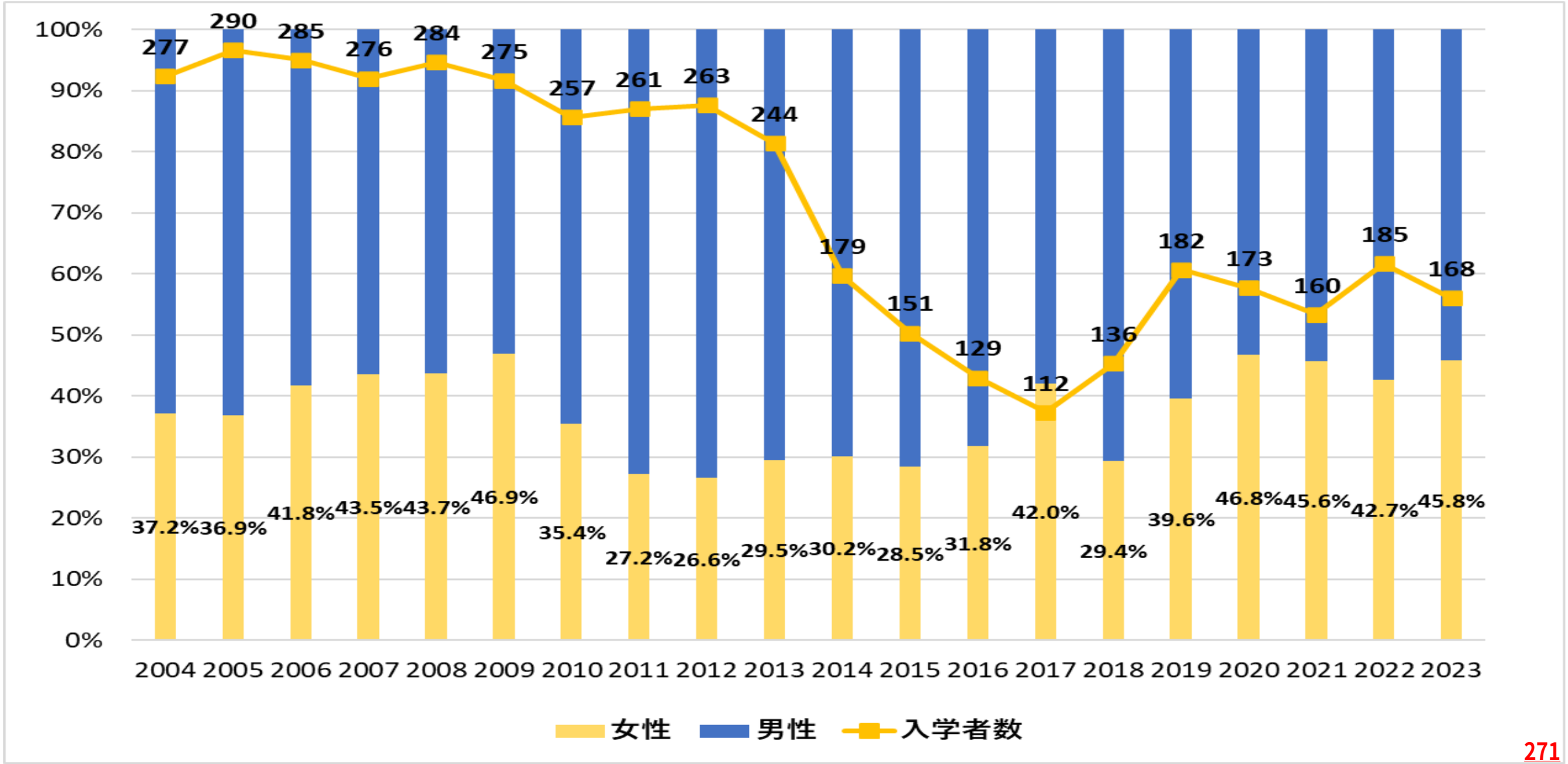
②本研究科の司法試験合格者における女性の割合　40%
　2018年(2017年度修了生初年度受験)で26.4%

2023年度41.1%

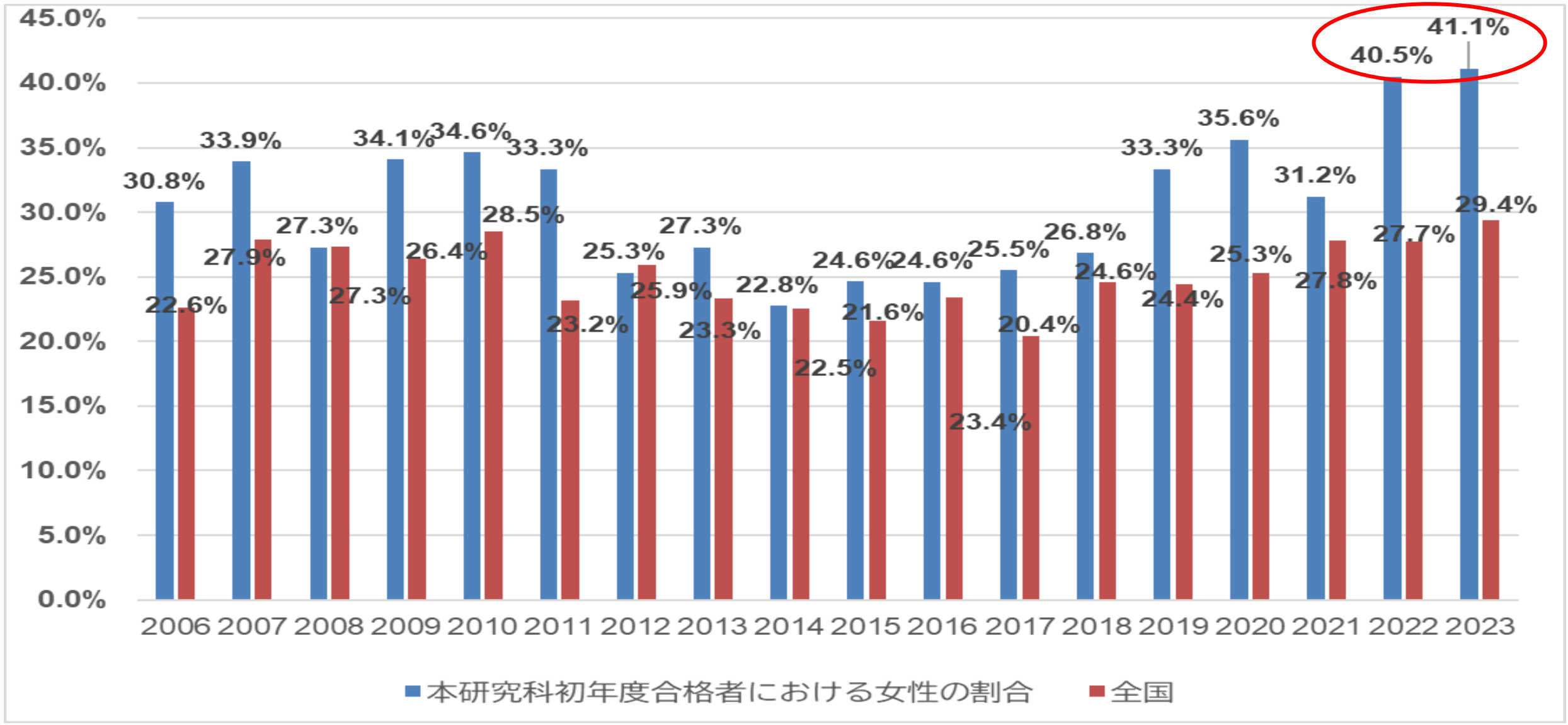
志願者数における女性の割合



入学者数における女性の割合



本研究科の司法試験合格者における女性の割合



備考：2023年データは、それ以前のデータと揃えるため、在学中受験を含んでいない。

加算プログラムでの目標値と現在の状況(2)

2023年10月からの目標値:

女性の本学修了生の累積合格率を70%へ!

- 創立以来2022年度までで、1,198名の女性の修了生を輩出し、685名が合格。ここまでの累積合格率は57.2%
- これを7割に引き上げ、「早稲田LSに入れば法曹になれる」を確立させる。

修了年度	累積合格率		
	男性	女性	男女差
2010	68.3%	55.1%	13.2%
2011	68.0%	53.8%	14.2%
2012	76.6%	56.3%	20.3%
2013	79.6%	68.7%	10.9%
2019	79.4%	62.9%	16.6%
2020	70.1%	71.7%	-1.6%
2021	61.4%	55.7%	5.6%
2022	53.5%	48.4%	5.1%

実質令和5年度の初年度合格率。全国では未だ7ポイント程度の男女差。令和5年度試験合格者における女性の割合も29.4%

これからの課題

- 「３＋２」が導入され、「５年で司法試験に合格し、法曹になれる」という予見可能性が確立できれば、女性の学生のみならず、その保護者も安心して応援することができる。
- いかにしてより優秀な女性を早稲田大学LSに取り込み、法曹として輩出していくか。「女性法曹輩出の早稲田」というブランドの確立。
- より多くの女性の学生をエンパワメントしていくには、教職員全体としての意識の共有が必要。
- 早稲田から、他大学とも連携した発信、取り組みを強化し、女性法曹の輩出を牽引していく。

ご清聴ありがとうございました。

文部科学省

法科大学院等特別委員会
令和6年8月28日（水）
資料４

令和６年度
法曹コースの実態調査

集計対象　：　令和６年５月１日時点で法学部等に置かれている
認定連携法曹基礎課程（法曹コース）　74コース

調査基準日：　令和６年５月１日

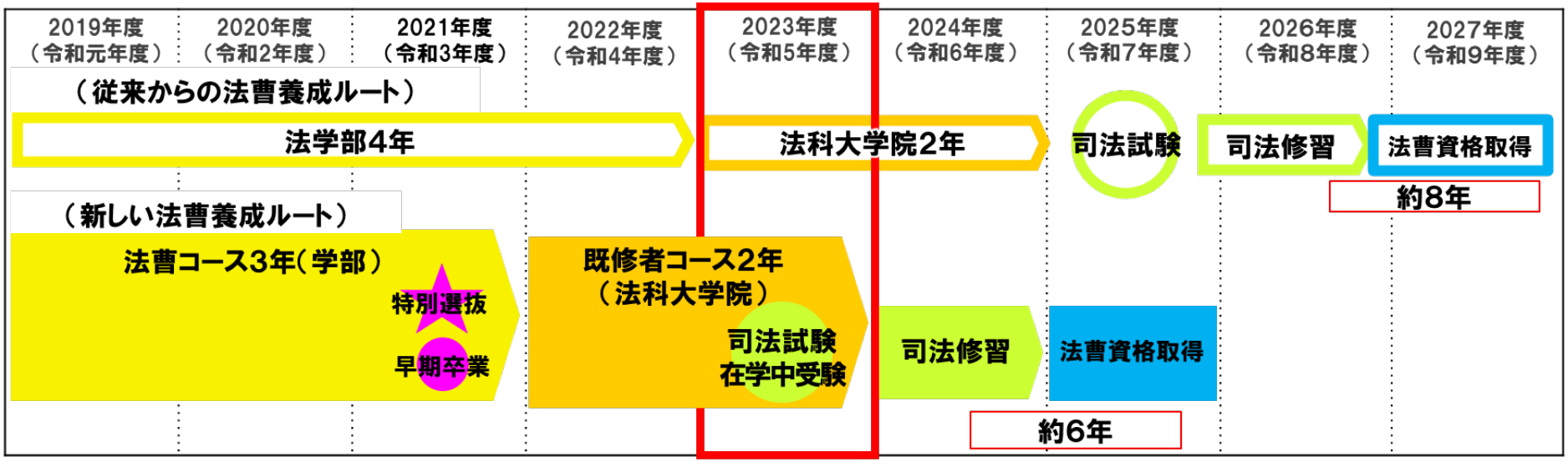
法曹コースとは

✓ 法曹コース（※１）とは、法曹（裁判官・検察官・弁護士）を目指す学生が大学の学部段階から法曹になるための教育を受けることができるコース。

※１　正式名称「連携法曹基礎課程」。法学部などの法学を学ぶ学部に設置されている。連携する法科大学院と「法曹養成連携協定」を締結し文部科学大臣が認定。

✓ 法科大学院との連携協力のもとで、体系的・一貫的な学修をすることが可能。大学３年で早期卒業して、法科大学院（既修者コース：２年）に進学し、法曹となることを目指す（※２）

※２　早期卒業し、在学中受験で司法試験に合格した場合、法曹として活躍するまでの期間を従来より約2年短縮することが可能。



Ⅰ．基礎情報

Ⅱ．法曹コースの登録･進級時の選抜、修了要件等

Ⅲ．法曹コースの教育

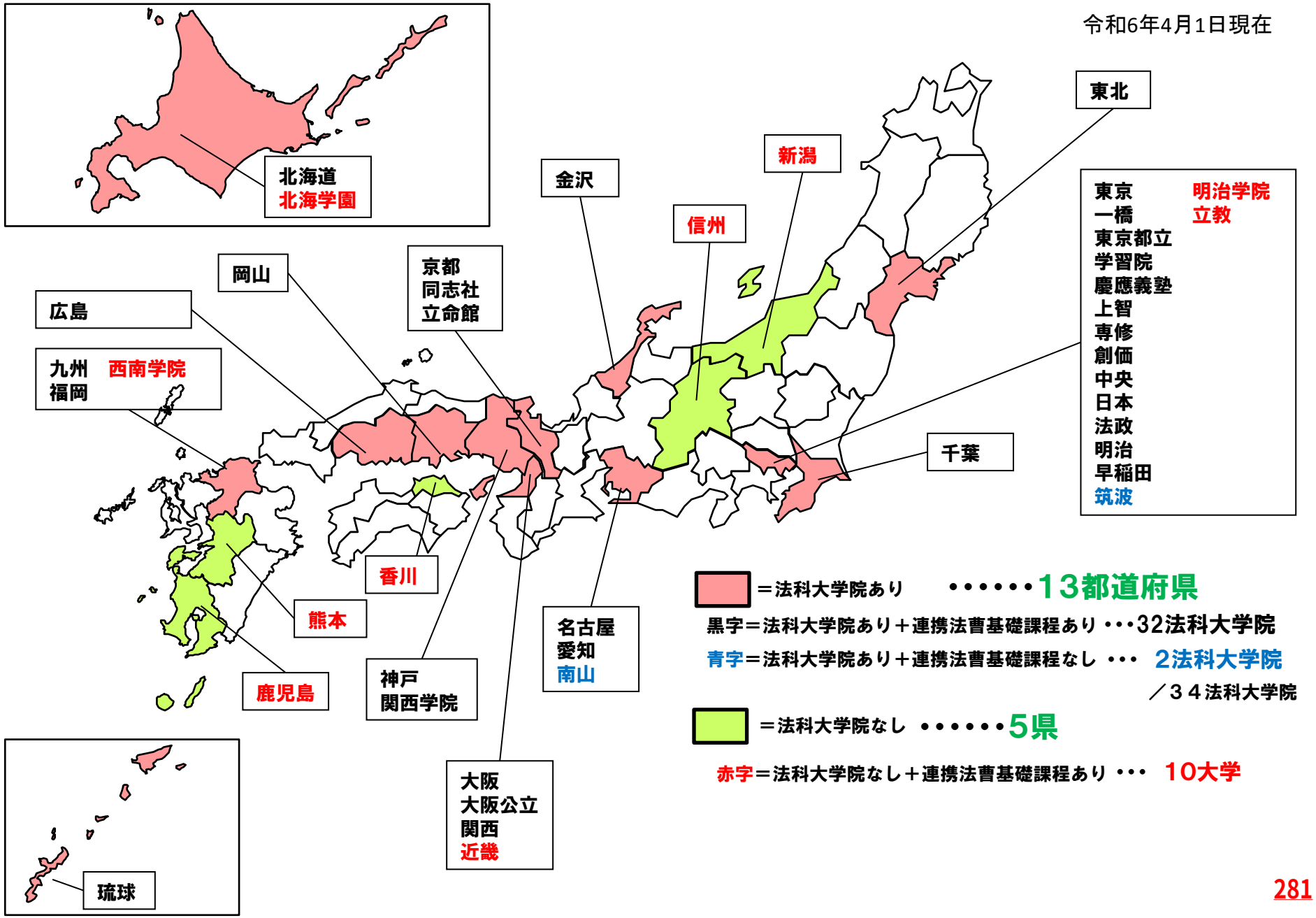
Ⅳ．学生指導、広報活動、法曹コースの学生の様子

Ⅴ．連携法科大学院との連携、法曹コース運営等

Ⅰ．基礎情報

１．法曹養成連携協定の締結状況①

令和6年4月1日現在



＝法科大学院あり ・・・・・・１３都道府県

黒字＝法科大学院あり＋連携法曹基礎課程あり ・・・32法科大学院

青字＝法科大学院あり＋連携法曹基礎課程なし ・・・ 2法科大学院

／３４法科大学院

＝法科大学院なし ・・・・・・5県

赤字＝法科大学院なし＋連携法曹基礎課程あり ・・・ 10大学

1．法曹養成連携協定の締結状況②

法曹コース数･･･42コース（前年比＋2コース）
協定数･･･ 74協定（42の法曹コースがそれぞれの法科大学院と締結した協定数）（前年比＋４コース）

法曹コースを置く大学	連携法科大学院
1.北海道大学	北海道大学
2.東北大学	東北大学
3.千葉大学	千葉大学
4.東京大学	東京大学
5.一橋大学	一橋大学
6.新潟大学	東北大学、神戸大学、慶應義塾大学、中央大学
7.金沢大学	金沢大学
8.信州大学	慶應義塾大学、中央大学 東京都立大学
9.名古屋大学	名古屋大学
10.京都大学	京都大学
11.大阪大学	大阪大学
12.神戸大学	神戸大学
13.岡山大学	岡山大学
14.広島大学	広島大学
15.香川大学	大阪大学、広島大学、岡山大学
16.九州大学	九州大学
17.熊本大学	神戸大学、九州大学、中央大学、早稲田大学
18.鹿児島大学	千葉大学、神戸大学、九州大学、中央大学
19.琉球大学	琉球大学
20.東京都立大学	東京都立大学
21.大阪公立大学	大阪公立大学
22.北海学園大学	北海道大学
23.学習院大学	学習院大学、慶應義塾大学、中央大学
24.慶應義塾大学	慶應義塾大学

法曹コースを置く大学	連携法科大学院
25.上智大学	上智大学
26.専修大学	専修大学
27.創価大学	創価大学
28.中央大学	中央大学
29.日本大学	日本大学
30.法政大学	法政大学
31.明治大学	慶應義塾大学、中央大学、明治大学
32.明治学院大学	千葉大学、東京都立大学、慶應義塾大学、中央大学、明治大学、早稲田大学
33.立教大学	慶應義塾大学、中央大学、早稲田大学
34.早稲田大学	早稲田大学
35.愛知大学	愛知大学
36.同志社大学	神戸大学、同志社大学
37.立命館大学	名古屋大学、神戸大学、中央大学、立命館大学
38.関西大学	関西大学
39.関西学院大学	関西学院大学
40.近畿大学	神戸大学
41.西南学院大学	九州大学、学習院大学、中央大学、早稲田大学、同志社大学
42.福岡大学	福岡大学

※赤字は前年度調査結果からの追記箇所。

１．法曹養成連携協定の締結状況③

■自大学の法科大学院がない法曹コース・・・・・・・・・・・・・・・・・10コース（前年比±0コース）

※いずれも、法科大学院を廃止した経緯あり（学生募集を停止した場合も含む）

（新潟、信州、香川、熊本、鹿児島、北海学園、明治学院、立教、近畿、西南学院）

■地方大学枠の対象となる法曹コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５コース（前年比±0コース）

※地方大学とは、直近の国勢調査（令和２年）における大都市圏以外の地域に設置されている大学及び大都市圏であっても当該都市圏に法科大学院が設置されていない地域にある大学とする。

（新潟、信州、香川、熊本、鹿児島）

■遠隔地(他都県)の法科大学院と協定締結している法曹コース・・・・10コース（前年比±0コース）

（新潟、信州、香川、熊本、鹿児島、明治学院、同志社、立命館、近畿、西南学院）

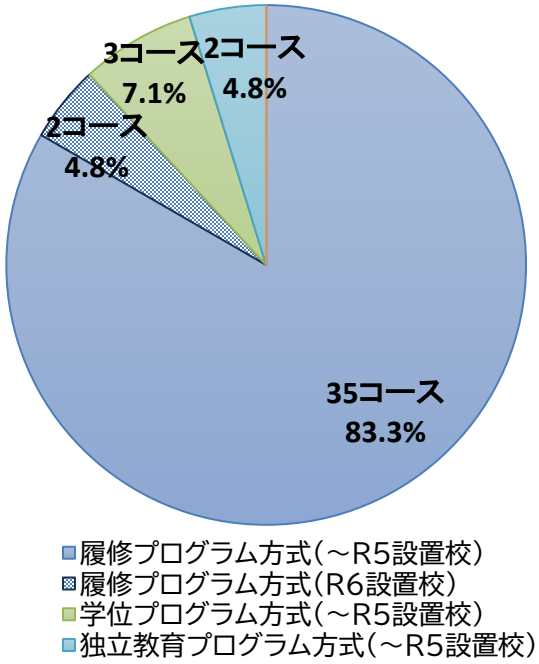
■３以上の協定を締結している法曹コース・・・・・・・・・・・・・・・11コース（前年比＋1コース）

- 新潟大学×4法科大学院（東北、神戸、慶應、中央）
- 信州大学×3法科大学院（慶應、中央、東京都立）
- 香川大学×3法科大学院（大阪、広島、岡山）
- 熊本大学×４法科大学院（神戸、九州、中央、早稲田）
- 鹿児島大学×４法科大学院（千葉、神戸、九州、中央）
- 学習院大学×3法科大学院（学習院、慶應、中央）
- 明治大学×３法科大学院（慶應、中央、明治）
- 明治学院大学×６法科大学院（千葉、東京都立、慶應、中央、明治、早稲田）
- 立教大学×３法科大学院（慶應、中央、早稲田）
- 立命館大学×４法科大学院（立命館、名古屋、神戸、中央）
- 西南学院大学×５法科大学院（九州、学習院、中央、早稲田、同志社）

※赤字は前年度調査結果からの追記箇所。

2．法曹コースの開設形態

法曹コースの開設形態は、「学位プログラム方式」「履修プログラム方式」「独立教育プログラム方式」のいずれに該当しますか。



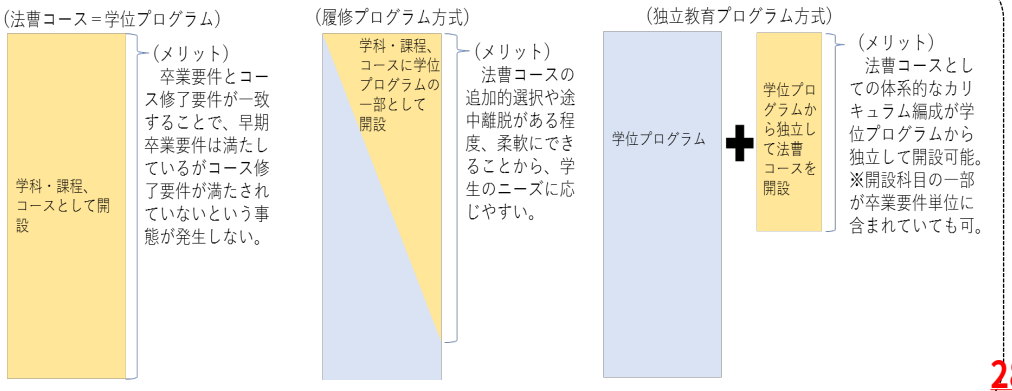
■ 履修プログラム方式として開設（37コース） （前年比+2コース）
（法曹コースの選択や離脱が比較的しやすい方式）

■ 学位プログラム方式として開設（3コース） （前年比±0コース）
（卒業要件とコース修了要件が一致している方式）
（広島、立教、近畿）

■ その他回答（2コース） （前年比±0コース）
・コースの1つとして開設し、学位プログラム方式を基礎としているが、所定の時期におけるコース変更の申請を認める（一橋）
・２つのコースがあり、異なる方式を採用（日本）
法職課程法曹コース履修プログラム(R元年度入学者を対象）：履修プログラム方式
法曹コース(R２年度以降の入学者を対象）：学位プログラム方式

参考

- **学位プログラム方式**
法曹コース＝学位プログラムとして、学士の学位を取得させるに当たり、学士のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計したプログラム。
- **履修プログラム方式**
学位プログラムの構成要素の一部として、学科・課程やコースの中に、法科大学院に入学するための能力を修得するために体系的に編成された履修プログラム方式として開設。
- **独立教育プログラム方式**
学位プログラムとは別に法科大学院に入学するための能力を修得するために体系的に編成された独立教育プログラムとして開設。独立教育プログラムの一部が学位プログラムに組み込まれていることも可能。



3．令和５年度法曹コース在籍者数、修了者数、法科大学院進学者数等

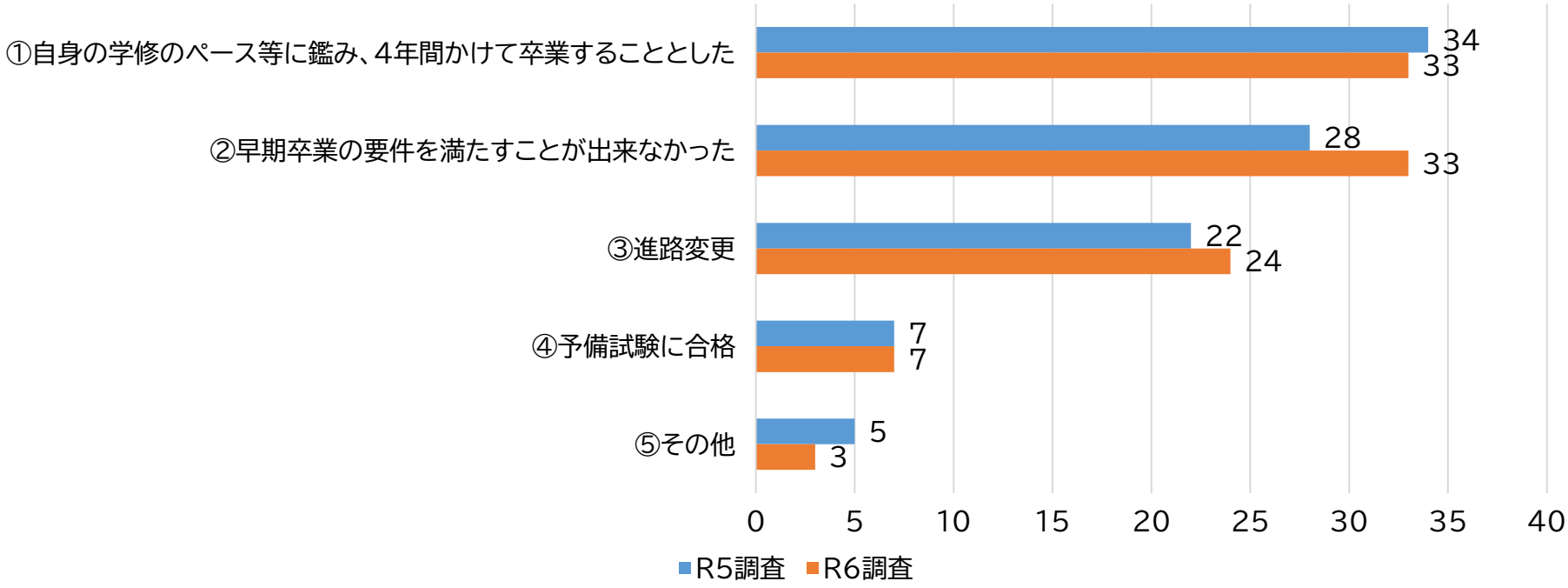
法学部				合計
１年次	２年次	３年次	４年次	
令和５年度法曹コース在籍者数				
63人 （91人）	1,232人 （1,164人）	1,228人 （1,110人）	890人 （692人）	3,413人 （3,057人）
		令和５年度法曹コース修了者数		
		249人 （256人）	423人 （308人）	672人 （564人）
		令和６年度法科大学院進学者数		
		213人 （218人）	280人 （230人）	493人 （448人）
		うち協定先 158人 （158人）	202人 （161人）	360人 （319人）
		うち非協定先 55人 （60人）	78人 （69人）	133人 （129人）

※ 法曹コース在籍者数は概数（登録制でない法曹コースにおいては法曹コース利用希望者数又は早期卒業希望者数を回答 ）
※ （）内は令和4年度の値（法曹コース在籍者数は令和5年に実施した文部科学省調査の回答）
※ 法科大学院進学者数は、法曹コースを置く学部が把握している値であり、実際の法科大学院進学者数とは異なる可能性がある。

４．早期卒業をしなかった理由

法曹コースを選択した学生が早期卒業をしなかった理由として考えられる項目は何か。(複数回答可)

①自身の学修のペース等に鑑み、4年間かけて卒業することとした　②早期卒業の要件を満たすことが出来なかった
③進路変更　④予備試験に合格　⑤その他



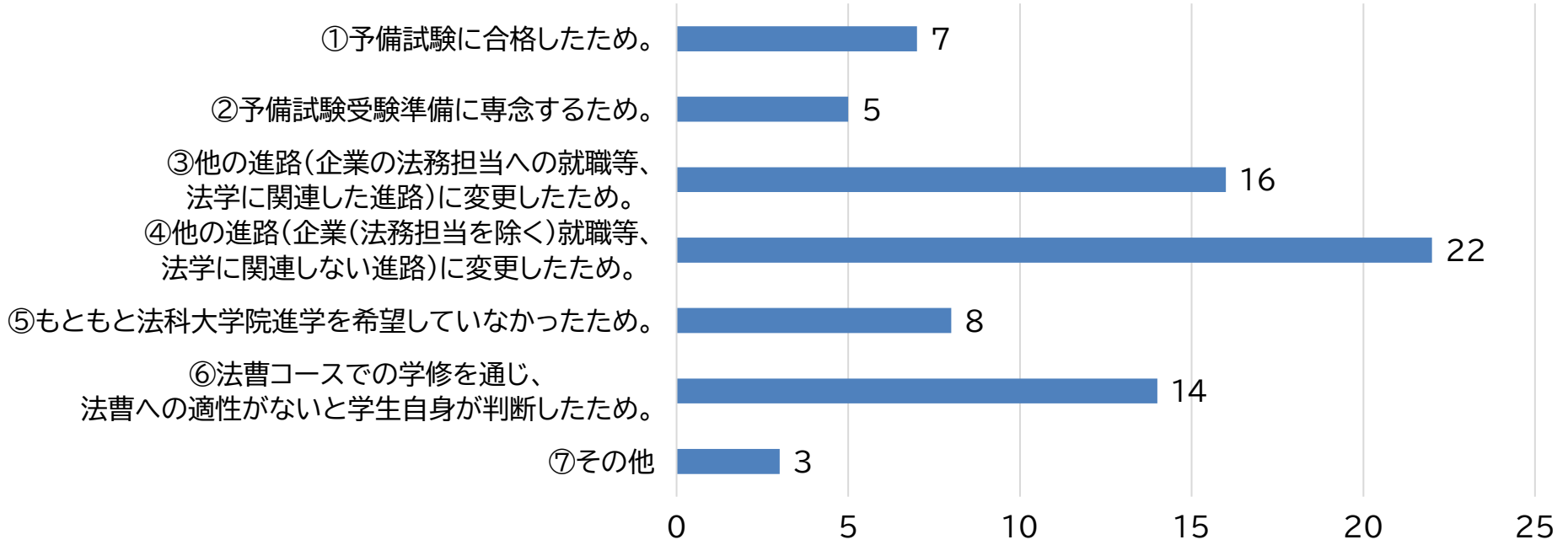
■ その他の内容

○法科大学院入学者選抜で不合格となったため（R5： ４コース、R6： ２コース）
○他学部から編入したため、カリキュラム上3年次までに法曹コース指定科目のすべてを履修できないため（R5： １コース）
○非協定先の法科大学院を志望しているため（R6： １コース）

5．法科大学院に進学しなかった理由

法曹コースを選択した学生が法科大学院に進学しなかった理由として考えられる項目は何か。(複数回答可)

①予備試験に合格したため。 ②予備試験受験準備に専念するため。
③他の進路（企業の法務担当への就職等、法学に関連した進路）に変更したため。
④他の進路（企業（法務担当を除く）就職等、法学に関連しない進路）に変更したため。
⑤もともと法科大学院進学を希望していなかったため。
⑥法曹コースでの学修を通じ、法曹への適性がないと学生自身が判断したため。 ⑦その他



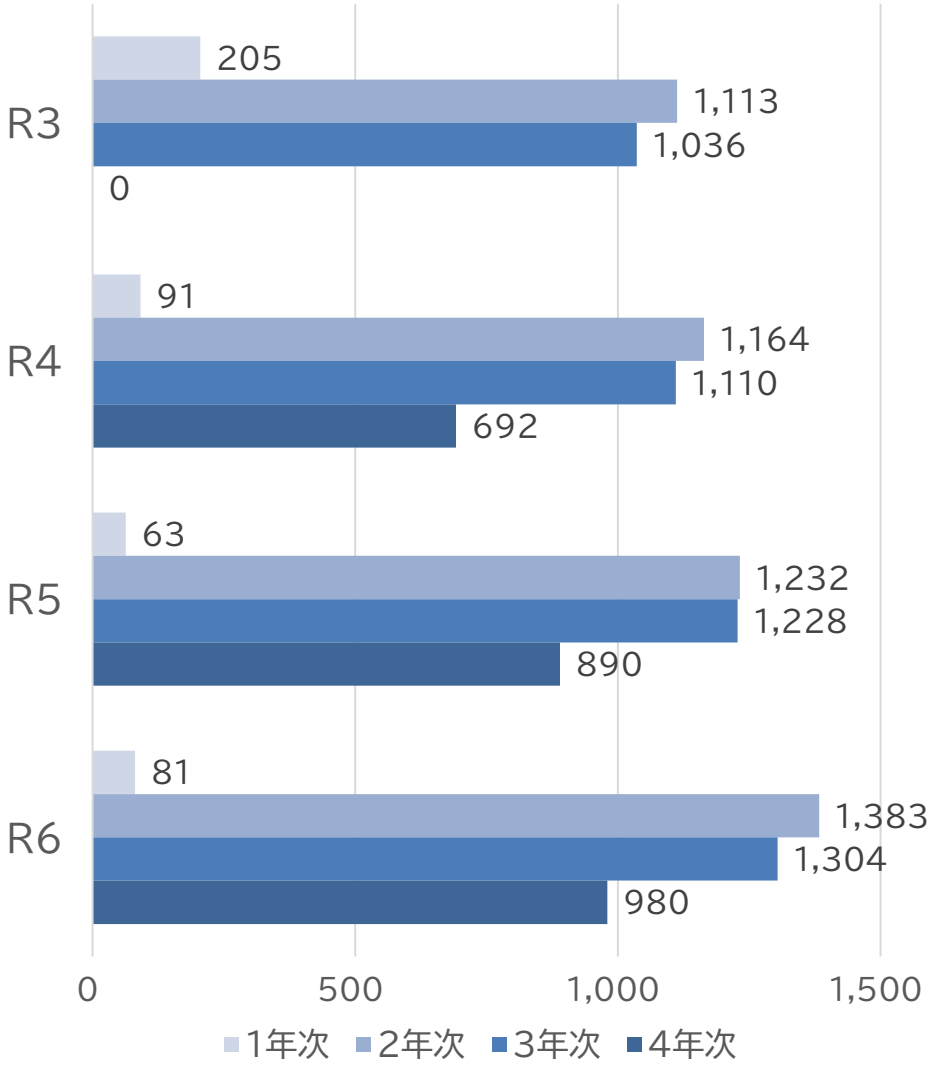
■ その他の内容

○卒業できなかったため（R6： １コース）

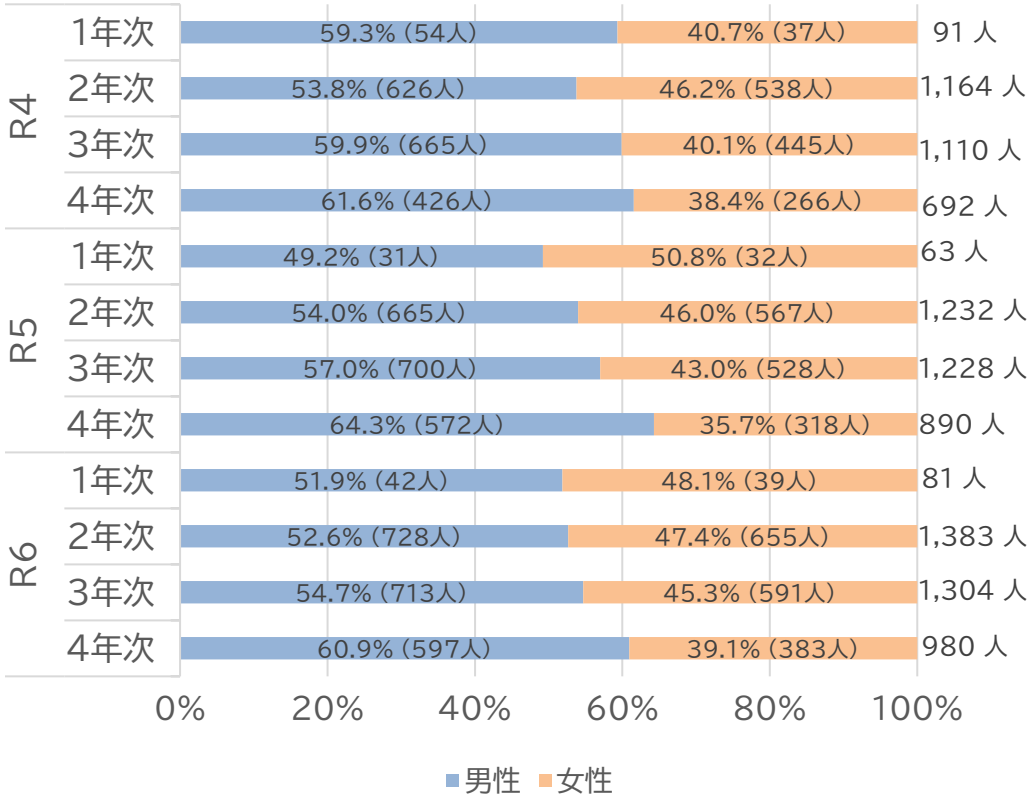
○経済的理由（R6： ２コース）

6．法曹コース在籍者数の推移（令和3年度～）

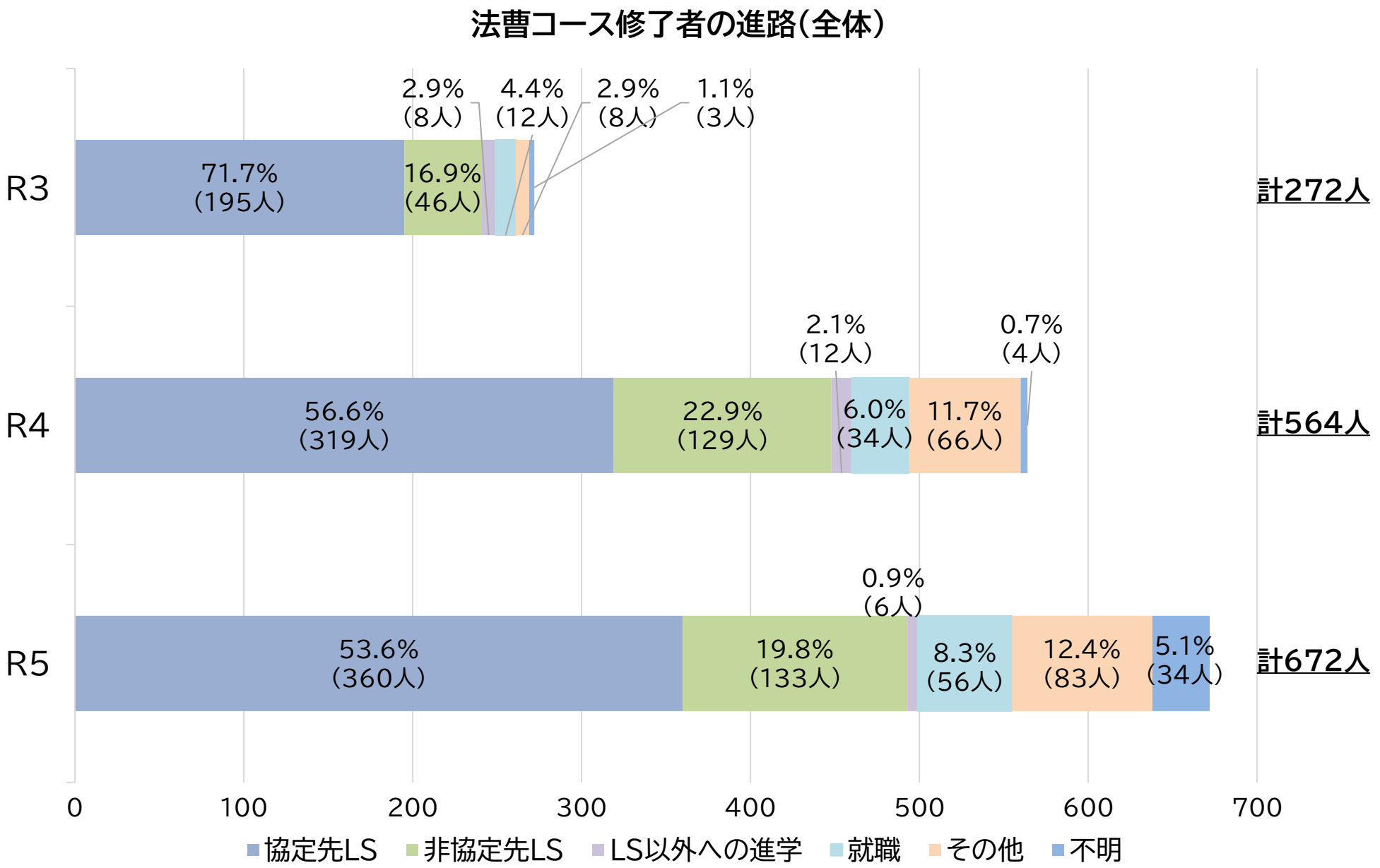
法曹コース在籍者数の推移(学年別)



法曹コース在籍者の男女比推移(学年別)

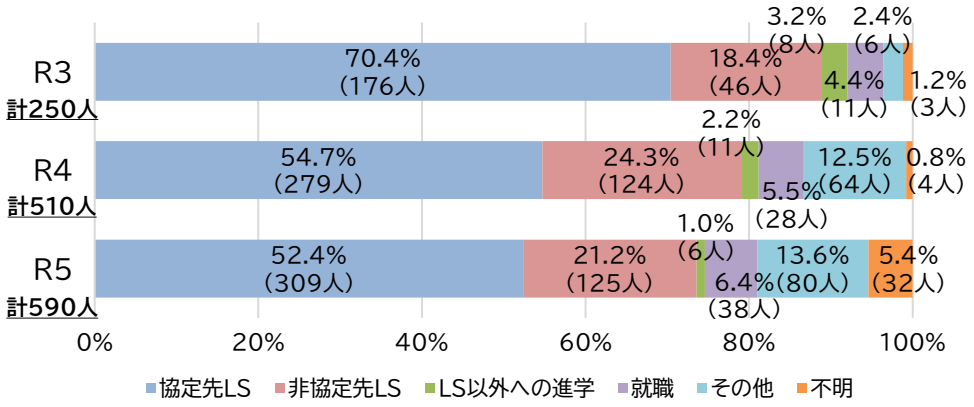


7．法曹コース修了者の進路（全体）

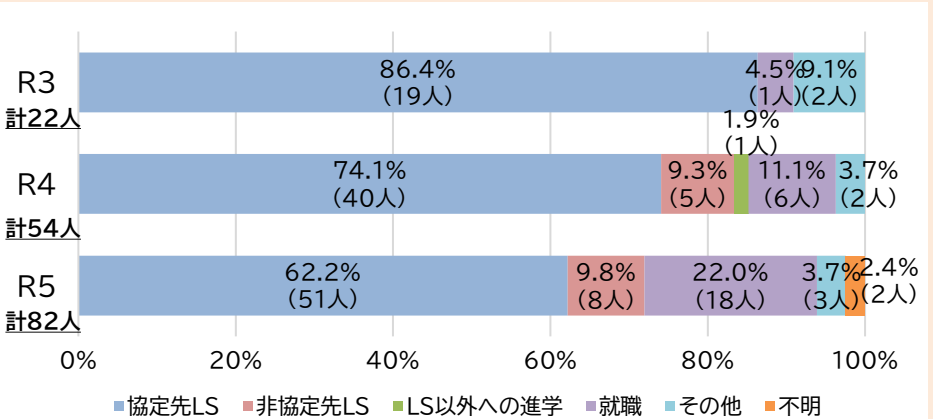


7．法曹コース修了者の進路（法科大学院の有無別）

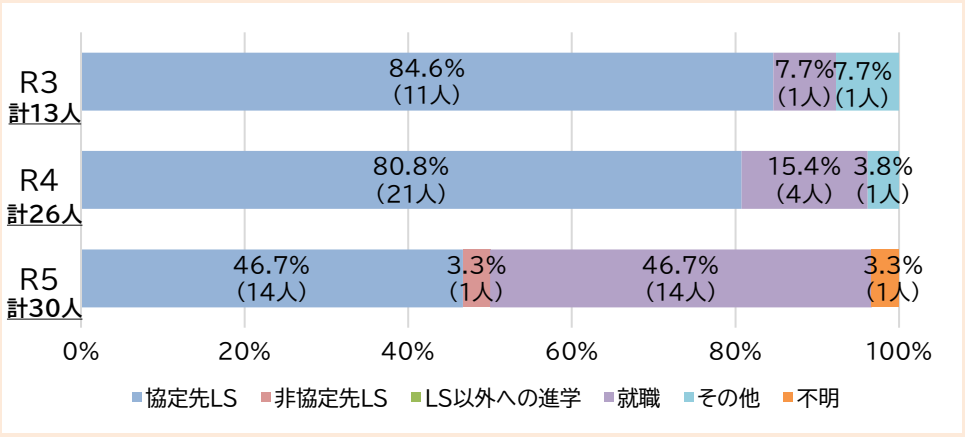
①学内に法科大学院がある法曹コース（３２コース）の進路



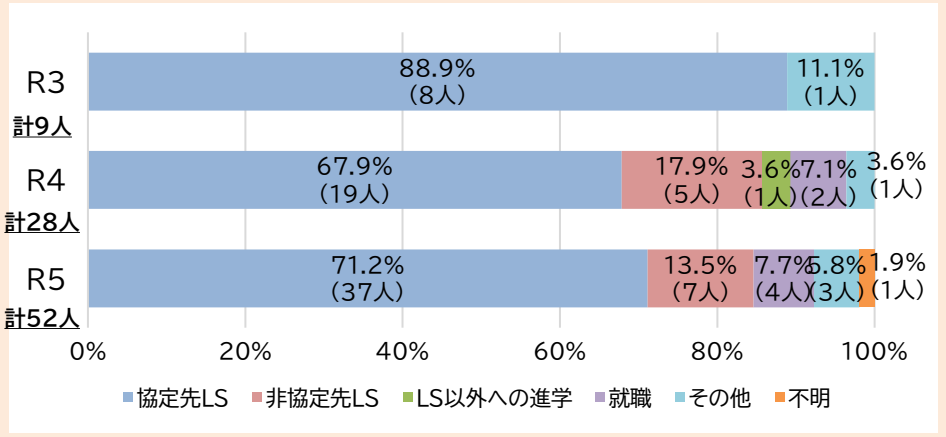
②学内に法科大学院がない法曹コース（１０コース）の進路



③学内に法科大学院がなく、同一都道府県内に法科大学院が**ある**法曹コース（５コース）の進路



④学内に法科大学院がなく、同一都道府県内に法科大学院が**ない**法曹コース（５コース）の進路



（参考①）法曹コースの授業開始時期、登録時期、定員、学年別在籍者数

（令和６年５月１日時点）（単位：人）

法曹コースを置く大学	法曹コース開設年度	法曹コース授業開始時期（※1）	法曹コース登録時期（※1）	定員（1学年あたり）	1年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	2年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	3年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	4年次在籍者	特別選抜希望者
1.北海道大学	R2	2年次前期	2年次後期	30人程度	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(2)	0(2)	29(22)	0(14)	0(22)	14(12)	0(12)
2.東北大学	R2	1年次後期	2年次前期	30	0(0)	0(0)	0(0)	44(62)	0(0)	0(0)	61(46)	1(0)	1(0)	41(38)	10(0)
3.千葉大学	R2	1年次後期	1年次後期	15人程度	0(0)	0(0)	0(0)	20(16)	0(0)	0(0)	14(9)	5(3)	2(2)	4(12)	3(7)
4.東京大学	R2	2年次前期	3年次前期/後期 4年次前期/後期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	137(125)	12(25)	12(25)	235(207)	235(207)
5.一橋大学	R2	1年次前期	2年次前期 3年次前期	25人程度	0(0)	0(0)	0(0)	28(29)	0(0)	0(0)	33(34)	21(8)	21(10)	29(26)	26(11)
6.新潟大学	R2	1年次前期	2年次前期/後期 3年次前期/後期 4年次前期/後期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	72(40)	72(40)	72(0)	21(31)	3(1)	3(1)	16(10)	2(4)
7.金沢大学	R2	1年次後期	1年次前期	30	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	18(22)	2(4)	2(4)	16(9)	0(0)
8.信州大学	R2	2年次前期	2年次前期（9月）	10	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(3)	5(2)	5(2)	1(2)	0(0)
9.名古屋大学	R2	1年次後期	1年次後期	20	0(0)	0(0)	0(0)	52(38)	0(0)	0(0)	37(44)	0(0)	0(0)	44(0)	0(0)
10.京都大学	R2	1年次前期	3年次前期/後期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	49(51)	37(40)	49(51)	48(42)	48(42)
11.大阪大学	R2	1年次後期	2年次前期 3年次前期 4年次前期	2年次30人程度 3年次20人程度	0(0)	0(0)	0(0)	31(32)	14(22)	31(32)	26(21)	17(6)	26(21)	16(22)	16(22)
12.神戸大学	R2	2年次前期	2年次前期 3年次前期	40人程度	0(0)	0(0)	0(0)	40(34)	0(0)	0(0)	39(40)	39(18)	39(18)	34(23)	34(23)
13.岡山大学	R2	2年次前期	2年次前期	40人程度	0(0)	0(0)	0(0)	28(28)	0(0)	0(0)	20(24)	5(3)	0(0)	18(14)	0(0)
14.広島大学	R3	2年次前期	2年次前期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	30(35)	0(0)	0(0)	24(13)	5(0)	0(0)	10(6)	0(0)
15.香川大学	R5	1年次後期	1年次後期 （2～3月）	15	0(0)	0(0)	0(0)	15(16)	0(0)	0(0)	13(0)	4(0)	4(0)	0(0)	0(0)
16.九州大学	R2	1年次後期	2年次後期	30人程度	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	24(27)	11(9)	22(27)	17(10)	17(10)
17.熊本大学	R2	2年次前期	2年次前期	20	0(0)	0(0)	0(0)	20(13)	0(0)	20(13)	9(17)	0(1)	9(17)	13(10)	13(10)
18.鹿児島大学	R2	1年次前期	1年次後期（3月） 2年次後期（3月）	なし	0(0)	0(0)	0(0)	11(10)	0(0)	0(10)	8(8)	4(3)	4(3)	5(1)	5(0)
19.琉球大学	R6	2年次前期	1年次後期	定めない （5～9名想定）	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)	0(−)
20.東京都立大学	R2	1年次前期	2年次前期	20人程度	0(0)	0(0)	0(0)	21(21)	0(0)	0(0)	14(11)	14(6)	14(6)	10(3)	10(3)
21.大阪公立大学	R2	1年次後期	2年次後期 以降、学期毎	20	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)	3(3)	3(3)	2(3)	2(3)

（次ページ続く）

（参考①）法曹コースの授業開始時期、登録時期、定員、学年別在籍者数

法曹コースを置く大学	法曹コース開設年度	法曹コース授業開始時期（※1）	法曹コース登録時期（※1）	定員（1学年あたり）	1年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	2年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	3年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	4年次在籍者	特別選抜希望者
22.北海学園大学	R2	2年次前期	2年次前期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	10(14)	10(14)	10(14)	16(21)	8(7)	16(21)	3(12)	6(12)
23.学習院大学	R5	1年次前期	2年次前期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	15(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
24.慶應義塾大学	R2	1年次前期	ー	なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	48(44)	48(36)	48(36)	0(0)	0(0)
25.上智大学	R2	2年次前期	2年次前期	30	0(0)	0(0)	0(0)	24(23)	24(23)	24(23)	19(15)	17(15)	17(15)	2(6)	1(6)
26.専修大学	R6	2年次前期	1年次後期	15	0(−)	0(−)	0(−)	12(−)	12(−)	12(−)	14(−)	7(−)	7(−)	0(−)	0(−)
27.創価大学	R2	1年次前期	1年次前期 2年次前期	25	21(24)	0(0)	0(0)	21(23)	0(0)	0(0)	21(16)	1(0)	1(0)	15(13)	14(13)
28.中央大学	R2	2年次前期	2年次前期	なし	0(0)	0(0)	0(0)	187(159)	159(159)	159(159)	78(50)	50(50)	50(50)	12(43)	12(43)
29.日本大学	R2	その他	その他	なし	60(39)	0(0)	0(39)	32(28)	7(1)	7(28)	24(42)	1(0)	1(42)	46(36)	0(36)
30.法政大学	R2	2年次前期	2年次前期	20	0(0)	0(0)	0(0)	24(20)	0(0)	0(0)	14(13)	8(7)	10(7)	7(5)	7(5)
31.明治大学	R2	1年次前期	2年次前期	80	0(0)	0(0)	0(0)	185(143)	0(0)	0(0)	96(88)	13(3)	12(3)	90(90)	2(5)
32.明治学院大学	R2	1年次前期	2年次前期	30	0(0)	0(0)	0(0)	28(39)	28(39)	28(39)	13(10)	12(10)	13(10)	3(2)	0(1)
33.立教大学	R2	2年次前期	2年次前期	20人程度	0(0)	0(0)	0(0)	19(16)	0(0)	0(0)	16(12)	0(0)	0(0)	3(1)	0(0)
34.早稲田大学	R2	1年次前期	1年次後期 以降、学期毎	なし	0(0)	0(0)	0(0)	187(197)	0(0)	0(0)	156(145)	34(25)	34(25)	90(97)	90(97)
35.愛知大学	R3	2年次前期	2年次前期	5人程度	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)	3(0)	3(0)	1(3)	1(0)	1(0)	2(0)	2(0)
36.同志社大学	R2	1年次前期	ー	50	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	30(36)	74(36)	30(36)	0(1)	0(1)
37.立命館大学	R2	1年次前期	2年次前期	なし（※6）	0(0)	0(0)	0(0)	89(77)	22(15)	89(77)	57(70)	25(20)	57(70)	42(53)	42(34)
38.関西大学	R2	2年次前期	2年次前期	50人程度	0(0)	0(0)	0(0)	45(52)	0(0)	0(0)	53(44)	22(13)	0(0)	43(42)	0(0)
39.関西学院大学	R2	1年次後期	2年次前期	50	0(0)	0(0)	0(0)	35(31)	0(不明)	0(不明)	40(41)	14(16)	15(6)	27(13)	0(5)
40.近畿大学	R5	2年次前期	2年次前期	30人程度	0(0)	0(0)	0(0)	25(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
41.西南学院大学	R2	2年次前期	2年次前期	30	0(0)	0(0)	0(0)	30(30)	14(0)	27(0)	23(23)	1(6)	12(0)	19(22)	5(0)
42.福岡大学	R2	2年次前期	1年次後期（3月）	10	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(1)	0(1)	1(4)	1(2)	1(2)	3(4)	3(4)
					81(63)	0(0)	0(39)	1,383 (1,232)	365 (316)	482 (398)	1,304 (1,228)	525 (392)	541 (535)	980 (890)	605 (616)

※1　法曹コース授業開始時期の前期は「4月～9月」、後期は「10月～3月」を指す。
※2　学年別在籍者数は令和６年５月１日時点の在籍者数。（）内は令和５年５月１日時点の在籍者数。
※3　慶應義塾大学は登録制ではないため、在籍者数については、早期卒業希望者の数として大学が把握している数を記載。
※4　同志社大学は登録制ではないため、在籍者数については、法曹コース利用希望者の数として大学が把握している数を記載。
※5　立命館大学の法曹コースは定員を設けていないが、「司法特修」（法曹等を目指す学生向けのプログラム）を選択する学生のみが登録することができ、「司法特修」の定員は105名となっている。

（参考②） 令和６年度法曹コース 女性の学年別在籍者数・割合

下段（青字）は女性の数、割合を示している。（令和６年５月１日時点）（単位：人）

法曹コースを置く大学	１年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	２年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	３年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	４年次在籍者	特別選抜希望者
1.北海道大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	29 7(24.1)	0 0(－)	0 0(－)	14 2(14.3)	0 0(－)
2.東北大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	44 18(40.9)	0 0(－)	0 0(－)	61 18(29.5)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	41 13(31.7)	10 4(40.0)
3.千葉大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	20 5(25.0)	0 0(－)	0 0(－)	14 9(64.3)	5 4(80.0)	2 2(100.0)	4 3(75.0)	3 2(66.7)
4.東京大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	137 48(35.0)	12 5(41.7)	12 5(41.7)	235 65(27.7)	235 65(27.7)
5.一橋大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	28 15(53.6)	0 0(－)	0 0(－)	33 10(30.3)	21 8(38.1)	21 8(38.1)	29 16(55.2)	26 15(57.7)
6.新潟大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	72 35(48.6)	72 35(48.6)	72 35(48.6)	21 6(28.6)	3 1(33.3)	3 1(33.3)	16 7(43.8)	2 1(50.0)
7.金沢大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	18 8(44.4)	2 2(100.0)	2 2(100.0)	16 8(50.0)	0 0(－)
8.信州大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	5 4(80.0)	5 4(80.0)	5 4(80.0)	1 0(0.0)	0 0(－)
9.名古屋大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	52 25(48.1)	0 0(－)	0 0(－)	37 11(29.7)	0 0(－)	0 0(－)	44 18(40.9)	0 0(－)
10.京都大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	49 15(30.6)	37 13(35.1)	49 15(30.6)	48 18(37.5)	48 18(37.5)
11.大阪大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	31 12(38.7)	14 8(57.1)	31 12(38.7)	26 11(42.3)	17 7(41.2)	26 15(57.7)	16 9(56.3)	16 11(68.8)
12.神戸大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	40 24(60.0)	0 0(－)	0 0(－)	39 15(38.5)	39 15(38.5)	39 15(38.5)	34 16(47.1)	34 0(0.0)
13.岡山大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	28 20(71.4)	0 0(－)	0 0(－)	20 13(65.0)	5 2(40.0)	0 0(－)	18 9(50.0)	0 0(－)
14.広島大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	30 13(43.3)	0 0(－)	0 0(－)	24 13(54.2)	5 3(60.0)	0 0(－)	10 5(50.0)	0 0(－)
15.香川大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	15 4(26.7)	0 0(－)	0 0(－)	13 6(46.2)	4 2(50.0)	4 2(50.0)	0 0(－)	0 0(－)
16.九州大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	24 11(45.8)	11 6(54.5)	22 11(50.0)	17 11(64.7)	17 11(64.7)
17.熊本大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	20 15(75.0)	0 0(－)	20 15(75.0)	9 8(88.9)	0 0(－)	9 8(88.9)	13 4(30.8)	13 4(30.8)
18.鹿児島大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	11 8(72.7)	0 0(－)	0 0(－)	8 3(37.5)	4 2(50.0)	4 2(50.0)	5 3(60.0)	5 3(60.0)
19.琉球大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)
20.東京都立大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	21 11(52.4)	0 0(－)	0 0(－)	14 9(64.3)	14 9(64.3)	14 9(64.3)	10 4(40.0)	10 4(40.0)
21.大阪公立大学	0 0(－)	0 0(－)	0 0(－)	10 5(50.0)	10 5(50.0)	10 5(50.0)	16 10(62.5)	8 6(75.0)	16 10(62.5)	3 0(0.0)	6 3(50.0)

※ 大阪公立大学（令和４年度に大阪市立大学と大阪府立大学を統合して新設）の４年次の在籍者数は大阪市立大学の在籍者数。

（次ページ続く）

（参考②） 令和６年度法曹コース 女性の学年別在籍者数・割合

法曹コースを置く大学	1年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	2年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	3年次在籍者	早期卒業希望者	特別選抜希望者	4年次在籍者	特別選抜希望者
22.北海学園大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	48 27(56.3)	48 27(56.3)	48 27(56.3)	0 0(−)	0 0(−)
23.学習院大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	15 9(60.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
24.慶應義塾大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	48 27(56.3)	48 27(56.3)	48 27(56.3)	0 0(−)	0 0(−)
25.上智大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	24 20(83.3)	24 20(83.3)	24 20(83.3)	19 15(78.9)	17 13(76.5)	17 13(76.5)	2 0(0.0)	1 0(0.0)
26.専修大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	12 7(58.3)	12 7(58.3)	12 7(58.3)	14 7(50.0)	7 3(42.9)	7 3(42.9)	0 0(−)	0 0(−)
27.創価大学	21 8(38.1)	0 0(−)	0 0(−)	21 13(61.9)	0 0(−)	0 0(−)	21 8(38.1)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	15 8(53.3)	14 7(50.0)
28.中央大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	187 84(44.9)	159 68(42.8)	159 68(42.8)	78 31(39.7)	50 21(42.0)	50 21(42.0)	12 5(41.7)	12 5(41.7)
29.日本大学	60 31(51.7)	0 0(−)	0 0(−)	32 15(46.9)	7 2(28.6)	7 2(28.6)	24 8(33.3)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	46 21(45.7)	0 0(−)
30.法政大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	24 12(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	14 9(64.3)	8 4(50.0)	10 6(60.0)	7 4(57.1)	7 4(57.1)
31.明治大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	185 62(33.5)	0 0(−)	0 0(−)	96 40(41.7)	13 6(46.2)	12 6(50.0)	90 33(36.7)	2 0(0.0)
32.明治学院大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	28 17(60.7)	28 17(60.7)	28 17(60.7)	13 9(69.2)	12 8(66.7)	13 9(69.2)	3 1(33.3)	0 0(−)
33.立教大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	19 11(57.9)	0 0(−)	0 0(−)	16 8(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	3 1(33.3)	0 0(−)
34.早稲田大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	187 95(50.8)	0 0(−)	0 0(−)	156 77(49.4)	34 20(58.8)	34 20(58.8)	90 31(34.4)	90 31(34.4)
35.愛知大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	3 1(33.3)	3 1(33.3)	3 1(33.3)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	2 2(100.0)	2 2(100.0)
36.同志社大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	30 17(56.7)	74 39(52.7)	30 17(56.7)	0 0(−)	0 0(−)
37.立命館大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	89 37(41.6)	22 11(50.0)	89 37(41.6)	57 30(52.6)	25 13(52.0)	57 30(52.6)	42 17(40.5)	42 17(40.5)
38.関西大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	45 17(37.8)	0 0(−)	0 0(−)	53 26(49.1)	22 8(36.4)	0 0(−)	43 17(39.5)	0 0(−)
39.関西学院大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	35 20(57.1)	0 0(−)	0 0(−)	40 24(60.0)	14 9(64.3)	15 8(53.3)	27 21(77.8)	0 0(−)
40.近畿大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	25 8(32.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
41.西南学院大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	30 17(56.7)	14 7(50.0)	27 15(55.6)	23 16(69.6)	1 0(0.0)	12 9(75.0)	19 9(47.4)	5 1(20.0)
42.福岡大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	3 0(0.0)	3 0(0.0)
合計	81 39(48.1)	0 0(−)	0 0(−)	1,383 655(47.4)	365 181(49.6)	482 234(48.5)	1,304 591(45.3)	525 265(50.5)	541 283(52.3)	980 383(39.1)	605 210(34.7)

（参考③）令和５年度法曹コースにおける、修了者数と進路

（単位：人）

法曹コースを置く大学	令和5年度法曹コース修了者の進路（令和4年度法曹コース修了者の進路）																			
	修了生計			協定先の法科大学院に進学			非協定先の法科大学院に進学			法科大学院以外の大学院に進学			就職			その他			不明		
		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者
1.北海道大学	6(16)	3(5)	3(11)	2(12)	1(5)	1(7)	3(4)	2(0)	1(4)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2.東北大学	17(18)	1(2)	16(16)	11(11)	1(2)	10(9)	5(2)	0(0)	5(2)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(4)	0(0)	0(4)	0(0)	0(0)	0(0)
3.千葉大学	14(7)	2(2)	12(5)	5(2)	1(2)	4(0)	3(1)	1(0)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)	6(4)	0(0)	6(4)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
4.東京大学	121(73)	13(9)	108(64)	59(45)	13(9)	46(36)	14(3)	0(0)	14(3)	0(0)	0(0)	0(0)	11(7)	0(0)	11(7)	35(17)	0(0)	35(17)	2(1)	0(0)	2(1)
5.一橋大学	25(23)	6(9)	19(14)	21(16)	6(8)	15(8)	0(2)	0(0)	0(2)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	0(0)	3(2)	0(3)	0(1)	0(2)	1(0)	0(0)	1(0)
6.新潟大学	9(11)	1(2)	8(9)	5(5)	1(2)	4(3)	0(3)	0(0)	0(3)	0(1)	0(0)	0(1)	3(2)	0(0)	3(2)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
7.金沢大学	5(3)	4(2)	1(1)	4(2)	4(2)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
8.信州大学	2(2)	2(2)	0(0)	2(2)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
9.名古屋大学	2(0)	2(0)	0(0)	2(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
10.京都大学	21(26)	8(14)	13(12)	18(24)	8(14)	10(10)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	2(0)	0(2)	0(0)	0(2)	0(0)	0(0)	0(0)
11.大阪大学	26(21)	5(5)	21(16)	13(8)	2(3)	11(5)	10(8)	3(2)	7(6)	0(0)	0(0)	0(0)	1(5)	0(0)	1(5)	2(0)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)
12.神戸大学	15(19)	6(11)	9(8)	11(11)	5(6)	6(5)	2(5)	1(4)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	2(1)	0(0)	2(1)	0(1)	0(0)	0(1)	0(1)	0(1)	0(0)
13.岡山大学	12(12)	0(1)	12(11)	6(6)	0(1)	6(5)	5(4)	0(0)	5(4)	0(1)	0(0)	0(1)	0(1)	0(0)	0(1)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
14.広島大学	6(2)	0(2)	6(0)	2(1)	0(1)	2(0)	2(1)	0(1)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)
15.香川大学	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
16.九州大学	7(14)	2(2)	5(12)	3(7)	1(0)	2(7)	4(7)	1(2)	3(5)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
17.熊本大学	9(9)	1(3)	8(6)	7(7)	1(3)	6(4)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)
18.鹿児島大学	3(6)	3(2)	0(4)	3(5)	3(2)	0(3)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
19.東京都立大学	4(5)	1(0)	3(5)	4(4)	1(0)	3(4)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
20.大阪公立大学	6(1)	3(0)	3(1)	2(0)	0(0)	2(0)	4(0)	3(0)	1(0)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

（次ページ続く）

※（）内は令和４年度法曹コース修了者の値（令和５年５月１日時点で把握している数値）
※ 大阪公立大学（令和４年度に大阪市立大学と大阪府立大学を統合して新設）の令和５年度法曹コース修了者数は大阪市立大学の修了者数。

（参考③）令和５年度法曹コースにおける、修了者数と進路

（単位：人）

法曹コースを置く大学	令和5年度法曹コース修了者の進路（令和4年度法曹コース修了者の進路）																			
	修了生計			協定先の法科大学院に進学			非協定先の法科大学院に進学			法科大学院以外の大学院に進学			就職			その他			不明		
		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者
21.北海学園大学	6(7)	4(2)	2(5)	4(3)	3(0)	1(3)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(3)	1(1)	0(2)	0(1)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
22.学習院大学	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
23.慶應義塾大学	30(23)	29(23)	1(0)	29(21)	28(21)	1(0)	1(2)	1(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
24.上智大学	14(10)	9(6)	5(4)	5(8)	5(6)	0(2)	9(0)	4(0)	5(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(0)	0(2)
25.創価大学	13(19)	0(2)	13(17)	11(16)	0(2)	11(14)	0(1)	0(0)	0(1)	0(1)	0(0)	0(1)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
26.中央大学	55(66)	45(44)	10(22)	13(16)	8(9)	5(7)	35(48)	30(35)	5(13)	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(0)	0(2)	7(0)	7(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
27.日本大学	32(2)	0(2)	32(0)	7(1)	0(1)	7(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(1)	0(0)	25(0)	0(0)	25(0)
28.法政大学	10(14)	5(7)	5(7)	4(6)	3(6)	1(0)	2(3)	1(1)	1(2)	0(3)	0(0)	0(3)	2(2)	0(0)	2(2)	1(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
29.明治大学	7(10)	3(4)	4(6)	6(6)	3(4)	3(2)	1(2)	0(0)	1(2)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)
30.明治学院大学	5(7)	5(7)	0(0)	5(7)	5(7)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
31.立教大学	4(3)	3(3)	1(0)	3(3)	3(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
32.早稲田大学	69(41)	14(10)	55(31)	41(23)	13(7)	28(16)	16(12)	1(1)	15(11)	1(0)	0(0)	1(0)	4(1)	0(0)	4(1)	7(5)	0(2)	7(3)	0(0)	0(0)	0(0)
33.愛知大学	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
34.同志社大学	28(15)	25(13)	3(2)	22(4)	20(3)	2(1)	6(11)	5(10)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
35.立命館大学	29(21)	8(8)	21(13)	18(15)	7(8)	11(7)	7(5)	1(0)	6(5)	1(1)	0(0)	1(1)	2(0)	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
36.関西大学	34(36)	28(34※2)	6(2)	2(4)	0(4)	2(0)	1(2)	1(2)	0(0)	2(1)	2(0)	0(1)	3(1)	0(0)	3(1)	26(28)	25(28)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
37.関西学院大学	7(11)	5(11)	2(0)	5(8)	5(8)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(2)	0(0)	2(0)	0(0)	2(0)
38.近畿大学	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
39.西南学院大学	15(9)	2(5)	13(4)	2(8)	2(5)	0(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	13(1)	0(0)	13(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
40.福岡大学	3(2)	1(2)	2(0)	3(2)	1(2)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	672(564)	249(256)	423(308)	360(319)	158(158)	202(161)	133(129)	55(60)	78(69)	6(12)	2(1)	4(11)	56(34)	1(1)	55(33)	83(66)	33(35)	50(31)	34(4)	0(1)	34(3)

※　関西大学の令和4年度3年次法曹コース修了者34人のうち、早期卒業者は7人。

（参考④）令和５年度法曹コースにおける、女性の修了者と進路

（単位：人）

法曹コースを置く大学	上段：令和5年度法曹コース修了者数　下段：女性の修了者（合計に占める割合（%））																				
	修了生計			協定先の法科大学院に進学			非協定先の法科大学院に進学			法科大学院以外の大学院に進学			就職			その他			不明		
		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者
1.北海道大学	6 1(16.7)	3 1(33.3)	3 0(0.0)	2 0(0.0)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	3 1(33.3)	2 1(50.0)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
2.東北大学	17 5(29.4)	1 0(0.0)	16 5(31.3)	11 4(36.4)	1 0(0.0)	10 4(40.0)	5 1(20.0)	0 0(−)	5 1(20.0)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
3.千葉大学	14 3(21.4)	2 0(0.0)	12 3(25.0)	5 1(20.0)	1 0(0.0)	4 1(25.0)	3 1(33.3)	1 0(0.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	6 1(16.7)	0 0(−)	6 1(16.7)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
4.東京大学	121 33(27.3)	13 5(38.5)	108 28(25.9)	59 17(28.8)	13 5(38.5)	46 12(26.1)	14 5(35.7)	0 0(−)	14 5(35.7)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	11 4(36.4)	0 0(−)	11 4(36.4)	35 7(20.0)	0 0(−)	35 7(20.0)	2 0(0.0)	0 0(−)	2 0(0.0)
5.一橋大学	25 11(44.0)	6 3(50.0)	19 8(42.1)	21 10(47.6)	6 3(50.0)	15 7(46.7)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	3 1(33.3)	0 0(−)	3 1(33.3)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)
6.新潟大学	9 3(33.3)	1 0(0.0)	8 3(37.5)	5 3(60.0)	1 0(0.0)	4 3(75.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	3 0(0.0)	0 0(−)	3 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)
7.金沢大学	5 1(20.0)	4 1(25.0)	1 0(0.0)	4 1(25.0)	4 1(25.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
8.信州大学	2 1(50.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	2 1(50.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
9.名古屋大学	2 1(50.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	2 1(50.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
10.京都大学	21 6(28.6)	8 2(25.0)	13 4(30.8)	18 6(33.3)	8 2(25.0)	10 4(40.0)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	2 0(0.0)	0 0(−)	2 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
11.大阪大学	26 15(57.7)	5 2(40.0)	21 13(61.9)	13 5(38.5)	2 0(0.0)	11 5(45.5)	10 8(80.0)	3 2(66.7)	7 6(85.7)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 1(100.0)	0 0(−)	1 1(100.0)	2 1(50.0)	0 0(−)	2 1(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
12.神戸大学	15 9(60.0)	6 2(33.3)	9 7(77.8)	11 6(54.5)	5 2(40.0)	6 4(66.7)	2 1(50.0)	1 0(0.0)	1 1(100.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	2 2(100.0)	0 0(−)	2 2(100.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
13.岡山大学	12 3(25.0)	0 0(−)	12 3(25.0)	6 2(33.3)	0 0(−)	6 2(33.3)	5 1(20.0)	0 0(−)	5 1(20.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
14.広島大学	6 1(16.7)	0 0(−)	6 1(16.7)	2 0(0.0)	0 0(−)	2 0(0.0)	2 0(0.0)	0 0(−)	2 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	2 1(50.0)	0 0(−)	2 1(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
15.香川大学	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
16.九州大学	7 4(57.1)	2 0(0.0)	5 4(80.0)	3 2(66.7)	1 0(0.0)	2 2(100.0)	4 2(50.0)	1 0(0.0)	3 2(66.7)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
17.熊本大学	9 4(44.4)	1 1(100.0)	8 3(37.5)	7 4(57.1)	1 1(100.0)	6 3(50.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	0 0(−)	1 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
18.鹿児島大学	3 0(0.0)	3 0(0.0)	0 0(−)	3 0(0.0)	3 0(0.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
19.東京都立大学	4 4(100.0)	1 1(100.0)	3 3(100.0)	4 4(100.0)	1 1(100.0)	3 3(100.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)
20.大阪公立大学	6 3(50.0)	3 1(33.3)	3 2(66.7)	2 1(50.0)	0 0(−)	2 1(50.0)	4 2(50.0)	3 1(33.3)	1 1(100.0)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)	0 0(−)

※大阪公立大学（令和４年度に大阪市立大学と大阪府立大学を統合して新設）の令和４年度法曹コース修了者数は大阪市立大学の修了者数。

（次ページ続く）

（参考④）令和５年度法曹コースにおける、女性の修了者と進路

（単位：人）

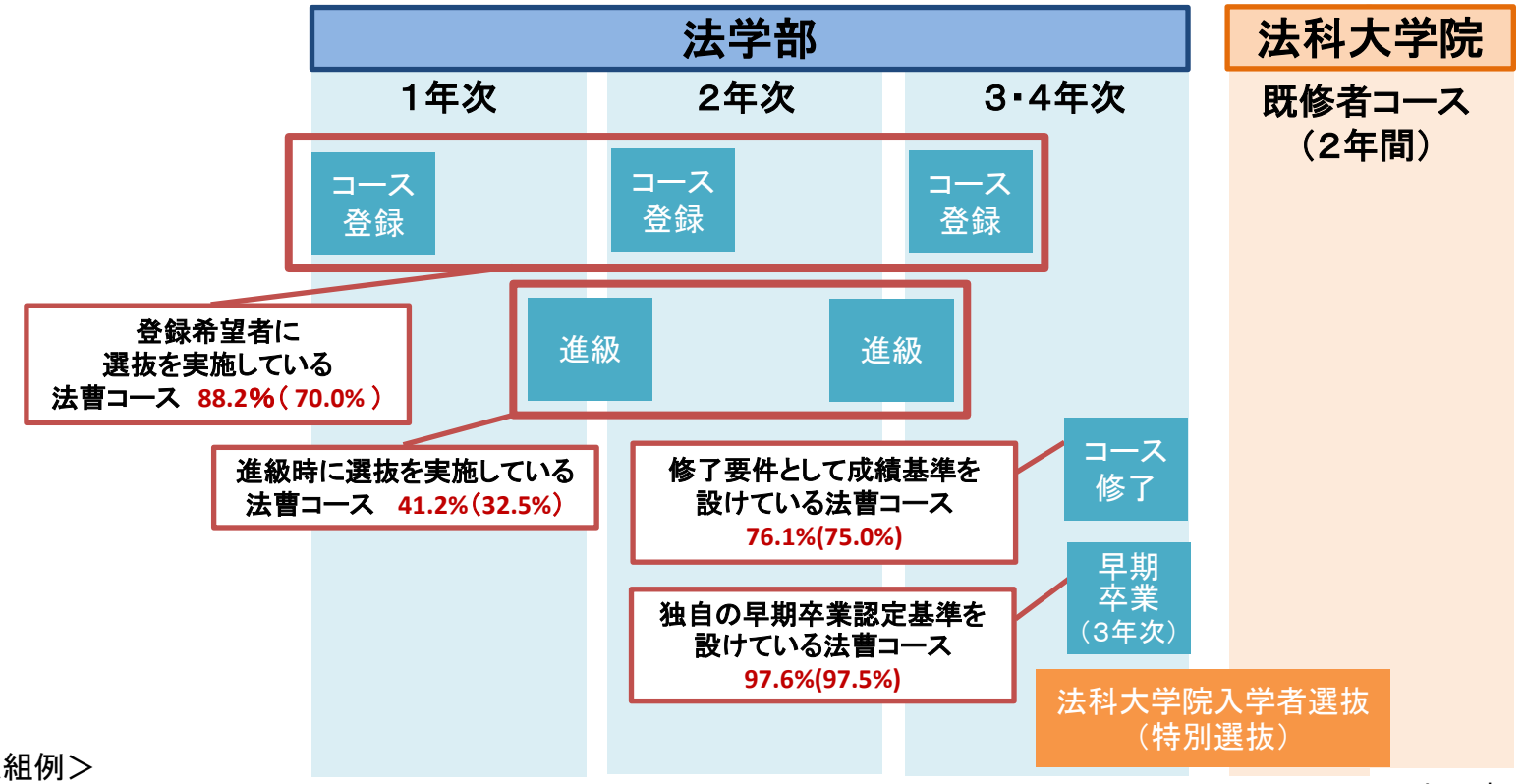
法曹コースを置く大学	上段：令和5年度法曹コース修了者数　下段：女性の修了者（合計に占める割合（%））																				
	修了生計			協定先の法科大学院に進学			非協定先の法科大学院に進学			法科大学院以外の大学院に進学			就職			その他			不明		
		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者		3年次修了者	4年次修了者
21.北海学園大学	6 3(50.0)	4 3(75.0)	2 0(0.0)	4 2(50.0)	3 2(66.7)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	1 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
22.学習院大学	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
23.慶應義塾大学	30 18(60.0)	29 17(58.6)	1 1(100.0)	29 17(58.6)	28 16(57.1)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
24.上智大学	14 11(78.6)	9 7(77.8)	5 4(80.0)	5 4(80.0)	5 4(80.0)	0 0(–)	9 7(77.8)	4 3(75.0)	5 4(80.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
25.創価大学	14 11(78.6)	0 0(–)	14 11(78.6)	11 8(72.7)	0 0(–)	11 8(72.7)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	2 2(100.0)	0 0(–)	2 2(100.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	1 1(100.0)	0 0(–)	1 1(100.0)
26.中央大学	55 26(47.3)	45 20(44.4)	10 6(60.0)	13 8(61.5)	8 5(62.5)	5 3(60.0)	35 14(40.0)	30 11(36.7)	5 3(60.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	7 4(57.1)	7 4(57.1)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
27.日本大学	32 7(21.9)	0 0(–)	32 7(21.9)	7 3(42.9)	0 0(–)	7 3(42.9)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	25 4(16.0)	0 0(–)	25 4(16.0)
28.法政大学	10 6(60.0)	5 5(100.0)	5 1(20.0)	4 3(75.0)	3 3(100.0)	1 0(0.0)	2 1(50.0)	1 1(100.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	2 1(50.0)	0 0(–)	2 1(50.0)	1 1(100.0)	1 1(100.0)	0 0(–)	1 0(0.0)	0 0(–)	1 0(0.0)
29.明治大学	7 5(71.4)	3 2(66.7)	4 3(75.0)	6 4(66.7)	3 2(66.7)	3 2(66.7)	1 1(100.0)	0 0(–)	1 1(100.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
30.明治学院大学	5 2(40.0)	5 2(40.0)	0 0(–)	5 2(40.0)	5 2(40.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
31.立教大学	4 1(25.0)	3 1(33.3)	1 0(0.0)	3 1(33.3)	3 1(33.3)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	1 0(0.0)	0 0(–)	1 0(0.0)
32.早稲田大学	69 34(49.3)	14 10(71.4)	55 24(43.6)	41 18(43.9)	13 9(69.2)	28 9(32.1)	16 11(68.8)	1 1(100.0)	15 10(66.7)	1 1(100.0)	0 0(–)	1 1(100.0)	4 1(25.0)	0 0(–)	4 1(25.0)	7 3(42.9)	0 0(–)	7 3(42.9)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
33.愛知大学	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
34.同志社大学	28 10(35.7)	25 10(40.0)	3 0(0.0)	22 7(31.8)	20 7(35.0)	2 0(0.0)	6 3(50.0)	5 3(60.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
35.立命館大学	29 10(34.5)	8 1(12.5)	21 9(42.9)	18 6(33.3)	7 1(14.3)	11 5(45.5)	7 2(28.6)	1 0(0.0)	6 2(33.3)	1 1(100.0)	0 0(–)	1 1(100.0)	2 1(50.0)	0 0(–)	2 1(50.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	1 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
36.関西大学	34 15(44.1)	28 14(50.0)	6 1(16.7)	2 1(50.0)	0 0(–)	2 1(50.0)	1 0(0.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	2 2(100.0)	2 2(100.0)	0 0(–)	3 0(0.0)	0 0(–)	3 0(0.0)	26 12(46.2)	25 12(48.0)	1 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
37.関西学院大学	7 4(57.1)	5 2(40.0)	2 2(100.0)	5 2(40.0)	5 2(40.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	2 2(100.0)	0 0(–)	2 2(100.0)
38.近畿大学	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
39.西南学院大学	15 10(66.7)	2 2(100.0)	13 8(61.5)	2 2(100.0)	2 2(100.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	13 8(61.5)	0 0(–)	13 8(61.5)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
40.福岡大学	3 0(0.0)	1 0(0.0)	2 0(0.0)	3 0(0.0)	1 0(0.0)	2 0(0.0)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)	0 0(–)
合計	672 281(41.8)	249 117(47.0)	423 164(38.8)	360 156(43.3)	158 73(46.2)	202 83(41.1)	133 62(46.6)	55 24(43.6)	78 38(48.7)	6 4(66.7)	2 2(100.0)	4 2(50.0)	56 23(41.1)	1 1(100.0)	55 22(40.0)	83 29(34.9)	33 17(51.5)	50 12(24.0)	34 7(20.6)	0 0(–)	298 7(20.6)

Ⅱ．法曹コースの登録・進級時の選抜、修了要件等

※赤字は今年度の調査で新規に回答があったものや前年度から増加したもの。

1．概要

法曹コースを修了して法科大学院に入学する学生の質を保証するため、各協定において、法曹コース登録時・進級時における選抜の実施、法曹コース修了要件や独自の早期卒業認定基準の設定、法科大学院入学者選抜（特別選抜）の実施など、様々な仕組みが設けられている。



※カッコ内は令和５年度調査の結果

＜取組例＞

■ 一橋大学

○2年又は３年進級時に登録。GPA上位者より選抜。法曹コース修了要件としてGPA基準を設定。早期卒業には、より高いGPA基準と法科大学院合格が要件。

○連携先の一橋大学法科大学院の修了生の弁護士による「法律実務入門」を開設。授業外でもゼミナール形式の法律文書作成指導を実施。

■ 京都大学

○登録時の選抜はなし。授業は１年前期から開始。法曹コース修了要件として成績基準を設定。早期卒業は法曹コース修了や法科大学院合格が要件。

○連携先の京都大学法科大学院の実務家教員による「現代社会と裁判」を開設。法曹の役割への理解を深めるとともに、法科大学院教育への導入を図っている。

■ 中央大学

○ 2年又は３年進級時に登録。２年終了時に選抜試験を実施。法曹コース修了要件にGPA基準を設定。早期卒業には、独自の認定試験と法科大学院への合格が要件。

○学生が起案した法文書について、研究者教員と実務家教員が連携しながら、解説と添削を行う「実定法特講」と「法曹特講」を法曹コース必修科目として開設。

■ 明治学院大学

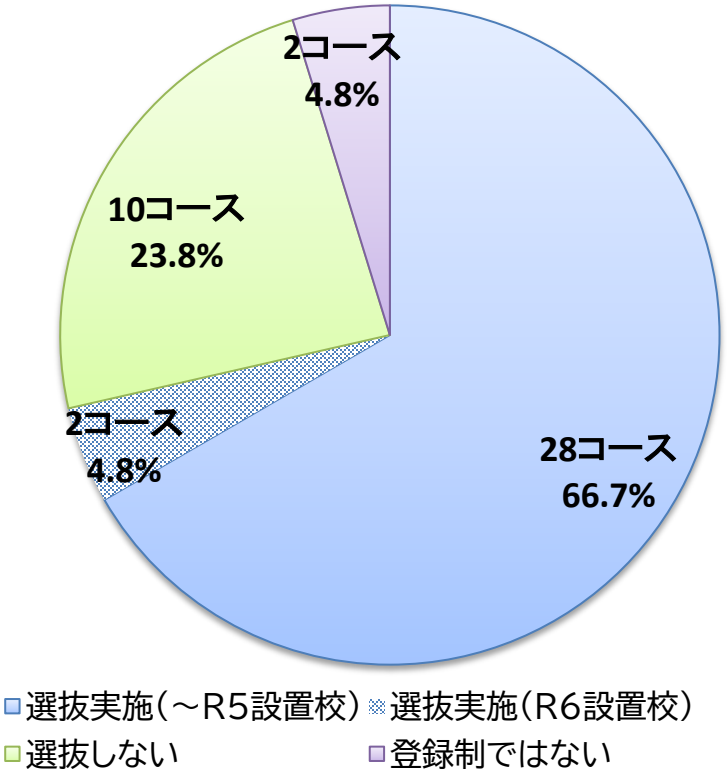
○ ２年進級時に登録。面接を実施し法曹志望度や適性を把握。法曹コース修了要件としてGPA基準を設定。早期卒業は法曹コース修了や法科大学院合格が要件。

○定期試験とは別に知識定着度確認試験（共通到達度確認試験・論文式試験）を実施し、一人一人の学生に結果を踏まえた学修指導を行っている。

2．法曹コース登録時の選抜状況（全体）

法曹コースを希望する学生に対し、法曹コース登録時に選抜を行っていますか。行っている場合、どのような方法ですか。(複数回答可)

①応募要件に成績基準（GPA、修得単位数等）を設定　②成績による選抜
③法曹コースに登録するための選抜試験の実施　④個別面談による法曹志望度や適性の把握　⑤その他



■ 法曹コース登録時に選抜を実施（30コース）

＜選抜方法＞　※下記のいずれか又は組み合わせにより実施

①応募要件に成績基準（GPA、修得単位数等）を設定（19コース）
（前年比＋２コース）

②成績による選抜（20コース）
（前年比＋１コース）

③法曹コースに登録するための選抜試験（５コース）
（前年比±0コース）

④個別面談による志望度の把握（８コース）
（前年比±0コース）

⑤その他（７コース）
（前年比＋1コース）

・書類審査により志望理由等も考慮（千葉、上智、明治学院、関西）
・法学部内の特定のプログラム（コース）の在籍者のみ、法曹コースに登録することを認めており、当該プログラム（コース）の登録に際しては、選抜が実施されている（金沢、琉球、立命館）

（参考）法曹コース登録時の選抜状況（内訳）

法曹コースを置く大学	登録制	法曹コース登録時の選抜の有無	法曹コース登録時の選抜方法					選抜時期（出願開始～結果公表）	定員
			①応募要件に成績基準を設定	②成績による選抜	③選抜試験の実施	④個別面談の実施	⑤その他		
1.北海道大学	○	×	－	－	－	－	－	－	30人程度
2.東北大学	○	×	－	－	－	－	－	－	30
3.千葉大学	○	○	○	○	×	○	○（※1）	1年次7～9月	15人程度
4.東京大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
5.一橋大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次3月、2年次3月	25人程度
6.新潟大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
7.金沢大学	○	○（※2）	×	○（※2）	×	×	×	3年次4月	30
8.信州大学	○	○	○	○	×	×	×	2年次4～9月	10
9.名古屋大学	○	○	○	×	×	×	×	1年次12～3月	20
10.京都大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
11.大阪大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次3月 2年次3月 3年次3月	2年次30人程度 3年次20人程度
12.神戸大学	○	○	×	○	×	×	×	1年次2～3月 2年次2～3月	2年次40人程度 3年次40人程度
13.岡山大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次1～3月	40人程度
14.広島大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
15.香川大学	○	○	○	○	○	○	×	1年次2～3月	15
16.九州大学	○	○（※3）	×	○（※3）	×	×	×	－	30人程度
17.熊本大学	○	○	×	○	×	×	×	1年次6～9月、12～3月	20
18.鹿児島大学	○	○	○	×	×	×	×	1年次2～3月、2年次2～3月	なし
19.琉球大学	○	○	○	×（※4）	×（※4）	×（※4）	○（※4）	1年次3月（※4）	定めない （5～9名想定）
20.東京都立大学	○	○	×	○	×	×	×	1年次12～3月	20人程度
21.大阪公立大学	○	○	○	○	×	×	×	2年次3月、3年次9月 3年次3月、4年次9月	20

（注）

※1　千葉大学は書類審査及び面接審査を実施。

※2　金沢大学は１年次前期から３年次進級時のコース選択（総合法学コース、公共法政策コース、企業関係法コース）までは成績に関係なく希望者が法曹コースに登録することが可能であるが、3年次進級時に、登録者のうち、総合法学コース（GPA2.0以上等の要件あり）に配属された者が正式に法曹コースの登録者として確定することとなる。

※3　九州大学は登録希望者数が定員を超える場合には、一部の科目の成績及び単位修得状況により登録の可否を決定することとしている。

※4　琉球大学は２年次から法学プログラムに所属する学生を対象に選抜を実施。R6に法曹コース登録を志望する者がいなかったため、実際には選抜を実施していない。

（次ページ続く）

（参考）法曹コース登録時の選抜状況（内訳）

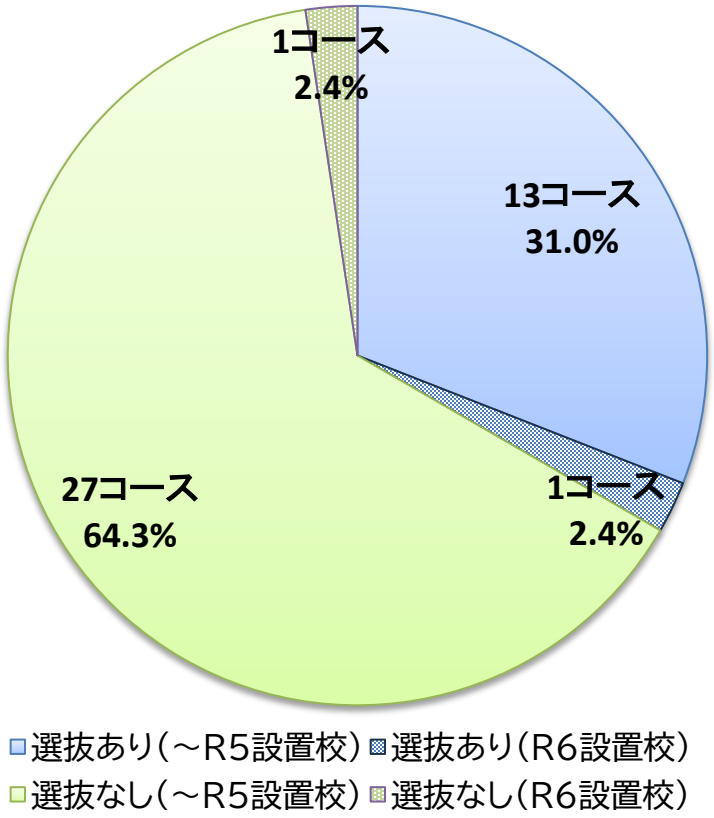
法曹コースを置く大学	登録制	法曹コース登録時の選抜の有無	法曹コース登録時の選抜方法					選抜時期（出願開始～結果公表）	定員
			①応募要件に成績基準を設定	②成績による選抜	③選抜試験の実施	④個別面談の実施	⑤その他		
22.北海学園大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
23.学習院大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
24.慶應義塾大学	×	－	－	－	－	－	－	－	なし
25.上智大学	○	○	○	×	×	×	○（※1）	1年次12～3月	30
26.専修大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次12～3月	15
27.創価大学	○	○	×	×	○	○	×	入学前12～3月 1年次2～3月	25
28.中央大学	○	○	○	×	○（※2）	×	×	1年次3月、2年次3月	なし
29.日本大学	○	○	○	○	○	○	×	入学時（入学者選抜の結果で選抜）、 1年次12～3月 2年次6～9月、12～3月	なし
30.法政大学	○	○	×	○	×	×	×	1年次1～3月	20
31.明治大学	○	×	－	－	－	－	－	－	80
32.明治学院大学	○	○	×	×	×	○	○（※1）	1年次1～2月	30
33.立教大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次3月	20人程度
34.早稲田大学	○	×	－	－	－	－	－	－	なし
35.愛知大学	○	○	○	○	×	○	×	1年次9～3月	5人程度
36.同志社大学	×	－	－	－	－	－	－	－	50
37.立命館大学	○	○（※3）	×	×	×	×	○（※3）	「司法特修」の選抜時期は 1年次1～3月（※3）	なし
38.関西大学	○	○	×	○	×	×	○（※1）	1年次1～3月	50人程度
39.関西学院大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次11～3月	50
40.近畿大学	○	○	×	×	×	○	×	1年次12～1月	30人程度
41.西南学院大学	○	○	○	○	×	×	×	1年次1～2月	30
42.福岡大学	○	○	○	○	○	○	×	1年次1～3月、2年次1～3月	10
合計	40	30	19	21	5	8	6		

（注）
※1　上智大学、明治学院大学、関西大学では、法曹を志す理由等を記載する「志望理由書」の内容も勘案している。
※2　中央大学は２年次進級時に出願する場合は、所定の修得単位数の修得を応募要件とし、３年次進級時に出願する場合は、所定の修得単位数を修得していること及びGPA基準を満たすことを応募要件とし、選抜試験を実施している。
※3　立命館大学の法曹コースは、「司法特修」（法曹等を目指す学生向けのプログラム）を選択する学生（定員105名）のみが登録することができ、「司法特修」には成績（GPA）による選抜がある。

2．法曹コースにおける進級時の選抜状況（全体）

法曹コースに在籍する学生の進級時に、何らかの選抜を行っていますか。行っている場合、どのような方法ですか。（複数回答可）

①在学中の成績による選抜　②法曹コース進級用の選抜試験の実施　③個別面談による法曹志望度や適性の把握
④その他



■ **選抜方法**（下記のいずれか又は組み合わせにより実施）

①在学中の成績による選抜（11コース）（前年比＋1コース）

②法曹コース進級用の選抜試験の実施（１コース）

（前年比±0コース）

③個別面談による法曹志望度や適性の把握（４コース）

（前年比±0コース）

④その他（１コース）

（前年比±0コース）

・３年次進級時点で、適正を欠くと思われる者がいると判断した場合は、他のコースへ変更させる機会あり（明治）

（参考） 法曹コースにおける進級時の選抜状況（内訳）

法曹コースを置く大学	登録制	法曹コース登録時の選抜の有無	進級時の選抜の有無	進級時の選抜方法			
				①成績による選抜	②選抜試験の実施	③個別面談の実施	④その他
1.北海道大学	○	×	×	－	－	－	－
2.東北大学	○	×	×	－	－	－	－
3.千葉大学	○	○	○	○	×	×	×
4.東京大学	○	×	×	－	－	－	－
5.一橋大学	○	○	×	－	－	－	－
6.新潟大学	○	×	×	－	－	－	－
7.金沢大学	○	×	×	－	－	－	－
8.信州大学	○	○	○	○	×	×	×
9.名古屋大学	○	○	×	－	－	－	－
10.京都大学	○	×	×	－	－	－	－
11.大阪大学	○	○	○	○	×	×	×
12.神戸大学	○	○	○	○	×	×	×
13.岡山大学	○	○	×	－	－	－	－
14.広島大学	○	×	×	－	－	－	－
15.香川大学	○	○	×	－	－	－	－
16.九州大学	○	○（※1）	○	○	×	×	×
17.熊本大学	○	○	×	－	－	－	－
18.鹿児島大学	○	○	×	－	－	－	－
19.琉球大学	○	○	×	－	－	－	－
20.東京都立大学	○	○	○	○	×	○	×
21.大阪公立大学	○	○	×	－	－	－	－

法曹コースを置く大学	登録制	法曹コース登録時の選抜の有無	進級時の選抜の有無	進級時の選抜方法			
				①成績による選抜	②選抜試験の実施	③個別面談の実施	④その他
22.北海学園大学	○	×	×	－	－	－	－
23.学習院大学	○	×	×	－	－	－	－
24.慶應義塾大学	×	－	－（※2）	－	－	－	－
25.上智大学	○	○	○	○	×	×	×
26.専修大学	○	○	○	○	×	×	×
27.創価大学	○	○	×	－	－	－	－
28.中央大学	○	○	○	×	○（※3）	×	×
29.日本大学	○	○	○	○	×	○	×
30.法政大学	○	○	×	－	－	－	－
31.明治大学	○	×	○	×	×	×	○（※4）
32.明治学院大学	○	○	○	×	×	○	×
33.立教大学	○	○	○	○	×	×	×
34.早稲田大学	○	×	×	－	－	－	－
35.愛知大学	○	○	×	－	－	－	－
36.同志社大学	×	－	－	－	－	－	－
37.立命館大学	○	○（※5）	×	－	－	－	－
38.関西大学	○	○	×	－	－	－	－
39.関西学院大学	○	○	×	－	－	－	－
40.近畿大学	○	○	×（※2）	－	－	－	－
41.西南学院大学	○	○	○	○	×	○	×
42.福岡大学	○	○	×	－	－	－	－
合計	40	29	14	11	1	4	1

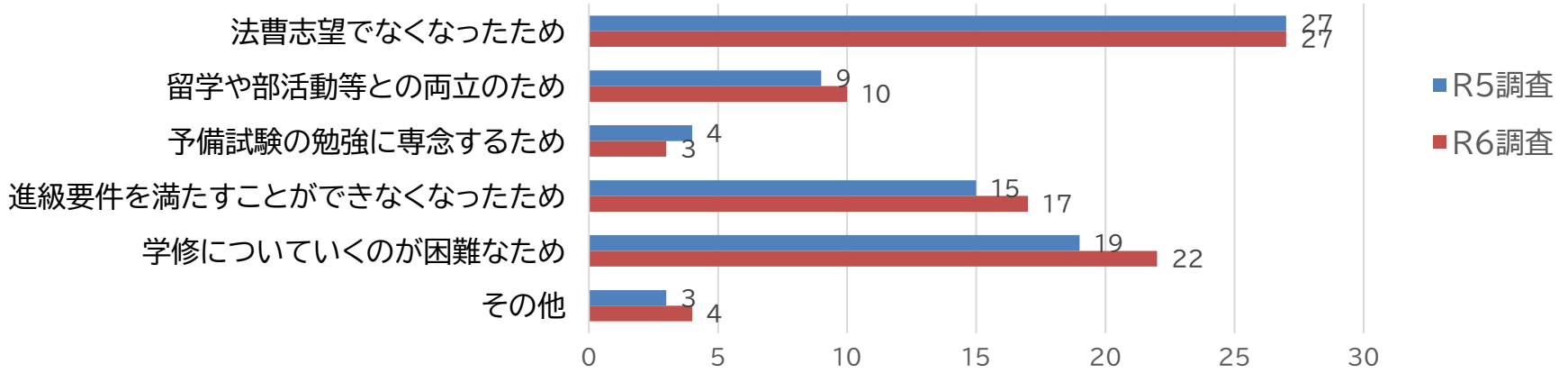
（注）
※１　九州大学は登録希望者数が定員を超える場合には、一部の科目の成績及び単位修得状況により登録の可否を決定することとしている。
※２　慶應義塾大学、近畿大学は法曹コースにおける進級時の選抜は行っていないが、早期卒業の要件として進級時の成績基準を設定している。
※３　中央大学は３年次進級時のみ選抜試験を実施している。
※４　明治大学は２年次前期の法曹コース登録時点では、成績等によらず希望者全員が登録することができるが、３年次進級時点で、適正を欠くと思われる者がいると判断した場合は、他のコース（ビジネスローコース、国際関係法コース、公共法務コース、法と情報コース）へ変更させる機会を設けている。
※５　立命館大学の法曹コースは、「司法特修」（法曹等を目指す学生向けのプログラム）を選択する学生（定員105名）のみが登録することができ、「司法特修」には成績（GPA）による選抜がある。

3．法曹コースを辞めた理由

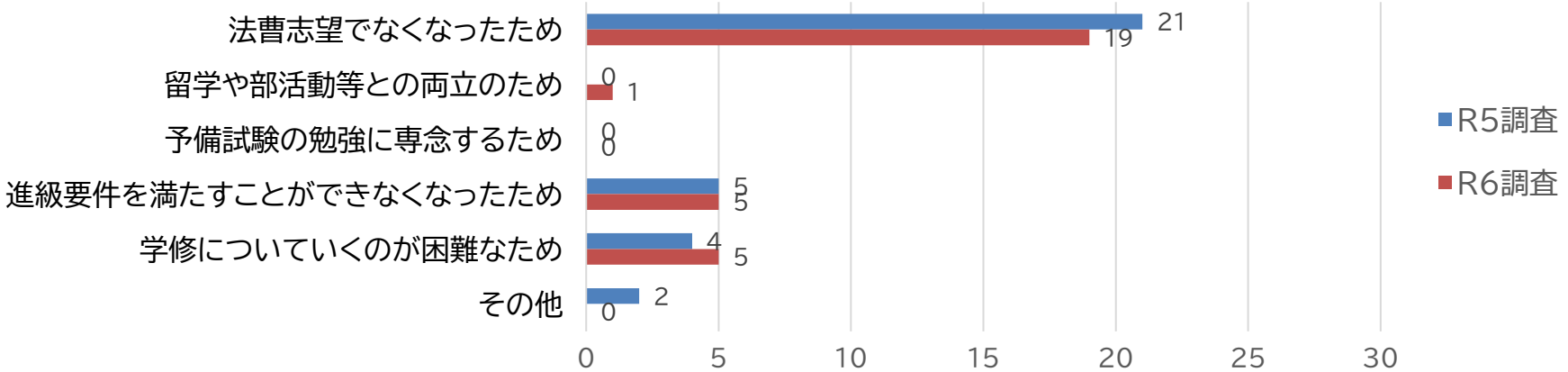
法曹コースを辞めた主な理由として該当すると考えられる項目は何か。（複数回答可）
その中でも、最も対象となる数が多いと考えられる項目は何か。

①法曹志望でなくなったため　②留学や部活動等との両立のため
③予備試験の勉強に専念するため　④進級要件を満たすことができなくなったため
⑤学修についていくのが困難なため　⑥その他

＜主な理由（複数回答可）＞

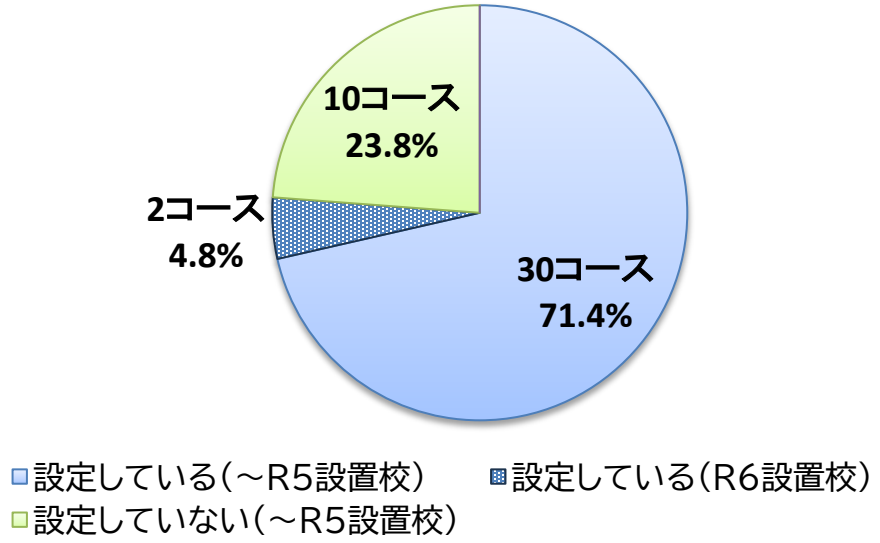


＜その中でも、最も対象となる数が多いと考えられる理由（択一選択）＞

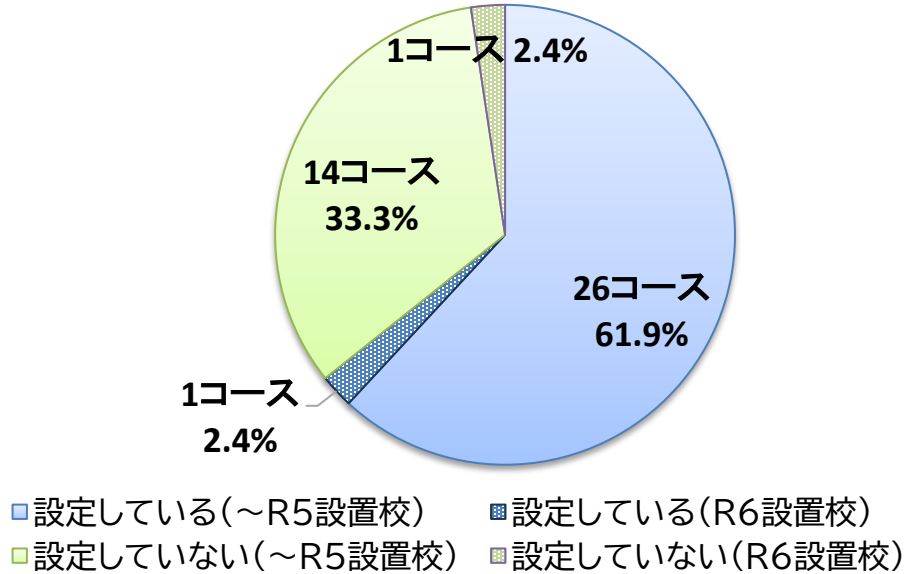


４．法曹コース修了要件（全体）

法曹コースの修了要件として、ＧＰＡ等の成績基準を設定していますか。

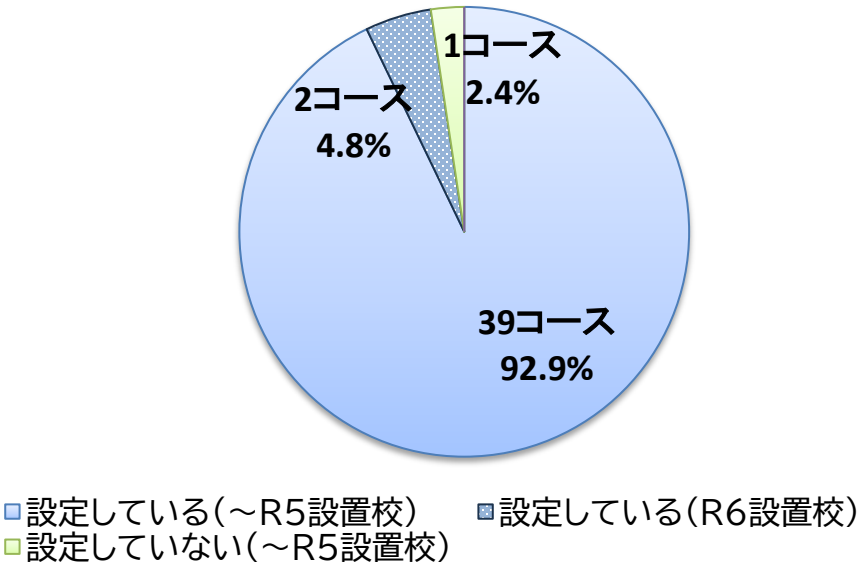


法曹コースの修了要件として、学部の卒業要件を満たすことを要件の一部又は全部として設定していますか。

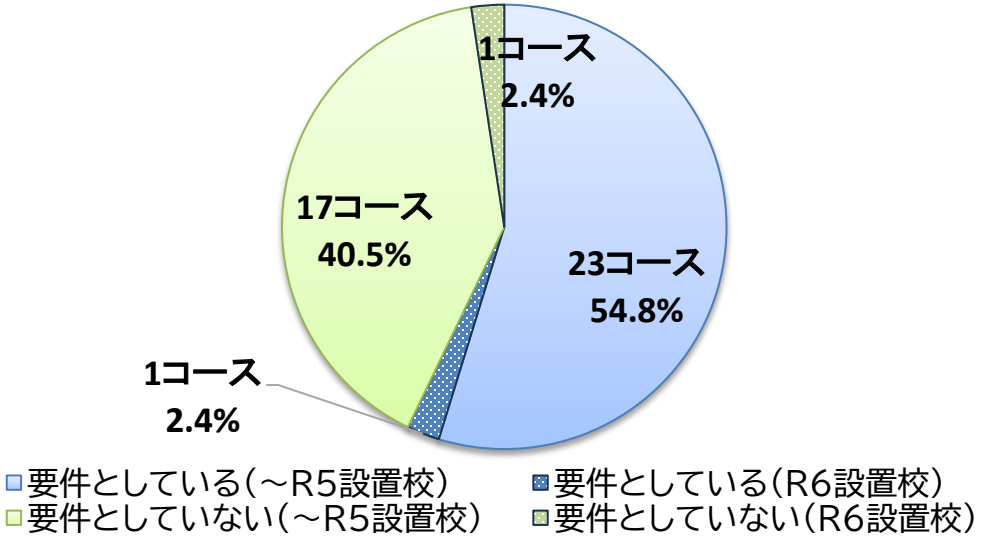


5．早期卒業認定要件（全体）

早期卒業認定要件として、法曹コースを置く学部・学科、法曹コース独自の要件を設けていますか。



早期卒業認定要件として、法科大学院入学者選抜の合格を要件としていますか。



（参考） 法曹コース修了要件及び早期卒業認定要件（内訳）

法曹コースを置く大学	法曹コース修了要件			早期卒業認定要件		
	①GPA等の成績基準	②学部の卒業要件を満たすことを要件の一部又は全部としている	③その他	①法曹コースを置く学部・学科、法曹コース独自の基準を設定	②法科大学院入学者選抜の合格	③その他
1.北海道大学	○	○	×	○	○	×
2.東北大学	×	○	×	○	○	×
3.千葉大学	○	×	×	○	×	×
4.東京大学	×	○	○（※1）	○	○	×
5.一橋大学	○	○	○（※1）	○	○	×
6.新潟大学	×	○	×	○	×	×
7.金沢大学	○	○	○（※1）	○	×	×
8.信州大学	○	×	○（※2）	○	○（※2）	○（※2）
9.名古屋大学	○	○	○（※1）	○	○	×
10.京都大学	○	○	○（※1）	○	○	×
11.大阪大学	○	○	○（※1）	○	○	○（※5）
12.神戸大学	○	×	○（※1）	○	×	×
13.岡山大学	×	○	×	○	×	×
14.広島大学	○	×	×	○	○	×
15.香川大学	○	○	○（※1）	○	○	×
16.九州大学	○	○	○（※1）	○	○	×
17.熊本大学	○	×	×	○	○	×
18.鹿児島大学	○	○	○（※1）	○	×	×
19.琉球大学	○	×	×	○	○	×
20.東京都立大学	○	○	○（※1）	○	○	×
21.大阪公立大学	○	○	○（※1）	○	×	×
22.北海学園大学	○	○	○（※1）	○	×	×
23.学習院大学	○	×	×	○	×	×
24.慶應義塾大学	×	×	○（※1）	○	○	×
25.上智大学	○	○	○（※1）	○	×	×
26.専修大学	○	○	○（※1）	○	○	×
27.創価大学	○	×	○（※1）	×（※4）	×	×
28.中央大学	○	○	○（※3）	○	○	×
29.日本大学	○	×	×	○	×	×
30.法政大学	×	○	×	○	○	×
31.明治大学	○	○	○（※1）	○	×	×
32.明治学院大学	○	×	○（※1）	○	○	×
33.立教大学	○	○	○	○	○	×
34.早稲田大学	×	○	×	○	×	×
35.愛知大学	×	○	×	○	×	×
36.同志社大学	○	×	×	○	○	×
37.立命館大学	○	×	×	○	○	×
38.関西大学	×	○	×	○	○	×
39.関西学院大学	○	×	×	○	○	×
40.近畿大学	○	○	×	○	○	×
41.西南学院大学	×	×	○（※1）	○	×	×
42.福岡大学	○	○	○（※1）	○	○（※6）	×
合計	32	27	23	42	26	2

（注）
※１　指定した科目の単位修得を法曹コース修了要件としている。
※２　信州大学は法科大学院入学者選抜の合格を法曹コース修了要件としている。また、学科の卒業に必要な単位の修得に加え、法曹コース修了を早期卒業認定要件としている（間接的に法科大学院入学者選抜の合格が早期卒業認定要件となっている）。
※３　中央大学は修了者認定試験の合格を法曹コース修了要件としている。
※４　創価大学の法曹コースの早期卒業認定要件は大学全体と同一の基準である。
※５　大阪大学はアドバイザー教員による学修指導を受け、2年次及び3年次の全学期における履修計画の提出を早期卒業認定要件としている。
※６　福岡大学は、福岡大学大学院（法科大学院含む）への進学が確定していることを早期卒業認定要件としている。

6． 早期卒業を希望する学生に対する学修支援

早期卒業を希望する学生に対する支援の内容や体制について記載してください。【自由記述】

○個別面談を通じた学修指導教員、アドバイザー教員等からの指導・助言（多数）

○履修登録単位数の上限を緩和（東京、金沢、信州、大阪、神戸、関西学院、福岡）
（例）・各セメスターの履修単位数の上限を緩和する特則を置く（東京）
・2年次終了時点で成績がGPA上位5%以内の学生は、3年次以降各学期履修単位の上限を緩和（関西学院）

○ガイダンス等で早期卒業制度や履修計画を紹介（多数）
（例）・法曹コース選抜に合格した学生へガイダンスを実施し、3年卒業が可能となる履修プランなどを指導（千葉）
・１年次学生向けのガイダンスおよび法律入門科目を通じて早期卒業制度について詳細な説明を実施（神戸）

＜その他＞
○他のコースでは４年次に修得するゼミナールの単位を法曹コース生は3年次に修得することを認めている。卒業論文の執筆指導も実施。（一橋）

○学修支援委員会を設置し、早期卒業志望者の学修支援に必要な情報を収集・分析し、学修指導教員に提供。（京都）

○基本７法を専門とする教員13名で、法曹養成プログラム対応演習（ゼミ）を担当し、早期から答案作成の個別指導が受けられる機会を提供。（北海学園）

○法曹コースに在籍する３年生に、年度始めに早期卒業の意思を確認し、滞りなく申請できるよう支援。（法政）

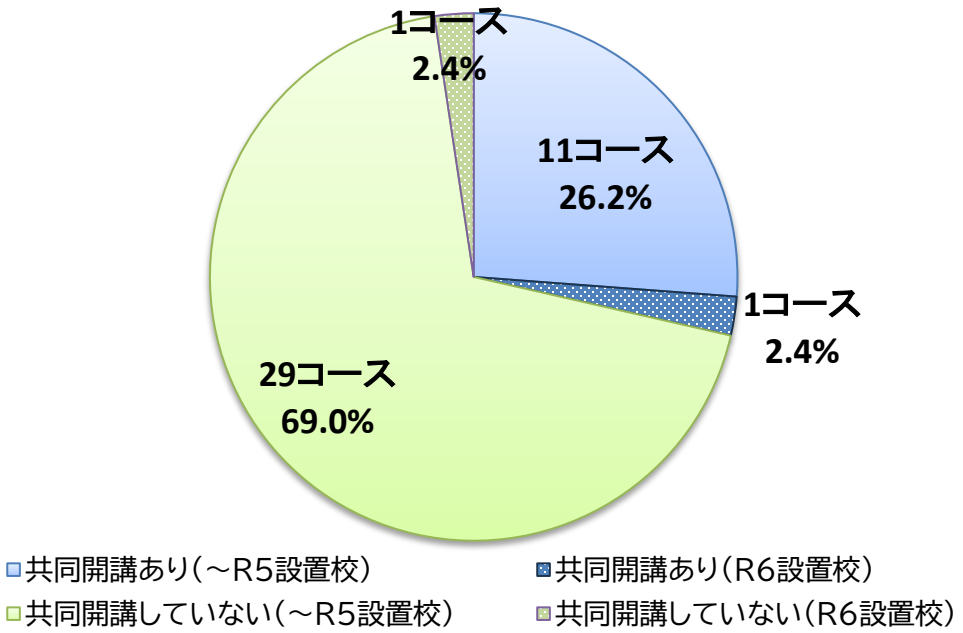
Ⅲ．法曹コースの教育

1．法曹コースの教育課程等①

連携先の法科大学院と共同開講している科目はあるか。

■ 12コースが連携先の法科大学院との共同開講科目を開設（前年比＋１コース）

○うち６コースでは、法曹コースの学生のみに、もしくは優先的に履修を認めている（前年比±0コース）



■ 共同開講している科目の区分

○法律基本科目（基礎科目）…４コース（前年比＋１コース）

○基礎法学・隣接科目…４コース（前年比＋１コース）

○上記以外の科目…８コース（前年比＋１コース）

■ 共同開講している趣旨・科目の例

○未修者1年次に修得すべき内容を学部段階で身に付けさせるため、法科大学院の１年次配当の法律基本科目（基礎科目）に相当する基本７法10科目を共同開講（岡山）

○法曹コースの学生に更なる学修と先行履修の機会を提供するため、法科大学院２年次配当の法律基本科目（基礎科目）に相当する「行政法基礎」を共同開講（一橋）

○法学部で開設されていない科目であり、かつ、法曹を目指す法学部生が学部時点で履修しても有意義であると考えられるため、基礎法学・隣接科目に相当する「法と経済学」を共同開講　（上智）

○低学年から法曹という仕事に触れ、法科大学院進学という選択肢を検討してほしいという意図により、導入講義「法曹の仕事を知る」を共同開講（早稲田）

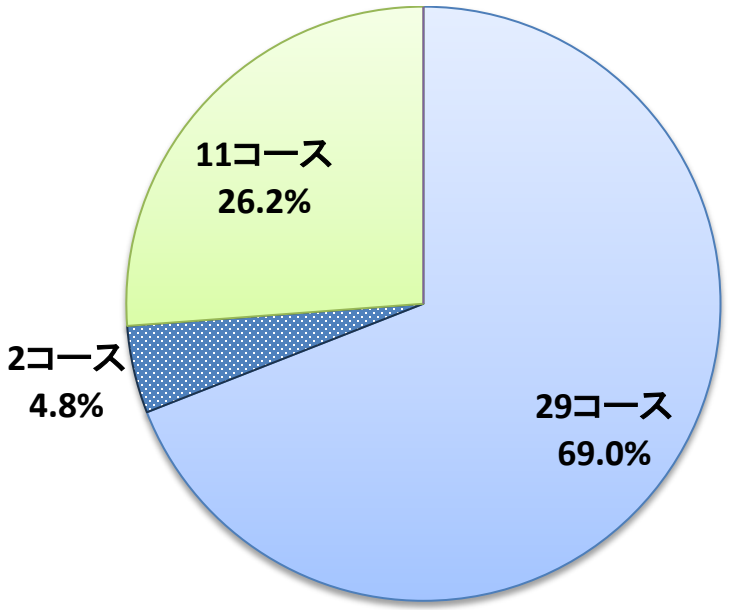
1．法曹コースの教育課程等②

法科大学院との共同開講ではないが、法科大学院教員が担当する科目はあるか。

■ 31コースが連携先の法科大学院教員が担当する科目を開設（前年比+2コース）

○うち17コースでは、法曹コースの学生のみに、もしくは優先的に履修を認めている（前年比±0コース）

○３1コースのうち、13コースでは、実務家教員が担当（前年比+1コース）



■ 法科大学院教員が担当する趣旨・科目の例

○法科大学院教員が法曹の魅力を伝えたり、法科大学院教育への導入を行うもの（千葉、金沢、信州、京都、東京都立、大阪公立、中央、明治、関西、関西学院）

○少人数・双方向の授業やより高度な内容の授業を提供するもの（九州、専修、創価、立命館、関西、福岡）

○法文書を作成するなどして、論述能力を涵養するための指導を行うもの（名古屋、岡山、東京都立、早稲田、同志社、関西学院）

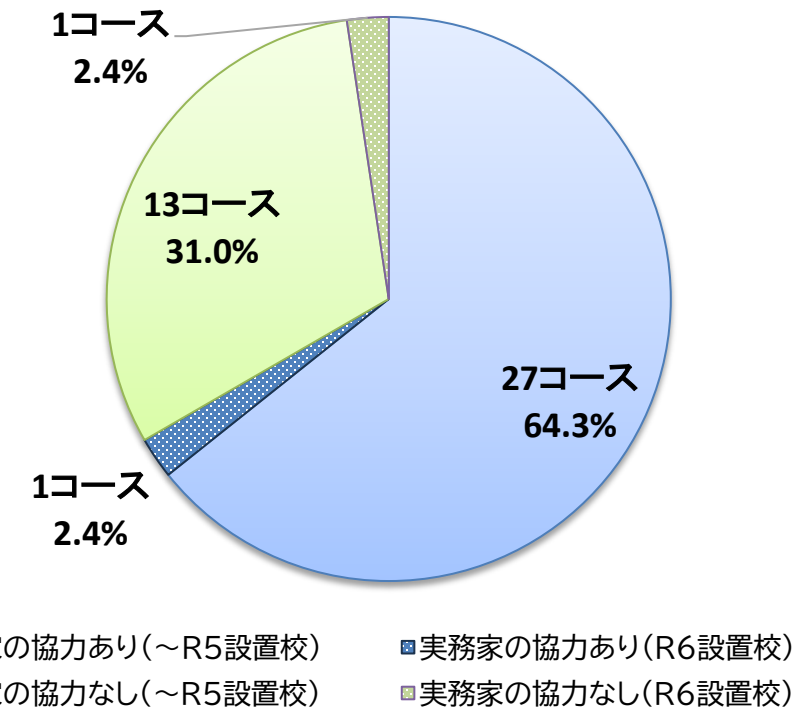
○法学部の教員の多くが法科大学院の教員を兼務するなど、日常的に連携を行っているもの（北海道、東北、東京、一橋、京都、大阪、神戸、琉球、学習院、慶應、上智、早稲田）

1．法曹コースの教育課程等③

連携先の法科大学院との共同開講科目・法科大学院教員が担当する科目の他に、授業の一部で法律実務家（裁判官・検察官・弁護士など）の協力を仰いでいる科目はあるか。

■ 28コースが法科大学院教員が担当する科目以外で法律実務家が参画する授業を開設（前年比＋1コース）

○うち12コースでは、法曹コースの学生のみに、もしくは優先的に履修を認めている（前年比±0コース）



■ 法律実務家が参画する趣旨・科目の例

○裁判官、検察官、弁護士などの法律実務家によるオムニバス形式の講義等により、法律実務の多様性や魅力について理解を深めるもの（北海道、一橋、金沢、信州、京都、大阪、神戸、大阪公立、慶應義塾、上智、明治、早稲田、関西学院）

○法文書を作成するなどして、論述能力を涵養するための指導を行うもの（一橋、新潟、香川、九州、鹿児島、上智、創価、中央、明治学院、立教、同志社、関西、西南学院）

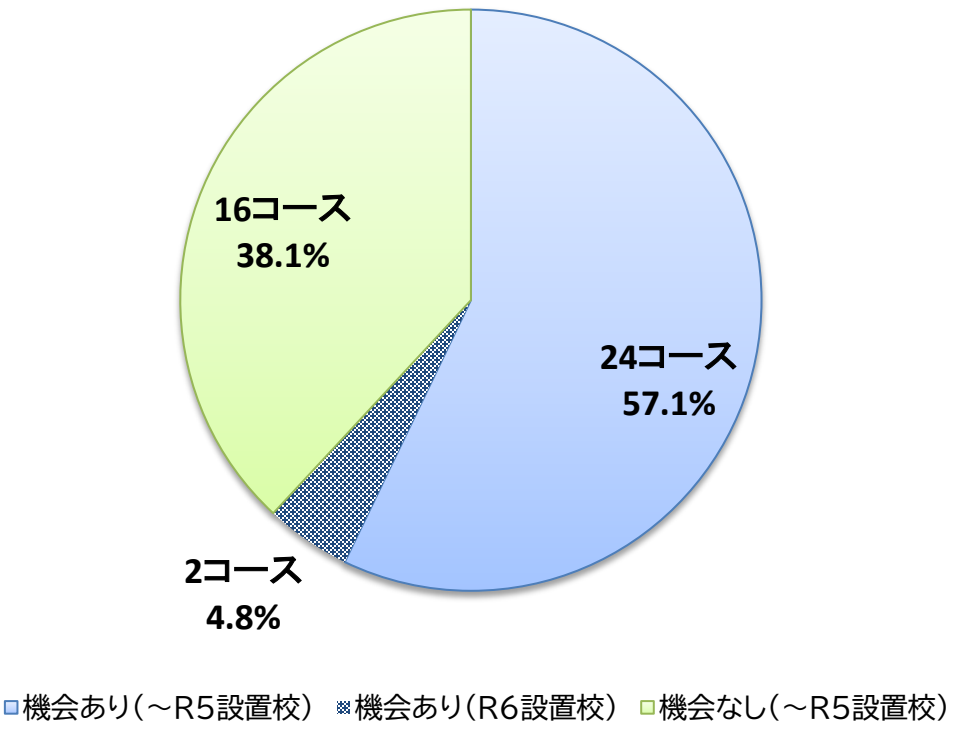
○要件事実論の学修、模擬裁判、模擬法律相談等の臨床法学教育を行うもの（神戸、熊本、鹿児島、立命館）

○裁判傍聴、刑務所訪問等のフィールドワークや企業法務部や弁護士事務所でインターンシップを行うもの（北海道、金沢、神戸）

1．法曹コースの教育課程等④

授業外で法律実務家（裁判官・検察官・弁護士など）が学生指導に参画する機会を設けているか。

■ 26コースが授業外で法律実務家が学生指導に参画する機会を設けている（前年比+2コース）



■ 法律実務家が参画している例

○裁判官、検察官、弁護士等による講演会等の開催（東京、九州、鹿児島、東京都立、明治学院、関西）

○地元弁護士会が提供するゼミへの参加（琉球）

○最高裁判所、地方検察庁、弁護士事務所等の職場見学の実施（東北、大阪、慶應義塾、早稲田）

○法律事務所体験やインターンシップの実施（早稲田、関西）

○法文書の作成指導等を実施（一橋、上智、創価、明治、立教、同志社、福岡）

○進路や学修に関する相談（岡山、熊本、鹿児島、上智、専修、創価、明治学院）

○研究室やセンター等の附属機関による課外講座の実施（創価、日本、立命館）

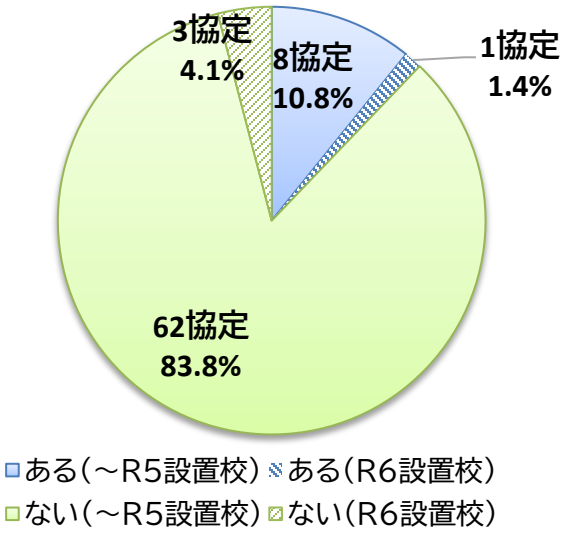
○連携法科大学院の課外講座への特別参加（明治学院）

2．連携法科大学院との円滑な接続①

調査対象：74協定　（42の法曹コースがそれぞれの法科大学院と締結した協定数）

法曹コースと連携法科大学院における教育との円滑な接続を図るための措置について

①連携法科大学院の授業を科目等履修しようとする学生に対する配慮



＜取組例＞

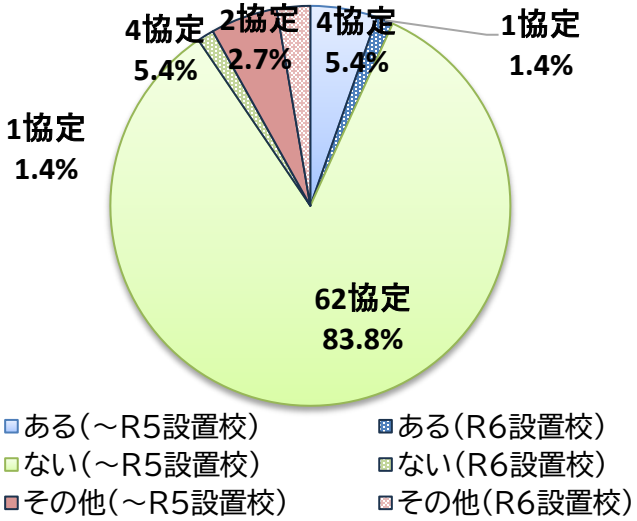
○法曹コースの必修科目と時間割が重ならないよう調整
（大阪×大阪大学法科大学院、上智×上智大学法科大学院、
創価×創価大学法科大学院、愛知×愛知大学法科大学院
関西×関西大学法科大学院）

○夏季集中講義を科目等履修の対象科目とし、当該期間とイベントの開催日が重ならないよう調整
（東北×東北大学法科大学院）

○「大学院科目早期履修制度」を導入（学部３年次生を対象に16単位を上限として法科大学院で開講する科目の履修を認める）
（日本×日本大学法科大学院）

○「法科大学院授業科目早期履修制度」を導入（早期卒業予定者又は本学法学部4年次生以上の卒業見込者を対象に30単位を上限として法科大学院で開講する科目の履修を認める）
(福岡×福岡大学法科大学院)

②授業で使用する教材の統一



＜取組例＞

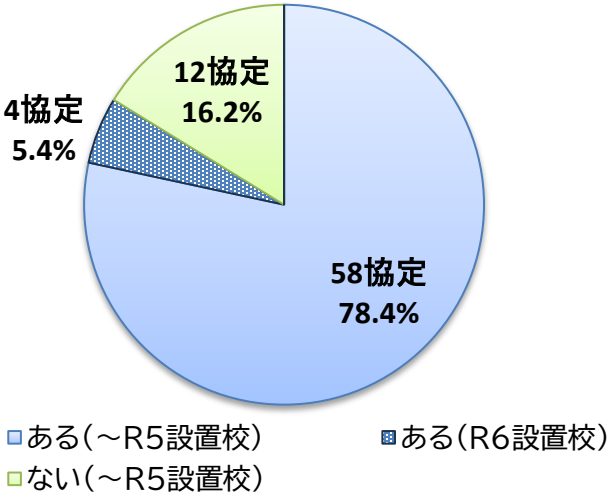
○共同開講科目や法曹コースと法科大学院双方の授業を担当する場合等に同一の教科書その他の教材を使用
（千葉×千葉大学法科大学院、岡山×岡山大学法科大学院、
名古屋×名古屋大学法科大学院、創価×創価大学法科大学院、
琉球×琉球大学法科大学院、専修×専修大学法科大学院）

2．連携法科大学院との円滑な接続②

調査対象：74協定（42の法曹コースがそれぞれの法科大学院と締結した協定数）

法曹コースと連携法科大学院における教育との円滑な接続を図るための措置について

③法科大学院教育を意識して、少人数かつ双方向又は多方向で行う科目の開設

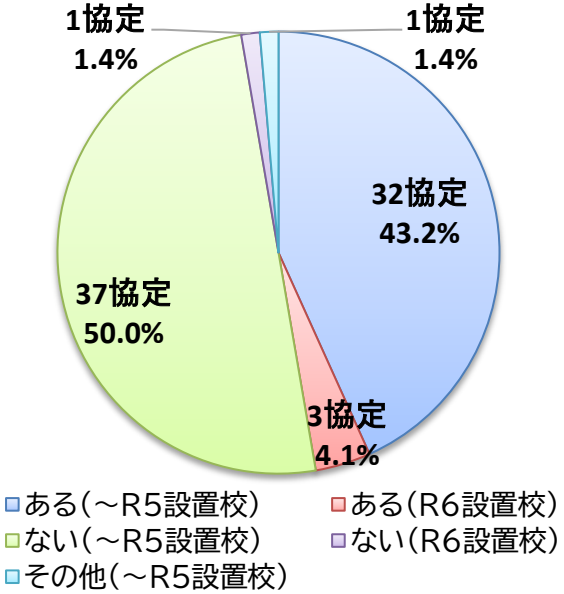


＜取組例＞

○少人数かつ双方向又は多方向の形式で行う演習科目（事例問題の検討、論文指導など）を開設（法科大学院教員や実務家が授業を担当するケースもある）

（北海道、東北、千葉、東京、一橋、新潟、金沢、信州、大阪、京都、神戸、岡山、広島、香川、九州、鹿児島、東京都立、学習院、上智、創価、中央、日本、法政、明治、明治学院、早稲田、同志社、立命館、関西、関西学院、近畿、西南学院、福岡）

④法科大学院における教育の導入としての科目の開設



＜取組例＞

○２年次の法学演習において、法情報検索、法律問題の論述等の基本的、入門的な内容の授業を提供（千葉）

○法科大学院で開設されるほとんどの科目について（法制史や比較法も含め）理論的な知見を含む高度な内容の授業を提供（東京）

○法曹の仕事の魅力や法曹となるための方法を学ぶ科目を開設（信州、早稲田）

○「法文書作成」「法解釈基礎」「応用法律」「法曹養成基礎」「LS架橋演習」など法科大学院における教育を意識した科目の開設

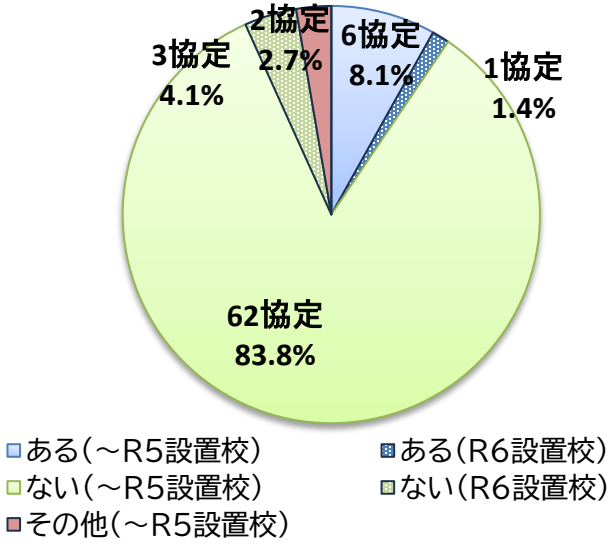
（新潟、金沢、神戸、岡山、広島、香川、九州、鹿児島、琉球、東京都立、学習院、慶應義塾、日本、法政、早稲田、同志社、関西学院、近畿、西南学院）

2．連携法科大学院との円滑な接続③

調査対象：74協定（42の法曹コースがそれぞれの法科大学院と締結した協定数）

法曹コースと連携法科大学院における教育との円滑な接続を図るための措置について

⑤法科大学院と同じ演習問題の事案等を活用

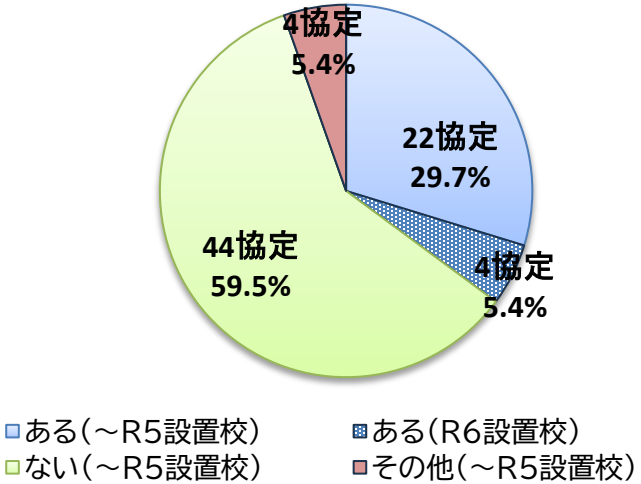


＜取組例＞

○法科大学院教員が担当する科目、法科大学院を意識した導入的な科目において、法科大学院と同じ演習問題の事案等を活用（担当教員の判断により実施しているケースもある）

（北海道大学×北海道大学法科大学院、千葉×千葉大学法科大学院、名古屋×名古屋大学法科大学院、神戸大学×神戸大学法科大学院、広島×広島大学法科大学院、九州×九州大学法科大学院、琉球×琉球大学法科大学院、早稲田×早稲田大学法科大学院、関西学院×関西学院大学法科大学院）

⑥法科大学院の教員と法曹コースの教員が授業内容の共有や打合せを行っている



＜取組例＞

○共同開講科目や法科大学院の教員が担当する科目があるため、日常的に授業内容の共有や打合せを実施（北海道、東北、千葉、東京、一橋、名古屋、大阪、岡山、九州、琉球、東京都立、大阪公立、学習院、上智、専修、福岡）

○法科大学院の教員や実務家教員と定期的に協議会等を開催し、授業内容や学生に関する情報を共有（金沢、広島、創価、中央、法政、早稲田、関西）

○法科大学院、法曹コースそれぞれのとりまとめの担当教員同士で定期的に打合せを実施（中央）

3．法曹コースのFD活動

法曹コースの授業科目について、授業評価、授業参観等のFD活動 【自由記述】

多くの法曹コースで、学生への授業評価アンケートを実施し、担当教員へフィードバックを実施。

特徴的なものとして、

○連携法科大学院と合同FDを実施（金沢、学習院）
○連携法科大学院の授業やFD集会に、法曹コースの教員が参加（日本、創価）
○連携法科大学院との意見交換、グッドプラクティスなどの共有（北海道、東京、一橋、学習院、関西学院）
○法曹コース教員相互の授業参観（神戸、鹿児島、大阪公立、法政）
○教員に対するアンケートで指導実感等を把握（信州）

4．法曹コースの特色ある取組①

各大学の法曹コースにおける特色ある取組（アピールポイント）【自由記述】

○法科大学院入試前は、合格に必要な知識を深め、論述能力を高める指導を行い、入試合格後は、法律基本科目に関する事例分析能力と論述能力を高めるための入学前の事前学習指導を行うなど、段階に応じた個別指導を実施（北海道）

○法曹コース奨学金を設置、進路講演会の開催、職場訪問の実施、少人数及び双方向型の教育を行う実務演習の多数設定、論述能力の涵養に関する長期プログラム、法科大学院の春期講習セミナーへの参加等多数の取組を実施（東北）

○　学部・法科大学院一貫教育の理念に基づき、基本７法について、法曹コースの学生のみが参加可能な少人数授業「応用法学科目」を設置。法科大学院未修1年生向けの授業と同等の授業が、原則として法科大学院教員によって行われている。また、法曹コース修了学生には、本学法科大学院の特別選抜入試(論文試験免除)の受験資格が与えられる。（千葉）

○法曹コースに登録しても、法曹コース必修科目以外は学生の自由な履修選択が可能であるところ、学部段階において、既に法制史や比較法を含めた高度な内容の授業を提供しており、法学を多角的に学ぶことが可能（東京）

○正課内外を問わず、連携法科大学院である一橋大学法科大学院の修了生による指導を充実（一橋）

○アクティブラーニングを促す双方向型・多方向型の少人数の演習科目を開設し、自己表現・プレゼンテーション能力開発を重視した取組を実施（新潟）

○専門教育で学んだ知識を現場体験を通じて定着させるため、法曹関係者の協力のもと、実習系科目(契約法務実習、捜査法務実習、裁判法務実習)を3年次の必修科目として配置（信州）

○少人数で開講される演習形式の複数の授業（法解釈基礎および応用法律）を必修とすることで、きめ細かい指導や法律文書能力を早期から効果的に涵養できるコースとして設計（神戸）

○基本科目（憲法、民法等）について、法科大学院未修者コースの学生とともに法科大学院の授業を受講できるよう措置。本学法学部、法科大学院出身の若手弁護士が学修アドバイザーとして指導。法科大学院の自習室や資料室の利用が可能となるよう措置（岡山）

○法曹養成に携わっている法科大学院の教員、弁護士、司法書士、行政機関での実務家や実務経験を有する者が担当する科目を多数開講し、大学での学びと実社会での活躍の接続性を持たせるよう工夫（広島）

4. 法曹コースの特色ある取組②

各大学の法曹コースにおける特色ある取組（アピールポイント）【自由記述】（続き）

○可能な限りミスマッチを防ぐため、最初の専攻教育科目の履修後の2年次前期終了時点で法曹コースへ登録（九州）

○2年次前期の法曹コース登録に向け、１年次前期から法曹を意識した学修を行う「法学特修クラス」を設定（熊本）

○法学部全体の少人数教育の方針を受け、法曹コースも少人数制を生かした運営を実施（例：法学政治学演習（導入演習）においては全ての２年次の法曹コース生が同一の双方向・多方向の少人数授業を履修）（東京都立）

○演習科目における論文指導、連携法科大学院の授業を無料で受講可、夜間授業の実施（北海学園）

○法曹コースをキャリア教育プログラムの一環と位置付け、法学部卒業後の進路の一つとして法科大学院進学を後押しするスタンスで対応。法学部卒業後の進路を法曹に限らず幅広く紹介し、法曹を目指す動機の明確化と、途中で法曹を目指すことを断念してもそれまでの努力が無駄にならないよう配慮（学習院）

○連携先の法科大学院との協働体制および、主要科目に関する応用演習の充実、法曹実務家による進路指導（慶應）

○少人数教育により、コース生一人ひとりに寄り添い、各コース生の長所や課題に即した丁寧な指導を実施（上智）

○コース選択時点では広く法曹に関心のある優秀な学生を受け入れており、２年次より法曹コース対象者のみが受講できる科目を展開し、法曹養成に習熟した教員による少人数授業を実施（専修）

○法学部専任教員のほか、連携法科大学院所属教員、実務家教員も法曹コースの授業を担当し、連携法科大学院における教育との円滑な接続を図る授業を実現。教員、弁護士チューターにより個々の学生へのきめ細やかに学修指導（創価）

○本学一貫教育プログラムの集大成として3年次に必修としている「実定法特講」と「法曹特講」の連携。“アカデミックスタッフ（法科大学院教員）による講義形式の「実定法特講」”と“法曹実務家による演習形式の「法曹特講」”において、車の両輪のように緊密な連携を取りながら、授業運営を実施（中央）

4．法曹コースの特色ある取組③

各大学の法曹コースにおける特色ある取組（アピールポイント）【自由記述】（続き）

○課外で司法科研究室（学生研究室）との連携により、安価での司法試験に向けた準備が可能（日本）

○学部と連携法科大学院との接続教育を円滑にするために、基礎知識の修得、法的思考能力の涵養、基礎的な文章起案能力の養成を目的とする法曹コース演習Ⅰ～Ⅳを実施（法政）

○学内における国家試験指導センター（法制研究所）において、法曹を目指す者（法科大学院特別選抜入試のみに限定したものではない）を対象にした各種課外教育プログラムを実施し、学習支援を実施（明治）

○学生の基礎力向上を目的に、3年次の5月に知識定着度確認試験（憲民刑の択一試験と論述試験）を実施。授業を補完するものとして、論述試験答練の課外講座を実施（2年次2回、3年次１回）。個別面談（各学年年2回）や学習管理システムmanabaを通じた随時の質問対応など、きめ細かな学生指導を実施（明治学院）

○大学全体における学部生の施設利用方針に例外を設け、法曹コース生に対し、法務研究生と共に専用で利用できる学修支援スペースを供与（立教）

○OB・OGの実務法曹から業務の様子や学生時代のお話をうかがう交流企画、実際の事件を題材に弁護士が解説するゼミなど、座学から模擬裁判に至るまで、法曹実務を体験できる講座を開催。法科大学院が実施する答案添削等の指導を受ける機会の提供（早稲田）

○法科大学院未修コース１年次生の必修授業を、全て直接受講可能（法科大学院相当の授業ではなく、法科大学院の授業そのものを受講できる）（愛知、琉球）

○学生の進路変更に柔軟に対応できるカリキュラムを提供（法曹養成プログラム履修のためのエントリー不要、多様な早期卒業制度）（同志社）

４．法曹コースの特色ある取組④

各大学の法曹コースにおける特色ある取組（アピールポイント）【自由記述】（続き）

○１回生からの丁寧なガイダンスと履修指導。法科大学院教員が法曹コース科目の多くを担当し、法科大学院進学後を見据えた教育の提供。早期卒業希望申請機会を3回設け各学生の状況に応じた進路選択が可能。他校法科大学院とも連携し、多様な進路機会の提供（立命館）

○若手弁護士との交流機会、法律事務所への職業体験を実施（関西）

○法曹コース募集段階では対象者を広く募り、それぞれの将来の目標に向けて段階的にステップアップできるカリキュラムを構築。説明会・ガイダンスを複数回実施し、履修モデルをもとにコース修了、法科大学院進学へ向けて教職員から丁寧に指導。文書作成能力の向上に向けた実務家教員の講義、若手弁護士との交流機会、法律事務所への職業体験を実施（関西）

○学習相談会の開催、学生個々の相談窓口の明確化など、丁寧な学修指導。法学部、法科大学院の教員と法曹コースの学生との密な関係の構築（メーリングリストによる頻繁な情報発信など）。法科大学院の実務家教員が担当する法曹コースの科目において、担当教員から直接実務の状況を知ることができ、また、法廷などの現場へ行くことが可能（関西学院）

○法曹コース生のみが履修できる科目の開講。事例問題の分析と答案作成を中心とし、少人数かつ双方向の講義を行っている（西南学院）

○法曹コースの必修となる少人数科目や講義科目の一部を法科大学院教員が担当。法曹コースの科目担当や運営については、法学部と法科大学院で密接に連絡（福岡）

Ⅳ. 学生指導、広報活動、法曹コースの学生の様子

1．法曹志望者の学生指導や広報活動

法曹志望者への学生指導について、工夫・配慮している点【自由記述】

○クラス担任制やアドバイザー制の導入（法曹コースと連携法科大学院の双方の教員が学修支援・進路相談にあたる）
○定期的な面談の実施
○法曹コース希望者への説明会、ガイダンス、進路相談の実施

＜その他＞
○授業内外で、法曹実務家と交流する機会の提供（東京）
○定期試験とは別に、法曹コース生に対して知識定着度確認試験（択一式は共通到達度確認試験を活用、論述式は新規作問）を実施（明治学院）

法曹コース登録や法科大学院進学等に関する学生からの質問内容【自由記述】

○法曹コースの選抜に関すること（要件、定員、倍率など）
○連携法科大学院の入学者選抜に関すること（受験資格、併願の可否、受験勉強の方法、法科大学院の学費など）
○早期卒業制度に関すること
○連携法科大学院における教育体制・学修支援体制に関すること

法曹コース登録や法科大学院進学等に関する学生等（※）に対する広報活動【自由記述】

※当該法曹コースを置く大学への入学予定者・入学希望者を含む

○在学生に対するガイダンスや説明会の開催
○高校生等の入学希望者への広報
・オープンキャンパス、高校訪問、出前講義、パンフレット、ホームページ等で積極的に広報（多数）

2．法曹コースの学生の様子

法曹コースの学生の様子【自由記述】

＜法曹の志望度、意欲、熱意について＞

○法科大学院への進学及び法曹という進路について、より明確なモチベーションを持ち、熱心に学修する優秀な学生が多い。
○自ら情報収集して進学先を検討するなど、目標に向けた着実な歩みが見られる。
○法曹コースの登録時・進級時に選抜があること等を意識し、自主ゼミを行うなどして互いに研鑽を積んでいる。
○１年次の段階から、専門科目の学修意欲が高い。
○明確な目標をもって学修に取り組む姿勢が、他の学生を牽引する役割を果たしている。
○（地方公務員志望が多いため）法曹を第一志望とする学生は相対的に少なく、地域に根差した法曹の魅力をどのようにアピールするかが課題である。

＜学修の負担、法科大学院進学に対する不安について＞

○早期卒業希望者にとっては授業スケジュールがタイトであり、やや負担が重いと感じているようである。
○定期試験の成績評価や早期卒業認定基準が厳格であること、連携法科大学院の特別選抜の枠が限定されていること等により、法科大学院への進学に不安を抱いている学生もいる。
○法曹コース所属による負担等により、部活動等との両立が困難となるといったような悩みが生じやすい。

＜法曹コースを途中で辞める学生について＞

○早期卒業認定基準の厳格さによるものか、途中で挫折して法曹コースを辞める学生も僅かながら見られる。
○法曹に対する理解や進路に関し、漠然とした考えでコース登録した者については、途中で離脱する事例がいくつか見られた。
○司法試験勉強に耐えうる学生とそうでない学生に分かれていく。

2．法曹コースの学生の様子

法曹コースの学生の様子【自由記述】（続き）

＜その他＞

○多様性を持った学生が集まっている。

○最終的に法科大学院進学以外の進路を選択した学生であっても、法曹コース必修科目の受講態度は概ね意欲的であり、学修に一定の意義を見出している印象。

○奨学金制度が充実した連携法科大学院は人気があり、経済的な面での悩みが少なからずあるように見受けられる。

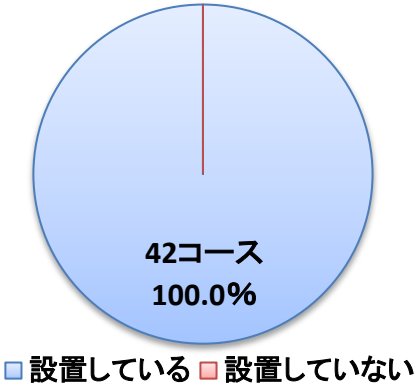
○法科大学院の特別選抜に合格したが、早期卒業の成績基準に届かず早期卒業が認められなかった法曹コース登録者は、４年次のモチベーション維持が課題。

Ⅴ．連携法科大学院との連携、法曹コース運営等

１．連携法科大学院との連携、法曹養成連携協定を締結して良かったと感じる点

法曹コース連携協議会

■ 連携協議会を設置（４２コース）



＜メンバー＞
法曹コース側は、法学部長、法曹コース長、法学部教授など。
法科大学院側は、法科大学院長、入試担当教員など。

＜内容＞
法曹コースのカリキュラムや開設科目の確認、在籍者数の動き、
学生の学修・成績状況、FD活動方針、入試状況など。

＜開催頻度＞
年１回のところから、毎月１回のところまで様々。

地理的に離れている場合の連携における工夫

○会議等をオンラインで実施（多数）

法曹養成連携協定を締結して良かったと感じる点

＜学部・法科大学院の連携体制＞

○法学部教員と法科大学院教員が、法曹養成のために一貫したプロセスを共に作り、協力していくための素地ができた。法曹養成のため、大学として一貫した対応を取れるように努力するきっかけとなった。

○連携の在り方を明文化することにより、担当者の経験主義・個人的な判断に基づくことなく、組織的かつ適切な運営が確保できている。

○相互に連携・協力すべき内容や目標が可視化され、明確になったことで実効性が高まった。

○連携協議会によって、法学部の教員と法科大学院の教員が意見交換をする機会がこれまで以上に増えた。

1．連携法科大学院との連携、法曹養成連携協定を締結して良かったと感じる点

法曹養成連携協定を締結して良かったと感じる点【続き】

＜法科大学院がない大学や地域に与えた影響＞

○法科大学院がない大学であっても、協定により、法曹志望の学生の希望に応えられるようになった。

○法科大学院がない大学や地域の学生であることを理由に法曹を目指すことを断念せず、法曹を目指す学生が増えた。

＜法曹の志望度、熱意、意欲＞

○法学部に入学後、早い段階で法科大学院や司法試験を意識することにより、将来の目標がより早く明確になる学生が増えるなど、学生の意識改革が進んだ。また、本格的な学修をスタートさせる時期が早まった。

○法曹を志望する学生に対し、法曹になるための具体的な道筋を一つ増やすことができた。

○特別選抜制度や連携法科大学院の授業の履修により、法科大学院進学への関心が高まった。

○特別選抜制度により、学部成績が法科大学院進学に直接関係するため、学部での勉学の大きな励みとなる。

○法曹コースに所属する学生の学修に対する真摯な姿勢は、学部全体の学修意欲の向上をもたらしている。

○勉学意欲の高い学生が、特に少人数の演習科目を積極的に履修するようになった。

＜法曹コースの教育・指導＞

○法曹を目指す学生を早い段階から集め、法曹養成に向けた体系的な教育を実施できるようになった。

○法科大学院教員、実務家教員の協力を得て、法科大学院教育と効果的に接続する法曹教育を学部生に提供できるようになった。また、学部の段階で連携法科大学院の教員の授業を履修する機会が得られるようになった。

○特別選抜制度により、法科大学院に進学を希望する学生が独自かつ個別に法科大学院の入試対策（予備校通学や入試に特化した勉強等）にとらわれることがなくなり、大学の授業に集中できるようになった（大学の授業を中心に一所懸命勉強して良い成績をとれば法科大学院に進学することが可能）

○連携法科大学院の開設科目との同等性の確保を図ることより、学部の教育内容の見直しを行うことができた。

○法科大学院進学に向けて、具体的な目標や計画を示した上で指導ができるようになった。

２．法曹コース運営に関して困っている点・不安な点、見直しを考えている点

法曹コースの運営に関して困っている点・不安な点

○学生の間で法曹コースの制度が広く知られるようになったため、令和4年度の1年次の法曹コース選抜の受験者が昨年度と比べて大幅に増加したことは好ましいことであるが、法曹コース選抜に合格できなかった学生のモチベーションが下がらないかという点が気がかりである。

○法曹コースの学生が科目等履修生として法科大学院の授業を履修した場合、単位修得率が低い。

○複数校と締結する場合、最も厳しい条件の法科大学院に教育内容を合わせるため、学生の負担が大きくなっている。

○制度を開始してからあまり年数が経っていないため、ロールモデルとなる先輩が少ないことに対する学生の不安を完全に解消することができていない。

○法曹コースの学生数を安定的に確保することに不安がある。

○少人数教育の実施と各学生へのきめ細かい指導等を要するため、法曹コースに関わる教員の負担が著しく増加した。論文指導などについて人手を多く要するとともに、授業とは別に課外講座等で知識を補うことも必要となった。

○法曹コースの科目を大学３年間でしっかりと受講できるような時間割を策定しなければならず、毎年時間割の設定が大変。

○法曹コースの運営開始から年数が浅く、複数の教員が個々の学生指導にあたる場合に、教員がきちんと連携し、学生に有益な指導を提供できるのか未知数。特に学生のチューターを担当している法学部教員と法科大学院教員が緊密に連絡する必要がある。

○開放型選抜の受験において、入試の出願時期・実施時期や出願書類にばらつきがあり、相談において適切なアドバイスをすることに難しさを感じることもある。

○法学部生のうちの一部の法曹コース生に対する支援というのは、全員が法曹をめざす法科大学院とは異なり、法曹コース生ではない他の学部学生との知識・レベル等の差は否めず、両者同時履修の授業では受講生間のそれらの差や意識のギャップをどう埋め合わせるか、苦労している。

２．法曹コース運営に関して困っている点・不安な点、見直しを考えている点

法曹コースの運営に関して関して困っている点・不安な点【続き】

○法曹コースから連携法科大学院に送り出している学生の進学後の成績・学習状況等の情報共有が不十分であるため、法曹コースにおける教育がコース生に有用かつ実効性あるものかのどうかの検証がなされていない。
○各々の連携法科大学院への進学に関し、基準が明確かつ安定的なものとなっていないことから、学生の質問や相談に的確に回答できないことがある。
○法曹コースの内容および連携法科大学院への進学について、十分に理解しないで法曹コースに所属したり、あるいは所属しなかった学生が発生する事態を避けるため、学生に十分に周知する必要がある。
○学部では、法曹コース以外の学生が大半を占めているため、法曹コース生のためだけの授業を設置することができていない。
○法曹コースで勉学に励むほど、在学中に予備試験に合格する可能性が高まる。

法曹コースの運営に関して見直しを考えている点

○法曹コース修了要件(早期卒業認定要件)を満たす学生が想定より少ないため、カリキュラムの変更やサポート体制の導入を検討している。
○法曹コースの修了要件の緩和を検討している。
○5年間（学部3年＋法科大学院2年）で司法試験に確実に合格できるよう、補習を充実させることを考えている。
○法曹コース修了生と法曹コース生の縦のつながりを強化する取組を進めたいと考えている。
○女性法曹の増加のため、法曹コース生及び法科大学院進学者の女性割合の増加に向けた取組を進める予定。
○運営の合理化、効率化について検討している。
○法科大学院教員が担当する授業科目の増設について検討している。
○法曹コース運営委員会のメンバーに実務家教員を増やすなど、実務家教員の関与を増やすことを検討している。

３．連携法科大学院、実務家団体への期待・要望

連携法科大学院への期待・要望

○連携法科大学院のキャンパスを見学したり意見交換できる機会があることが望ましい。
○法学部と連携法科大学院が立地的に離れているため、法科大学院の様子を知る機会が少ない点が課題であり、この課題への対応として、法科大学院側から説明会や講演会等を通じた法学部の学生（特に法曹コース生）への法科大学院の魅力をアピールはなされているもの、取組みを強化する必要がある。
○学部・法科大学院一貫して学生を指導するメンター的な教員を配置していただきたい。
○連携法科大学院所属のティーチング・アシスタント（TA）による各種アドバイス等を継続していただきたい。
○連携法科大学院修了生の法曹（特に若手弁護士）による論文指導、相談対応などの協力を得たい。
○今後、連携法科大学院教員に、法曹コースでの科目を担当してもらう、ガイダンスを実施してもらうことなどが考えられる。
○遠隔講義の技術を活用するなどして、学生を直接ご指導いただく機会が増えることを期待する。
○法科大学院修了生の同窓会組織との連携が少しずつなされているが、より一層強化する可能性を模索している。
○複数校と協定を締結している場合、特別選抜出願書類について、例えば、共通様式のようなものがあると便利である。
○特に５年一貫型教育選抜を想定し、どのような学生を養成してほしいかを具体的に示していただけるとありがたい。

地元の裁判所・検察庁・弁護士会などの実務家団体への期待・要望

○現時点で、十分な支援や協力を得られており、今後も同様のご協力をお願いしたい。（同趣旨の回答多数）
○法曹志望の学生が具体的に法曹の仕事に関して見聞できる講演会、セミナー等の企画があれば望ましい。
○裁判所、検察庁、弁護士事務所等の実地見学を伴った業務説明会があるとありがたい。
○法曹を目指す学生への支援として、論文指導や法曹コース科目の授業担当などを期待する。
○法曹コース生の経済的負担の軽減や就職（進路）不安の解消に向けた取組を期待。特に、法曹志望の裾野が広がるよう、法曹コース学生等に対する公募奨学金の機会を拡充していただきたい。

文部科学省

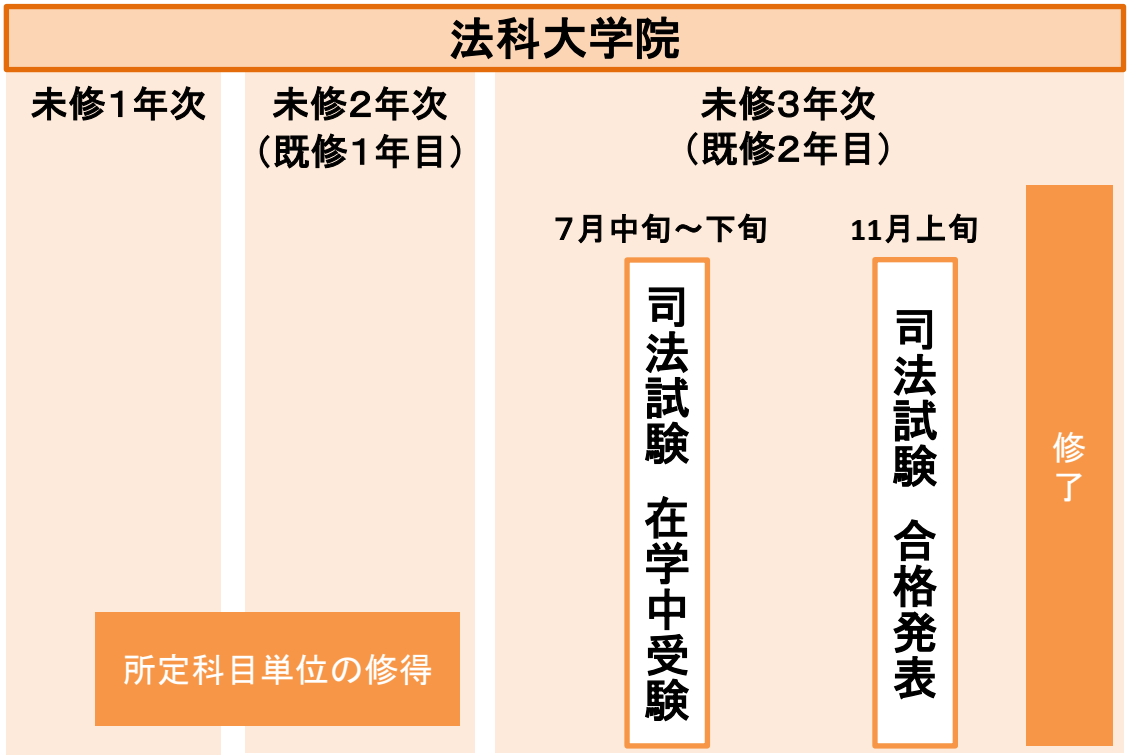
法科大学院等特別委員会
令和6年8月28日（水）
資料５

令和６年度
司法試験の在学中受験に向けた
教育課程の工夫等に関する調査

集計対象　：　令和６年４月１日時点で学生を募集している法科大学院を持つ大学（34校）

調査基準日：　令和６年４月１日

司法試験在学中受験に関して



■在学中受験資格（司法試験法第４条第２項）

○法科大学院の課程に在学

○以下の２点につき、法科大学院を設置する大学の学長が認定

①法務省令で定める所定科目単位を修得していること

②１年以内に当該法科大学院の課程を修了する見込みがあること

〔所定科目単位について〕

○法律基本科目　※憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目

- 基礎科目：主に未修１年次で学修するもの（法学既修者認定の対象）　30単位以上
- 応用科目：主に未修２年次（既修１年目）以降に学修するもの　18単位以上

○倒産法・租税法・経済法・知的財産法・労働法・環境法・国際関係法（公法系）・国際関係法（私法系）　4単位以上 ~~336~~

1．令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について

2．令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について

3．カリキュラム編成方針について

4．修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

5．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

6．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

１．令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について

１．令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について

	合計				既修				未修
		うち法曹コース修了者（早期卒業等）				うち法曹コース修了者（早期卒業等）			
			協定先	非協定先			協定先	非協定先	
最終年次在籍者数	1,672人	-	-	-	1,298人	-	-	-	374人
在学中受験資格（学長認定）取得者数	1,342人 80.26%	187人	158人	29人	1,111人 85.59%	187人	158人	29人	231人 61.76%
受験者数	1,066人 63.76%	162人	134人	28人	913人 70. 34%	162人	134人	28人	153人 40.91%
合格者数	637人	107人	91人	16人	578人	107人	91人	16人	59人
合格率	59.76%	66.05%	67.91%	57.14%	63.31%	66.05%	67.91%	57.14%	38.56%

※下段（青字）は最終年次在籍者数に占める割合。　　（募集停止校は除く）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

（参考）令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について（内訳）

大学名	令和５年度最終年次在籍者数（人）【A】			令和５年司法試験の在学中受験資格取得者数（人）			令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験者数（人）【A】			令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく合格者数（人）【B】			合格率（%）【B/A】		
		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修
1.北海道大学	40	26	14	38	25	13	27	20	7	15	12	3	55.56	60.00	42.86
2.東北大学	44	40	4	28	26	2	23	22	1	10	10	0	43.48	45.45	-
3.筑波大学	45	9	36	17	6	11	9	4	5	5	4	1	55.56	100.00	20.00
4.千葉大学	21	13	8	5	3	2	4	3	1	1	1	0	25.00	33.33	-
5.東京大学	189	142	47	172	132	40	133	108	25	94	83	11	70.68	76.85	44.00
6.一橋大学	86	69	17	85	69	16	72	60	12	60	54	6	83.33	90.00	50.00
7.金沢大学	8	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0		-	-
8.名古屋大学	44	37	7	43	37	6	31	27	4	20	19	1	64.52	70.37	25.00
9.京都大学	154	120	34	137	118	19	118	104	14	94	86	8	79.66	82.69	57.14
10.大阪大学	82	70	12	54	48	6	53	47	6	27	25	2	50.94	53.19	33.33
11.神戸大学	68	60	8	67	60	7	48	42	6	27	26	1	56.25	61.90	16.67
12.岡山大学	17	9	8	10	7	3	10	7	3	7	5	2	70.00	71.43	66.67
13.広島大学	24	11	13	14	5	9	5	2	3	0	0	0	-	-	-
14.九州大学	31	24	7	28	21	7	23	17	6	8	6	2	34.78	35.29	33.33
15.琉球大学	13	4	9	6	3	3	4	3	1	1	1	0	25.00	33.33	-
16.東京都立大学	24	23	1	24	23	1	18	18	0	3	3	0	16.67	16.67	-
17.大阪公立大学	16	8	8	13	8	5	8	4	4	4	3	1	50.00	75.00	25.00

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

（参考）令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について（内訳）

大学名	令和５年度最終年次在籍者数（人）			令和５年司法試験の在学中受験資格取得者数（人）			令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験者数（人）【A】			令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく合格者数（人）【B】			合格率（%）【B/A】		
		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修
18.学習院大学	14	10	4	9	8	1	6	6	0	2	2	0	33.33	33.33	-
19.慶應義塾大学	145	130	15	145	130	15	133	119	14	91	86	5	68.42	72.27	35.71
20.上智大学	18	10	8	14	10	4	10	8	2	5	4	1	50.00	50.00	50.00
21.専修大学	14	9	5	14	9	5	7	5	2	2	2	0	28.57	40.00	-
22.創価大学	12	8	4	12	8	4	11	7	4	5	4	1	45.45	57.14	25.00
23.中央大学	88	80	8	77	72	5	76	71	5	47	44	3	61.84	61.97	60.00
24.日本大学	39	29	10	32	24	8	21	18	3	5	4	1	23.81	22.22	33.33
25.法政大学	28	22	6	19	17	2	7	6	1	1	1	0	14.29	16.67	-
26.明治大学	48	40	8	22	22	0	19	19	0	5	5	0	26.32	26.32	-
27.早稲田大学	178	156	22	162	144	18	146	131	15	84	76	8	57.53	58.02	53.33
28.愛知大学	8	2	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-
29.南山大学	4	2	2	1	1	0	1	1	0	1	1	0	100.00	100.00	-
30.同志社大学	56	49	7	45	39	6	21	19	2	10	10	0	47.62	52.63	-
31.立命館大学	50	43	7	36	30	6	15	12	3	0	0	0	-	-	-
32.関西大学	30	24	6	9	5	4	5	3	2	2	1	1	40.00	33.33	50.00
33.関西学院大学	24	14	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
34.福岡大学	10	0	10	2	0	2	2	0	2	1	0	1	50.00	-	50.00
計	1,672	1,298	374	1,342	1,111	231	1,066	913	153	637	578	59	59.76	63.31	38.56

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

２．令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について

2．令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について

	合計	うち法曹コース修了者			既修	うち法曹コース修了者			未修
			協定先	非協定先			協定先	非協定先	
最終年次在籍者数	1,727人	-	-	-	1,288人	-	-	-	439人
在学中受験資格(学長認定)取得者数	1,469人 85.06%	317人	251人	66人	1,172人 90.99%	314人	249人	65人	297人 67.65%
受験者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合格者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合格率	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※下段(青字)は最終年次在籍者数に占める割合。　(募集停止校は除く)

(再掲) 令和５年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果について

	合計	うち法曹コース修了者(早期卒業等)			既修	うち法曹コース修了者(早期卒業等)			未修
			協定先	非協定先			協定先	非協定先	
最終年次在籍者数	1,672人	-	-	-	1,298人	-	-	-	374人
在学中受験資格(学長認定)取得者数	1,342人 80.26%	187人	158人	29人	1,111人 85.59%	187人	158人	29人	231人 61.76%
受験者数	1,066人 63.76%	162人	134人	28人	913人 70. 34%	162人	134人	28人	153人 40.91%
合格者数	637人	107人	91人	16人	578人	107人	91人	16人	59人
合格率	59.76%	66.05%	67.91%	57.14%	63.31%	66.05%	67.91%	57.14%	38.56%

※下段(青字)は最終年次在籍者数に占める割合。　(募集停止校は除く)

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

（参考）令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について（内訳）

大学名	令和６年度最終年次在籍者数（人）【A】（下段カッコ内は令和５年度の実績）			令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数（人）【B】（下段カッコ内は令和５年度の実績）			最終年次在籍者に占める在学中受験資格に基づく出願者の割合【B／A】（下段カッコ内は令和５年度の実績）		
		既修者数	未修者数		既修者数	未修者数		既修者	未修者
1.北海道大学	35 (40)	23 (26)	12 (14)	27 (29)	18 (20)	9 (9)	77.1% (72.5%)	78.3% (76.9%)	75.0% (64.3%)
2.東北大学	50 (44)	39 (40)	11 (4)	36 (24)	31 (23)	5 (1)	72.0% (54.6%)	79.5% (57.5%)	45.5% (25.0%)
3.筑波大学	42 (45)	8 (9)	34 (36)	16 (10)	7 (4)	9 (6)	38.1% (22.2%)	87.5% (44.4%)	26.5% (16.7%)
4.千葉大学	23 (21)	13 (13)	10 (8)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	21.7% (23.8%)	23.1% (23.1%)	20.0% (25.0%)
5.東京大学	195 (189)	141 (142)	54 (47)	133 (155)	95 (125)	38 (30)	68.2% (82.0%)	67.4% (88.0%)	70.4% (63.8%)
6.一橋大学	81 (86)	61 (69)	20 (17)	76 (82)	59 (69)	17 (13)	93.8% (95.4%)	96.7% (100.0%)	85.0% (76.5%)
7.金沢大学	15 (8)	8 (5)	7 (3)	4 (1)	2 (1)	2 (0)	26.7% (12.5%)	25.0% (20.0%)	28.6% (0.0%)
8.名古屋大学	55 (44)	43 (37)	12 (7)	48 (33)	37 (28)	11 (5)	87.3% (75.0%)	86.0% (75.7%)	91.7% (71.4%)
9.京都大学	144 (154)	125 (120)	19 (34)	123 (128)	109 (111)	14 (17)	85.4% (83.1%)	87.2% (92.5%)	73,7% (50.0%)
10.大阪大学	81 (82)	59 (70)	22 (12)	69 (54)	52 (48)	17 (6)	85.2% (65.9%)	88.1% (68.6%)	77.3% (50.0%)
11.神戸大学	71 (68)	59 (60)	22 (8)	61 (50)	51 (44)	10 (6)	85.9% (73.5%)	86.4% (73.3%)	45.5% (75.0%)
12.岡山大学	17 (17)	6 (9)	11 (8)	12 (10)	6 (7)	6 (3)	70.6% (58.8%)	100.0% (77.8%)	54.5% (37.5%)
13.広島大学	22 (24)	16 (11)	6 (13)	5 (6)	4 (2)	1 (4)	22.7% (25.0%)	25.0% (18.2%)	16.7% (30.8%)
14.九州大学	43 (31)	26 (24)	17 (7)	39 (24)	24 (17)	15 (7)	90.7% (77.4%)	92.3% (70.8%)	88.2% (100.0%)
15.琉球大学	15 (13)	1 (4)	14 (9)	6 (4)	1 (3)	5 (1)	40.0% (30.8%)	100.0% (75.0%)	35.7% (11.1%)
16.東京都立大学	45 (24)	43 (23)	2 (1)	38 (20)	38 (20)	0 (0)	84.4% (83.3%)	88.4% (87.0%)	0.0% (0.0%)
17.大阪公立大学	21 (16)	9 (8)	12 (8)	15 (8)	9 (4)	6 (4)	71.4% (50.0%)	100.0% (50.0%)	50.0% (50.0%)

（次ページ続く）

（参考）令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について（内訳）

大学名	令和６年度最終年次在籍者数（人）【A】（下段カッコ内は令和５年度の実績）			令和６年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数（人）【B】（下段カッコ内は令和５年度の実績）			最終年次在籍者に占める在学中受験資格に基づく出願者の割合【B／A】（下段カッコ内は令和５年度の実績）		
		既修者数	未修者数		既修者数	未修者数		既修者	未修者
18.学習院大学	21 (14)	18 (10)	3 (4)	7 (8)	6 (7)	1 (1)	33.3% (57.1%)	33.3% (70.0%)	33.3% (25.0%)
19.慶應義塾大学	170 (145)	147 (130)	23 (15)	148 (133)	128 (119)	20 (14)	87.1% (91.7%)	87.1% (91.5%)	87.0% (93.3%)
20.上智大学	20 (18)	9 (10)	11 (8)	10 (10)	6 (8)	4 (2)	50.0% (55.6%)	66.7% (80.0%)	36.4% (25.0%)
21.専修大学	10 (14)	5 (9)	5 (5)	8 (7)	4 (5)	4 (2)	80.0% (50.0%)	80.0% (55.6%)	80.0% (40.0%)
22.創価大学	18 (12)	13 (8)	5 (4)	18 (11)	13 (7)	5 (4)	100.0% (91.7%)	100.0% (87.5%)	100.0% (100.0%)
23.中央大学	88 (88)	78 (80)	10 (8)	81 (77)	71 (72)	10 (5)	92.0% (87.5%)	91.0% (90.0%)	100.0% (62.5%)
24.日本大学	43 (39)	33 (29)	10 (10)	33 (26)	27 (20)	6 (6)	76.7% (66.7%)	81.8% (69.0%)	60.0% (60.0%)
25.法政大学	30 (28)	22 (22)	8 (6)	11 (8)	10 (6)	1 (2)	36.6% (28.6%)	45.4% (27.3%)	12.5% (33.3%)
26.明治大学	30 (48)	19 (40)	11 (8)	19 (19)	17 (19)	2 (0)	63.3% (39.6%)	89.5% (47.5%)	18.2% (0.0%)
27.早稲田大学	146 (178)	127 (156)	19 (22)	134 (150)	119 (134)	15 (16)	91.8% (84.3%)	93.7% (85.9%)	78.9% (72.7%)
28.愛知大学	11 (8)	3 (2)	8 (6)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	27.3% (0.0%)	33.3% (0.0%)	25.0% (0.0%)
29.南山大学	8 (4)	6 (2)	2 (2)	4 (1)	4 (1)	0 (0)	50.0% (25.0%)	66.7% (50.0%)	0.0% (0.0%)
30.同志社大学	62 (56)	52 (49)	10 (7)	47 (23)	41 (21)	6 (2)	75.8% (41.1%)	78.8% (42.9%)	60.0% (28.6%)
31.立命館大学	55 (50)	49 (43)	6 (7)	33 (16)	32 (13)	1 (3)	60.0% (32.0%)	65.3% (30.2%)	16.7% (42.9%)
32.関西大学	26 (30)	17 (24)	9 (6)	5 (6)	3 (4)	2 (2)	19.2% (20.0%)	17.6% (16.7%)	22.2% (33.3%)
33.関西学院大学	22 (24)	10 (14)	12 (10)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	9.1% (0.0%)	10.0% (0.0%)	8.3% (0.0%)
34.福岡大学	12 (10)	0 (0)	12 (10)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	16.7% (20.0%)	0.0% (0.0%)	16.7% (20.0%)
計	1,727 (1,672)	1,288 (1,297)	439 (367)	1,240 (1,140)	982 (965)	258 (175)	71.8% (68.5%)	76.2% (74.4%)	58.7% (47.7%)

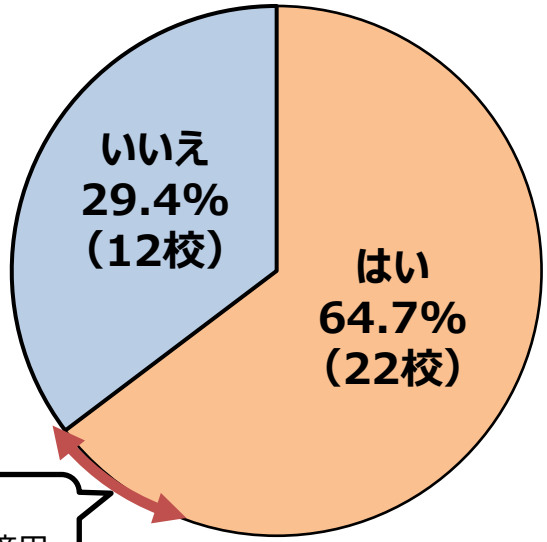
※数字が前年から増加している場合は赤字、減少している場合は青字

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

３．カリキュラム編成方針について

3.カリキュラム編成方針について

（１－１）令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）において、在学中受験に必要な所定科目単位（合計52単位以上）は、２年次後期までに必修又は選択必修で履修することとしていますか。



「はい」と回答した大学（22校）のうち
2校（6%）は令和6年度カリキュラムから適用

「いいえ」と回答した大学（12校）のうち
〇在学中受験希望者に対して２年次までに所定科目単位を履修するよう指導する（12校）

(指導方法の内訳)
- シラバスや募集要領などで記載し、かつ、個別に該当学生に指導する（7校）
- シラバスや募集要領などで記載する（3校）
- 個別に該当学生に指導する（2校）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

４．修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

４.修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

（１）修了要件単位数、各科目群の最低限必要な修得単位数

在学中受験対応前（Ｒ２）：「令和２年度入学カリキュラム（令和２年度入学の未修者、令和３年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ５）：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ６）：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

大学名	修了要件			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	94	95	95	86	88	88	32	32	32	26	26	26	12	14	14	4	4	4	12	12	12
2.東北大学	96	96	96	92	92	92	30	30	30	28	28	28	14	14	14	4	4	4	16	16	16
3.筑波大学	93	93	93	93	93	93	38	38	38	24	24	24	14	14	14	4	4	4	13	13	13
4.千葉大学	95	95	95	84	84	84	38	38	38	20	20	20	10	10	10	4	4	4	12	12	12
5.東京大学	93	93	93	80	80	80	30	30	30	24	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
6.一橋大学	95	93	93	95	93	93	38	38	38	22	22	22	12	12	12	7	7	7	16	14	14
7.金沢大学	104	98	98	92	92	92	42	42	42	24	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
8.名古屋大学	98	98	98	94	94	94	32	32	32	30	30	30	12	12	12	4	4	4	16	16	16
9.京都大学	96	96	96	82	84	84	28	30	30	28	28	28	10	10	10	4	4	4	12	12	12
10.大阪大学	98	98	98	88	88	88	34	34	34	24	24	24	14	14	14	4	4	4	12	12	12
11.神戸大学	100	100	100	88	94	94	34	37	37	28	29	29	10	12	12	4	4	4	12	12	12
12.岡山大学	97	97	97	77	85	85	34	34	34	24	24	24	11	11	11	4	4	4	4	12	12
13.広島大学	103	99	98	99	95	88	31	30	30	37	34	32	10	10	10	9	9	4	12	12	12
14.九州大学	96	96	96	94	92	92	32	32	32	32	32	32	14	12	12	4	4	4	12	12	12
15.琉球大学	94	94	94	93	93	93	37	37	37	24	24	24	10	10	10	4	4	4	18	18	18
16.東京都立大学	97	97	97	84	84	97	32	32	32	26	26	26	10	10	10	4	4	4	12	12	12
17.大阪公立大学	97	97	97	87	87	87	37	37	37	20	20	20	12	12	12	4	4	4	14	14	14

（次ページ続く）

4.修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

大学名	修了要件			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	105	100	100	98	92	92	36	34	34	32	32	32	10	10	10	4	4	4	16	12	12
19.慶應義塾大学	100	94	94	85	82	82	32	32	32	27	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
20.上智大学	101	100	100	96	95	95	30	32	32	37	34	34	13	13	13	4	4	4	12	12	12
21.専修大学	108	108	107	96	96	95	38	38	37	30	30	30	12	12	12	4	4	4	12	12	12
22.創価大学	103	98	98	96	93	93	37	35	35	31	30	30	10	10	10	4	4	4	14	14	14
23.中央大学	96	93	93	94	82	82	34	31	31	27	25	25	10	10	10	6	4	4	17	12	12
24.日本大学	94	96	96	88	90	90	28	30	30	32	32	32	12	12	12	4	4	4	12	12	12
25.法政大学	102	102	102	96	98	98	34	34	34	30	32	32	12	12	12	4	6	6	16	14	14
26.明治大学	103	96	96	86	90	90	42	38	38	18	26	26	10	10	10	4	4	4	12	12	12
27.早稲田大学	102	93	93	82	88	88	30	30	30	38	32	32	10	10	10	4	4	4	※1	12	12
28.愛知大学	108	108	108	98	98	98	44	44	44	28	28	28	10	10	10	4	4	4	12	12	12
29.南山大学	102	102	102	86	86	86	38	38	38	18	18	18	14	14	14	4	4	4	12	12	12
30.同志社大学	96	96	96	85	85	85	30	30	30	27	27	27	10	10	10	6	6	6	12	12	12
31.立命館大学	98	98	98	94	94	94	36	36	36	24	24	24	12	12	12	6	6	6	16	16	16
32.関西大学	100	100	100	94	94	94	34	34	34	26	26	26	12	12	12	6	6	6	16	16	16
33.関西学院大学	100	100	100	98	98	98	40	40	40	24	24	24	12	12	12	6	6	6	16	16	16
34.福岡大学	98	98	98	89	89	89	44	44	44	18	18	18	11	11	11	4	4	4	12	12	12
平均	98.9	97.6	97.5	90.3	90.2	90.4	34.9	34.8	34.8	26.7	26.5	26.4	11.3	11.4	11.4	4.5	4.5	4.4	13.2	13.0	13.0

（単位：単位）

※専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第23条において、法科大学院の課程の修了要件について、以下のとおり規定。

第二十三条　法科大学院の課程の修了の要件は、第十五条第一項の規定にかかわらず、次の各号のいずれにも該当することとする。

一　法科大学院に三年（三年を超える標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、九十三単位以上を修得すること。

二　第二十条の三第一項各号に規定する科目について、次に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める単位数を修得すること。

イ　法律基本科目の基礎科目　三十単位以上

ロ　法律基本科目の応用科目　十八単位以上

ハ　法律実務基礎科目　十単位以上

ニ　基礎法学・隣接科目　四単位以上

ホ　展開・先端科目　十二単位以上（選択科目に係る四単位以上を含む。）

2　（略）

※前年と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

※1　法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目の合計で34単位以上

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

4.修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

（２）履修登録単位数の上限

在学中受験対応前（Ｒ２）：「令和２年度入学カリキュラム（令和２年度入学の未修者、令和３年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ５）：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ６）：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

大学名	1年次			2年次（既修１年目）			3年次（既修２年目）		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
2.東北大学	32	32	30	36	36[44]	36[44]	44	44	44
3.筑波大学	36	36	36	36	36[40]	40	44	44	44
4.千葉大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
5.東京大学	34	34	34	36	36[42]	36[42]	44	44	44
6.一橋大学	33	33	33	36	36	36	40	36	36
7.金沢大学	42	42	42	36	36[44]	36[44]	44	44	44
8.名古屋大学	38	38	38	36	36	36	44	44	44
9.京都大学	36	36	36	36	38	38	44	44	44
10.大阪大学	40	40	40	36	36	36	40	40	40
11.神戸大学	40	37	37	36	36[38]	36[38]	44	44	44
12.岡山大学	40	40	40	36	36	36	42	42	42
13.広島大学	36	36	36	37	37	37	44	44	44
14.九州大学	38	38	38	36	36	36	40	40	40
15.琉球大学	38	38	38	36	36	36	44	44	44
16.東京都立大学	38	40	40	42(40)	38[44]	38[44]	44	44	44
17.大阪公立大学	39	39	39	36	44	44	38	44	44

大学名	1年次			2年次（既修１年目）			３年次（既修２年目）		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	34	36	36	36	36	36	44	44	44
19.慶應義塾大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
20.上智大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
21.専修大学	39	39	39	38	38	38	44	44	44
22.創価大学	44	44	44	36	36[44]	36[44]	44	44	44
23.中央大学	38	36	36	36	36	36	42	44	44
24.日本大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
25.法政大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
26.明治大学	42	38	38	36(40)	36(44)[44]	36(44)[44]	44	44	44
27.早稲田大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
28.愛知大学	44	44	44	36	36	36	36	36	36
29.南山大学	36	36	36	38	38	38	28	28	28
30.同志社大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
31.立命館大学	37	37	37	36(38)	36(38)[44]	36(38)[44]	44	44	44
32.関西大学	36	36[44]	36[44]	36	36[44]	36[44]	44	44	44
33.関西学院大学	42	42	42	36	36[40]	36[40]	44	44	44
34.福岡大学	36[40]	36[40]	36[40]	36[42]	36[44]	36[44]	36[44]	36[44]	36[44]

※履修科目の登録単位数の上限は、専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第20条の８において、１年につき36単位を標準とする旨が定められている。
従来より、１・２年次で法律基本科目の単位数を増加する場合、又は３年次については、44単位を上限とする運用が認められているが、加えて、R元年10月の省令改正（令和４年10月施行）により、法曹コース修了者等法科大学院が認めた者について、履修登録単位数の上限を44単位まで拡大することが可能である旨が規定された。
※表は、前年度と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字としている。また、増加の目的が()は法律基本科目の単位数を増加する場合、[]は法科大学院が認めた者（例：法曹コース修了者）の場合を示している。

（単位：単位）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

4.修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

（3）学事暦

在学中受験対応前（R２）：「令和２年度入学カリキュラム（令和２年度入学の未修者、令和３年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（R５）：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（R６）：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

大学名	1年次			2年次（既修１年目）			3年次（既修２年目）		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
2.東北大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
3.筑波大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
4.千葉大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
5.東京大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）	前/後（※）
6.一橋大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
7.金沢大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
8.名古屋大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）	前/後（※）
9.京都大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
10.大阪大学	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）
11.神戸大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
12.岡山大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
13.広島大学	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター	通年クォーター
14.九州大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）	前/後（※）
15.琉球大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
16.東京都立大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
17.大阪公立大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後

大学名	1年次			2年次（既修１年目）			3年次（既修２年目）		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
19.慶應義塾大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）	前/後（※）
20.上智大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
21.専修大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
22.創価大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）
23.中央大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後（※）	前/後（※）	前/後	前/後（※）	前/後（※）
24.日本大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
25.法政大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
26.明治大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
27.早稲田大学	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）	前/後（※）
28.愛知大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
29.南山大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
30.同志社大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
31.立命館大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
32.関西大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
33.関西学院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
34.福岡大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後

「前/後」＝前期/後期制、「通年クォーター」＝通年クォーター制
※　前期/後期制を基礎としつつ、一部の科目はクォーター制
※　前年から変更があった箇所は赤字。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

（４）３年次前期（クォーター制の場合は第２クォーター）の期末試験の実施時期

在学中受験対応前（Ｒ２）　：「令和２年度入学カリキュラム（令和２年度入学の未修者、令和３年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ５）　：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ６）　：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

大学名	R2	R5	司法試験の前か後か	R6	司法試験の前か後か
1.北海道大学	８月上旬～中旬	８月上旬～中旬	後	８月上旬～中旬	後
2.東北大学	８月上旬	８月上旬	後	7月下旬～８月上旬	後
3.筑波大学	６月末、８月中旬、９月末	６月末、８月中旬、９月末	前後	６月末、８月中旬、９月末	前後
4.千葉大学	８月下旬	８月上旬	後	８月上旬	後
5.東京大学	７月中旬～８月上旬	７月中旬～８月上旬	後	７月中旬～８月上旬	後
6.一橋大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
7.金沢大学	７月下旬～8月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
8.名古屋大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
9.京都大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
10.大阪大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
11.神戸大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
12.岡山大学	８月上旬	８月上旬	後	８月上旬	後
13.広島大学	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬	後	8月	後
14.九州大学	７月下旬～８月上旬	（一部６月中旬）８月上旬	前後	（一部６月中旬）８月上旬	前後
15.琉球大学	７月下旬～８月上旬	８月上旬	後	８月上旬	後
16.東京都立大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
17.大阪公立大学	８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後

大学名	R2	R5	司法試験の前か後か	R6	司法試験の前か後か
18.学習院大学	７月中旬～下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
19.慶應義塾大学	７月下旬	必修６月上旬選択７月下旬	前後	必修６月上旬選択７月下旬	前後
20.上智大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
21.専修大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
22.創価大学	７月下旬	法律基本科目６月上旬その他７月下旬	前後	法律基本科目６月上旬その他７月下旬	前後
23.中央大学	７月下旬～８月上旬	(一部５月下旬)７月下旬～８月上旬	前後	(一部５月下旬)７月下旬～８月上旬	前後
24.日本大学	７月中旬～下旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
25.法政大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
26.明治大学	７月下旬	７月下旬～８月上旬	後	7月下旬	後
27.早稲田大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
28.愛知大学	７月下旬～８月上旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
29.南山大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
30.同志社大学	７月下旬～８月中旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後
31.立命館大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
32.関西大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
33.関西学院大学	７月下旬	７月下旬	後	７月下旬	後
34.福岡大学	７月下旬	７月下旬～８月上旬	後	７月下旬～８月上旬	後

※　前年から変更があった箇所は赤字。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

353

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

（５）３年次前期（クォーター制の場合は第２クォーター）の必修科目の配置

在学中受験対応前（Ｒ２）　：「令和２年度入学カリキュラム（令和２年度入学の未修者、令和３年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ５）　：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
在学中受験対応後（Ｒ６）　：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

大学名	必修科目の配置の有無			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	○	○	○	12	6	6	0	0	0	4	4	4	8	2	2	0	0	0	0	0	0
2.東北大学	○	×	×	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
3.筑波大学	○	○	○	5	1	1	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.千葉大学	○	○	○	12	6	6	0	0	0	6	0	0	6	6	4	0	0	0	0	0	0
5.東京大学	○	○	○	6	4	4	0	0	0	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.一橋大学	○	○	○	18	15	15	0	0	0	3	4	4	5	3	3	0	0	0	10	8	8
7.金沢大学	○	○	○	10	6	6	0	0	0	8	4	4	2	2	2	0	0	0	0	0	0
8.名古屋大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0
9.京都大学	○	○	○	10	6	6	0	0	0	10	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.大阪大学	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11.神戸大学	○	○	○	2	3	3	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12.岡山大学	○	○	○	5	3	3	0	0	0	2	0	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0
13.広島大学	○	○	○	7	4	5	0	0	0	3	0	1	4	4	4	0	0	0	0	0	0
14.九州大学	○	○	○	11	11	11	0	0	0	6	6	6	5	5	5	0	0	0	0	0	0
15.琉球大学	○	○	○	3	3	3	0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
16.東京都立大学	○	×	×	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17.大阪公立大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0

（単位：単位）

（次ページ続く）

4．修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

大学名	必修科目の配置の有無			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	○	○	○	12	12	12	0	0	0	6	6	6	6	6	6	0	0	0	0	0	0
19.慶應義塾大学	○	×	×	13	0	0	0	0	0	8	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
20.上智大学	○	○	○	8	1	1	0	0	0	6	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
21.専修大学	○	○	○	12	未定	未定	0	0	0	6	未定	未定	6	未定	未定	0	0	0	0	0	0
22.創価大学	○	○	○	14	3	7	0	0	0	8	3	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0
23.中央大学	○	×	×	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24.日本大学	○	○	○	6	4	4	0	0	0	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25.法政大学	○	○	○	4	3	3	0	0	0	2	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
26.明治大学	○	○	○	5	3	3	1	0	0	3	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
27.早稲田大学	○	○	○	8(10)	2(4)	2(4)	0	0	0	6	0	0	2(4)	2(4)	2(4)	0	0	0	0	0	0
28.愛知大学	○	○	○	8	8	8	0	0	0	6	6	6	2	2	2	0	0	0	0	0	0
29.南山大学	○	○	○	10	10	10	0	0	0	4	4	4	6	6	6	0	0	0	0	0	0
30.同志社大学	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31.立命館大学	○	○	○	8	8	8	0	0	0	6	6	6	2	2	2	0	0	0	0	0	0
32.関西大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
33.関西学院大学	○	○	○	2	2	2	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34.福岡大学	○	○	○	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0
配置あり/平均	32校	28校	28校	7.1 (7,2)	4.2 (4.2)	4.3 (4.4)	0.0	0.0	0.0	4.2	2.2	2.3	2.6 (2.7)	1.7 (1.8)	1.6 (1.7)	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.2

（単位：単位）

※前年度と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。
※　()は2年次までの修得状況により異なる場合のもの。
※平均については「未定」と記載した大学を除いて算出。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

※各大学の回答（自由記述）のポイントを事務局にてとりまとめ。
※在学中受験を踏まえた工夫や配慮等に限り、在学中受験の導入以前から実施している工夫や配慮等は対象から除外。356

5．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

（１）在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

在学中受験が始まることを踏まえ、各項目で何らかの工夫や配慮を行っているか、行っている場合はいつのカリキュラムから変更したか

Ｒ３：「令和３年度入学カリキュラム（令和３年度入学の未修者、令和４年度入学の既修者に適用）」
Ｒ４：「令和４年度入学カリキュラム（令和４年度入学の未修者、令和５年度入学の既修者に適用）」
Ｒ５：「令和５年度入学カリキュラム（令和５年度入学の未修者、令和６年度入学の既修者に適用）」
Ｒ６：「令和６年度入学カリキュラム（令和６年度入学の未修者、令和７年度入学の既修者に適用）」

※括弧付きの場合は、入学カリキュラムに関係なく、当該年度在籍者に適用

大学名	修了要件単位数	各科目群の最低限修得が必要な単位数	履修登録単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の実施時期	授業科目の配置	授業時間の長さ･授業回数	左記以外
1.北海道大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	-
2.東北大学	-	-	R3	-	R4、（R6）	-	R4	-	R3
3.筑波大学	-	-	R4	-	-	-	R4	R5	-
4.千葉大学	-	-	-	-	-	-	R4、(R6)	-	R4、(R5)
5.東京大学	-	-	(R4)	-	(R5)	-	(R4)	-	(R5)
6.一橋大学	-	R3	-	-	R5	-	R3	-	-
7.金沢大学	R3	-	R3	-	-	(R4)	R3	-	-
8.名古屋大学	-	-	-	-	R3、R4	R3	R3	-	-
9.京都大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	R3	-
10.大阪大学	-	-	-	-	-	-	R4	R4	R4
11.神戸大学	-	-	R4	-	(R5)	-	R4	R4	(R5)
12.岡山大学	-	R3	-	-	-	-	R3	-	R3
13.広島大学	R5	R5	-	-	R5	(R5)	R4	-	-
14.九州大学	-	R5	-	-	R5	R4、R5	R5	-	-
15.琉球大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	R5
16.東京都立大学	-	-	R3	-	R3	R3	R3	R3	-
17.大阪公立大学	-	-	R4	-	R5	-	-	-	R4

※赤字は今年度の調査で新規に回答があったもの。（次ページ続く）

5．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

大学名	修了要件単位数	各科目群の最低限修得が必要な単位数	履修登録単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の実施時期	授業科目の配置	授業時間の長さ･授業回数	左記以外
18.学習院大学	R3	R3	R3	(R6)	-	-	R4	R4	-
19.慶應義塾大学	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-	-
20.上智大学	R3	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
21.専修大学	-	-	-	-	-	-	(R5)	-	-
22.創価大学	R3	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-
23.中央大学	R3	R3	R3	-	R5	R5	R5	-	-
24.日本大学	-	-	-	-	(R5)	(R5)	(R4)	-	-
25.法政大学	-	-	-	-	-	-	R3	-	-
26.明治大学	R5	R5	-	-	R5、(R6)	R5	R5	-	-
27.早稲田大学	R3	R3	-	(R6)	R3	-	R3	R3	-
28.愛知大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
29.南山大学	-	-	-	-	-	-	R4	-	R4
30.同志社大学	-	-	R4	(R6)	-	-	R4	-	-
31.立命館大学	-	-	R3	-	(R5)	-	-	-	R3
32.関西大学	-	-	R3	-	R5	-	R4	-	-
33.関西学院大学	-	-	R5、(R6)	-	-	-	R4	-	R4
34.福岡大学	-	-	R3	-	(R6)	-	R3	-	-
在学中受験を踏まえ変更した大学数	9	13	18	3	19	10	32	8	11

（単位：校）

※赤字は今年度の調査で新規に回答があったもの

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

（１）在学中受験が始まることを踏まえたカリキュラム上の工夫や配慮の例

＜修了要件単位数＞

○学生の授業負担軽減のため、修了要件単位数を削減。（金沢、広島、学習院、慶應義塾、創価、中央、明治、早稲田）

＜各科目群の最低限修得が必要な単位数＞

○学生の授業負担軽減のため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減。（広島、慶應義塾、学習院、創価）

○学生が柔軟に科目を選択できるようにするため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減し、修了要件を満たすために科目群を問わず修得が必要な単位数（修了要件単位数と各科目群の最低限修得が必要な単位数の合計の差分）を増加。（岡山、九州、中央）

＜履修登録単位数の上限＞

○在学中受験資格取得を可能とするため、法科大学院が認める者について、未修２年次（既修１年目）の履修登録単位数の上限を引き上げ。（東北、筑波、東京、金沢、神戸、東京都立、大阪公立、上智、明治、創価、同志社、立命館、関西、関西学院、福岡）

○司法試験後に修了要件となる科目を多く履修できるようにするため、 ３年次の履修登録単位数の上限を引き上げ。（中央）

＜開講日＞

○２学期制を前提としつつも、３年次前期の一部の科目について司法試験前に授業を終えられるようにするため、開講頻度等を工夫。（例：週１回開講から週２回開講に変更、授業開始日を早める）（東京、一橋、神戸、名古屋、九州、慶應義塾、中央）

○司法試験期間に授業を開講しないよう措置。（例：授業実施週から除外、３年次の授業は休講とし別日に開講、授業時間を90分から105分に増やして授業回数を減らす）（北海道、東北、神戸、広島、琉球、東京都立、大阪公立、学習院、中央、日本、明治、早稲田、立命館、関西）

○外部模試（４月の平日）の実施時期に授業を開講しないよう措置。（東北）

○司法修習開始に合わせ、全学の日程とは別に司法研究科の修了式・学位授与式を実施。（中央、同志社）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

＜期末試験の実施時期＞

○３年次前期の一部の科目について、開講頻度等を工夫し、司法試験前（５月下旬、６月上中旬）に期末試験を実施。（名古屋、九州、慶應義塾、創価、中央）

○司法試験前に前期の授業を終了し、司法試験後に期末試験を実施。（東京都立）

○司法試験期間に授業を開講しないことから、定期試験の日程を後ろ倒しにして実施。（日本、明治）

＜授業の配置＞

○在学中受験の所定科目単位を未修２年次（既修１年目）までに修得できるよう、授業科目の配当年次の変更（例：未修３年次→未修２年次）や配当年次の拡大（例：未修３年次→未修２年次・３年次）等を実施。（東北、筑波、千葉、一橋、金沢、京都、大阪、神戸、岡山、東京都立、大阪公立、慶應義塾、上智、専修、創価、日本、法政、南山、同志社、関西、関西学院、福岡）

○在学中受験を予定している学生の負担軽減（や司法修習との円滑な接続）のため、

●一部の法律実務基礎科目を３年次前期から３年次後期に配置変更（北海道、千葉、大阪、琉球、東京都立、慶應義塾、創価、明治、早稲田、同志社、関西学院（希望者のみ）、福岡）

●一部の展開・先端科目（司法試験選択科目を除く）を３年次前期から３年次後期に配置変更（名古屋、創価）

●必修科目と３年次生が主として履修する科目を３年次前期から３年次後期に配置変更（東北）

●一部の選択必須科目を３年次前期の後半から３年次前期の前半に配置変更（広島）

●２単位科目を１単位科目２つに分割し、学期毎に開講する形に配置変更（学習院）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

＜その他＞

○ ３年次のエクスターンシップの研修期間を司法試験前から司法試験後に変更（千葉）

○ ３年次の海外エクスターンシップや課題研究科目を秋冬学期での開講に変更。（大阪）

○司法試験実施日の欠席を、制度的に公欠として認める。（千葉）

○司法試験期間中となる授業日について、休講として別に補講を行う、オンデマンド方式で実施するなど、司法試験受験により出席できないことによる不利益が生じないような措置を実施。（東京）

○在学中受験を予定している学生への配慮として、３年次前期は週３日授業を入れるだけでも修了可能となるような時間割を編成。（神戸）

○論述を中心に専門的学識の応用能力を涵養するため、既存の総合演習科目２科目４単位を再編し、３年次の選択必修科目として、公法・民事法・刑事法３系の応用演習３科目６単位を開設。（岡山）

○ ３年次配当科目（選択科目含む）の担当教員に対し、７月１日から司法試験終了までの間における課題の出題等について配慮を要請。（琉球）

○既修者への前倒し受講科目制度の導入（立命館）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

（２）在学中受験が始まることを踏まえた学生指導の方針、工夫や配慮の例

＜３年次の履修登録に係る指導＞

○ガイダンス、オリエンテーション、個別相談等を通じた指導を実施。（筑波、名古屋、東京都立、早稲田、立命館）

○Ｒ５に在学中受験をした学生の状況も踏まえ、３年次前期の履修を過度に控えるような指導はせず、授業と受験を両立した環境を構築。（東北）

○３年次前期に履修する科目を必修科目に抑え、司法試験に向けての自主学習の時間を確保できるよう工夫するよう指導。（愛知）

○法律実務基礎科目（選択科目）は、司法試験後（在学中受験者）や３年次後期（修了後受験者）に積極的に履修するよう指導。（東京都立）

○在学中受験を予定している学生向けの科目（選択必修またはクラス分け）を設定し、履修を勧奨。（上智）

○大学独自の「特別演習」（思考力・論理力・表現力を訓練する少人数演習）を履修するよう勧奨。（関西学院）

○大学独自の「司法試験在学中受験プログラム」の履修生に対し、司法試験の勉学に役立つ演習科目の履修を推奨。また、選択科目については、後期に履修する等工夫するよう助言。（福岡）

＜司法試験後～合格発表前の工夫＞

○ガイダンス、個別相談、受験者との意見交換等を通じた指導を実施。（上智、中央、明治）

○在学中受験資格での合格は修了が要件であることを周知し、３年次後期に開講されている必修科目の単位を確実に修得できるよう指導を実施。（東北）

○修了に向け、選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の履修を指導するとともに、司法試験受験科目の力を落とさないようにするための学修の継続を指導（福岡）

○法科大学院での学修が疎かにならないよう、実務法曹としての活動を具体的にイメージさせるための説明会等を実施するとともに、３年次後期の実務系科目の授業内容と有機的に連携。（一橋）

○法曹三者のみならず、あらゆる業界での働き方について幅広く紹介・相談を実施できるよう、就職情報説明会を開催。（早稲田）

○３年次後期開始時に、在学中受験を行った者を対象に、合格した場合・不合格となった場合のそれぞれに合わせた履修指導ガイダンスを実施。（中央）

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

５．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

＜合格発表後の学生指導＞

○合格した学生に対しては、修了とその後の司法修習に向け、学修を進めるよう指導。不合格の学生に対しては、試験結果の振り返りや反省点を洗い出すとともに、気持ちを切り替えて次年度以降の受験の準備を進めることができるよう指導・助言。（東北）

○合格した学生に対しては、モチベーションを低下させないよう実務法曹として必要な能力を身に着けることの必要性を指導・助言。不合格の学生に対しては、フォローアップ科目（１単位）を設定。（一橋）

○個別面談を実施し、在学中受験資格での合格は修了が要件であるため、修了に向け、継続的学習を促す。（愛知、大阪）

○在学中受験資格での合格は修了が要件であるため、修了に向け、選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の学修に力を注ぐよう指導。（福岡）

○従来から合格者に対しては、司法修習に関する注意事項等を実務家教員から指導する場を設けていることから、在学中受験の合格者についても参加を勧奨。不合格者に対しては、担任や演習科目担当者からフォローを実施。（上智）

○実務家による司法修習前セミナーを開催し、司法研修所に入所前にスムーズに研修に入れるよう事前指導を実施。（早稲田）

＜上記以外の学生指導＞

○半期ごとに在籍する学生全員と個別面談を行い、学修及び生活の状況を確認するとともに授業やカリキュラム等への要望をきめ細かく聴取し、必要な対応を実施。（岡山）

○司法試験受験前の５月に、専任教員、実務講師による個別面談、学修相談の機会を提供。（中央）

○２年次の履修登録前にガイダンスを実施し、在学中受験を希望する場合の履修上の注意事項について説明。また、２年次後期の成績発表後に、３年次に進級が確定した学生に対し在学中受験の希望を確認した上で、在学中受験を希望する学生に対して個別面談を実施し、３年次の学習計画について指導・助言。（愛知）

○司法試験の実施時期を踏まえ、司法試験論文式問題解説会の開催時期を３月に変更。（金沢）

○３年次前期も３年次向け配当科目を開講し、在学中受験をしない学生の履修スケジュールに空白期間が生じないよう配慮（東北、中央）

○３年次後期に修了後受験を予定する学生を対象とした演習科目を設置することで、継続的なフォローを実施。(一橋)

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

5．在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

（３）在学中受験を希望しない学生に対するカリキュラム上の工夫や配慮の例

○在学中受験を予定していない学生に対する個別指導として、司法試験前後において選択必修科目としてアウトプット系の演習科目を設置し、それら科目の成績評価を基に個別面談を実施し、各学生の３年次後期開講科目の履修が効果的なものとなるよう指導。(広島)

○在学中受験を予定していない学生が、未修２年次（既修１年目）に法律基本科目の履修に重点を置くことができるよう、カリキュラム自体は全入学者が在学中受験可能となるように設計しつつも、司法試験選択科目を３年次においても履修できるよう措置。(東京都立)

○選択必修科目として、公法・民事法・刑事法の法律基本科目を開講して、春学期第２クォーターでその履修を可能とするよう措置。(慶應義塾)

○授業科目の一部について、在学中受験を希望する学生とそれ以外の学生でクラス分けを行い、学生の習熟度に応じた教育内容となるよう工夫。(上智)

○未修者に対し、２年次における消化不良を回避することを目的として、２年次必修科目の一部を３年次に繰り延べることができる「未修者２年次必修科目履修制度」を希望する学生に適用。（早稲田）

○未修者を中心としたにカリキュラムとしていることを前提として、「司法試験在学中受験プログラム」を導入し、在学中受験の希望に応えられるよう工夫（福岡）

○未修者２年次（既修者１年目）における展開・先端科目の司法試験選択科目の履修について、

- 司法試験選択科目４単位の履修に代えて、後期に実務基礎科目群の２科目４単位を履修することを指導（岡山）
- 無理に当該年次で履修する必要はない旨指導（広島）
- 司法試験選択科目よりも、答案や法律文書に係る書く力を養うことを主な目的とした授業科目「法学演習」の履修を推奨 (学習院)

○教員との個別面談、履修相談会等を通じて意見交換及び指導を実施。（大阪）

○在学中受験をする・しないを個人の判断に委ね、いずれの選択をしても大学としてサポートすることを入学前や入学時のガイダンス等の機会に繰り返し学生に説明。また、履修相談会やその他の個別相談の機会に、修了後受験に向けた履修計画・学習計画について助言。(東京都立)

○在学生ガイダンスおよび新入生ガイダンスにおいて、学生全員に在学中受験について説明を実施。(南山)

○学習ロードマップ（各学年、各学期ごとの到達目標）を作成・公開し、学生が自身の実力を把握し取り組めるよう工夫。(関西学院)

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

６．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

※各大学の回答（自由記述）のポイントを事務局にてとりまとめ。

6．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

（１）司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（全般的なこと）（一例）

＜法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点＞

○ ロールモデルとなる学生（合格者）が存在することで、学生の学修意欲や態度が高まった。
○ 在学中受験を意識し、法科大学院における学修（ひいては単位取得）に、より集中して取り組むようになった。
○ 司法試験終了後に、司法試験科目以外の科目（実務系科目、展開・先端科目、リサーチペーパー等を含む）を積極的に履修するようになった。
○ 予備試験を理由として授業を欠席する学生や、予備試験に合格し法科大学院を退学する学生が減少する可能性がある。

＜在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点＞

○ 司法試験に十分に対応できるレベルに達していない学生も、在学中受験を目指すようになった。
○ 司法試験科目以外の科目を軽視したり、受験対策にばかり目が向くようになる懸念がある。
○ 在学中受験を目指す学生の負担（例：通常や期末試験との両立、２年次後期から３年次後期の授業負担 ）の軽減が必要である。
○ ３年次後期の授業開始までに司法試験結果は判明しないため、３年次後期の履修科目に迷いが生じる。

＜上記以外に、法科大学院教育に与えた影響があったと考える点＞

○ 正規の授業を欠席する学生（例：全国模試の受験、就職活動　等）が増加した。
○ 実力をじっくり養成するよりも、早期に合格するために要領よく指導するよう求められる傾向が懸念される。
○ 学修が追い付かない学生の学修意欲が低下した。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

6．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

（２）司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験合格者）（一例）

＜法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点＞

○在学生にアドバイスをする様子が見られ、在学生も体験談をより身近なものとして受け入れやすくなった。
○教員が、合格した学生から指導上の示唆を得やすくなった。
○司法試験以外の学修により一層積極的に取り組む様子が見られた。

＜在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点＞

○学事暦上、３年次後期の授業開始までに司法試験結果は判明しないため、履修科目を選択・変更することが難しい。
○法律基礎実務科目や、グループ等で成果を発表する模擬裁判等の科目において参画意欲が減退している者が散見される。
○３年次の秋冬学期に開講される科目について、履修意欲が減退している学生もいる。
○在学中受験に合格しているにもかかわらず、修了が危ぶまれる者や、修了に必要な単位を取得できず修了できなかった者がいた。

＜在学中受験導入前に比べ、法律実務や学生の関心に沿った学修内容に取り組む学生は増えたか。＞

○展開・先端科目の履修者が増加した。
○リサーチ・ペーパーや法政理論専攻修士課程との共通科目の履修者が増加した。
○外国法や実務系科目など、司法試験に直結しない科目の学修に積極的に取り組む学生が増加した。
○展開・先端科目の履修について、在学中受験導入前に比べ、単位を取得をできさえすれば良いという傾向が強まっている。

＜修了後・司法修習後に向けた就職活動が、法科大学院における学修に影響していたか。＞

○授業の欠席者が一定数いた。
　●特に、最終学年では模擬裁判等のように出席した上で講義におけるパフォーマンスを評価・重視する科目において欠席・遅刻・早退が増加した点で、プロセスとしての教育を阻害しており、深刻に受け止めている。
　●地方大学から関西・関東の説明会に出席するためには半日以上授業を休まなければならず、影響は都市部の大学に比べて大きい。
○就職活動の時期が早くなったことにより、2年次設置科目の運営や学修などに影響が生じていないかを注視している。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

6．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

（３）司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験不合格者）（一例）

＜法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点＞

○　現時点における、司法試験に対する自身の到達度を把握する機会としての意味はあり、これまでの学修の振り返りと今後の学修に活かし取り組むという契機にもなっている。

- 授業の様子からは、不合格という事で投げやりになるのではなく、翌年の受験に向けて改善しようという意欲を感じた。
- 結果が判明した直後から、教員に起案を提出する等指導を求めたり、秋学期に受講登録した科目についても意欲的に学修している。

○　３年次夏季休業期間や秋学期に設置された実務系科目や展開・先端科目に積極的に取り組んでいる。

＜在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点＞

○　受験後から法科大学院修了とその後に向けたフォローアップ体制を構築する必要がある。

○　精神面、学修面からのケアが必要である。

- 周囲の多くが在学中受験に合格している中、不合格であったことが精神的に苦痛を感じている者もいる。また、学修意欲の点において、在学中受験合格者の中に講義へのモチベーションが顕著に低下している者を間近に見つつ、不合格者はなお高い学修意欲を維持しなければならない状況が辛いという声があった。
- 不合格者への配慮と合格者への祝賀の扱いが難しい。
- 合格発表後、不合格者は、司法試験とは無関係な科目について相対的に集中力を欠いていた。意欲的に授業に取り組む合格者を見て、余計に自己評価を下げるのではないか懸念される。
- 短答式試験の不合格者の中には、秋学期の授業当初から出席してこないという者もいた。
- 教員は合格したことを前提とする発言をしないでほしいとの意見が寄せられた。

○　司法試験受験後～合格発表までの間授業がないため、その期間における研鑽の中だるみが以前と比べて一層生じるようになった。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

6．司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

（４）司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験不受験者）（一例）

＜法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点＞

○ 同学年の在学中受験者（特に合格者）の存在が、学修意欲の向上につながった。

○ 在学中受験者の学習計画・学習方法を参考にして、計画的・効率的に学習しようとする者がやや増加した。

○ 事前に受験意思の有無の確認や相談などの対応を行っており、不受験の明確な意思があった者が多かったと考えられることから、在学中受験者の動向にさほど影響を受けなかったと思われる。

○ 修了後の初回受験での合格を目標として、履修科目をあえて詰め込まず、修了まで余裕をもって少しずつ履修していく者が少なくない。

＜在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点＞

○ 在学中受験の導入に合わせて、３年次前期に配当していた必修科目を後期に移動したことが、在学中受験不受験者においては、司法試験に向けた勉強が忙しくなる時期に必修科目を履修することとなり、負担が重たくなっている。

○ 一部の実務基礎科目の開講時期の前倒ししたため、負担が短期に集中することとなった。また、展開・先端科目や実務基礎科目を秋学期にまとめて履修することとしたため、修了後の司法試験に向けた勉強に集中的することがやや難しくなっている部分があると思われる。

○ 在学中受験者に配慮するため、試験の実施時期をずらしたり長期の休講措置を採るなどした場合、在学中受験不受験者にとっては不要不急の措置であるため、かえって継続的な教育効果を削ぐ面がある。

（５）合格者・不合格者・不受験者が学年内に混在することによる、学修指導・学生指導等への影響について（一例）

○ 在学中受験者と不受験者、在学中受験の合格者と不合格者が混在する中で、授業内容やカリキュラム編成等について学生のニーズにどう応えていくか模索していく必要がある。

○ 不合格者、不受験者に対する個別指導、面談の必要が生じた。

○ 就職活動の早期化に伴い、不受験者や不合格者を中心として就職活動を理由として講義を欠席する者がいることに対する不平不満が非常に強く感じられる。

○ 特段支障はなかった。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成